

令和3年度

男女共同参画に関する町民意識調査

報告書

令和4年2月

すさみ町総務課

目次

I. 調査の概要

1. 調査の概要

1-1 調査の目的.....	4
1-2 調査の方法.....	4
1-3 有効回答率.....	4

2. 調査内容.....	5
--------------	---

3. 報告書における表及び図の見方.....	6
------------------------	---

II. 調査結果の分析

1. 回答者の属性

1-1 性別.....	8
1-3 家族構成.....	9
1-4 結婚の有無.....	9
1-5 夫婦の職業の有無.....	10
1-6 子どもの有無及び一番下の子どもの年齢.....	10
1-7 職業.....	11

2. 男女平等意識について

2-1 男女の地位の平等感.....	12
2-2 男女の決められた役割分担についての考え.....	16
2-3 男女の役割等についての考え.....	17

3. 家庭生活について

3-1 男性の家事・育児等の積極的参加推進.....	21
----------------------------	----

4. 子育てや子どもの教育について

4-1 理想の子どもの人数、実際の子どもの人数.....	23
4-2 子どもの減少の理由についての考え.....	25
4-3 子育てについての考え.....	27
4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること.....	32

5. 就労について

5-1	女性の理想の生き方・実際の生き方.....	33
5-2	働く場で男女が平等でないと思うこと.....	35
5-3	女性が継続的に就労するために必要だと思うこと.....	37
5-4	男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて.....	39
6. 社会活動、地域活動等について		
6-1	現在参加している社会活動、地域活動.....	41
6-2	社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと.....	43
6-3	防災・災害対策で女性に配慮する必要があること.....	45
7. 人権、DV（配偶者等からの暴力）について		
7-1	暴力と思う行為.....	47
7-2	配偶者や恋人からの暴力の経験.....	52
7-3	実際の相談先.....	53
7-4	相談しなかった理由.....	54
7-5	実際に求める支援.....	55
7-6	性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと.....	56
8. 男女共同参画施策等について		
8-1	男女共同参画の言葉についての認知度.....	57
8-2	男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと.....	59
9. 自由意見.....		
		60

I 調査概要

1. 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、町民の男女共同参画及びDV（ドメスティック・バイオレンス）に対する意識を把握し、今年度予定しているすさみ町男女共同参画基本計画の改定に当たっての基礎資料とすることを目的に実施した。

1-2 調査の方法

(1) 調査対象

すさみ町内在住の20歳以上の男女各250人（令和3年4月1日現在）

(2) 調査期間

令和3年7月16日（金）～8月13日（金）

(3) 調査方法

郵送による調査票の配布・回収

1-3 有効回答率

今回の調査は、500人を対象に調査票を郵送した。回答のあった157件のうち、「拒否（白紙回答を含む。）」などの無効票は1件となり、有効回答率は31.2%となった。

発送数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
500	157	1	156	31.2%

2. 調査内容

調査項目	質問項目
1. 回答者の属性	性別、年齢、家族構成、結婚の有無、夫婦の職業の有無、子どもの有無、一番下の子どもの年齢、職業
2. 男女平等意識	男女の平等感 男女の決められた役割分担についての考え 男女の役割等についての考え
3. 家庭生活	男性が家事、育児、介護に積極的に参加するために必要なこと
4. 子育てや子どもの教育	理想の子どもの人数、実際の子どもの人数 子どもの減少の理由についての考え 子育てについての考え 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること
5. 就労	女性の理想の生き方・実際の生き方 働く場で男女が平等でないと思うこと 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて
6. 社会活動、地域活動	現在参加している社会活動、地域活動 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること
7. 人権、DV (配偶者からの暴力)	暴力と思う行為 配偶者や恋人からの暴力の経験 実際の相談先 相談しなかった理由 実際に求められる支援 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと
8. 男女共同参画施策	男女共同参画の言葉についての認知度 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

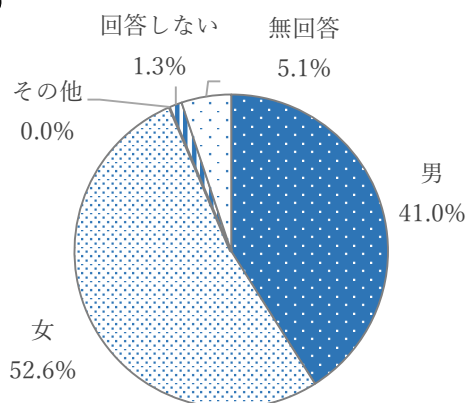
3. 報告書における表及び図の見方

- (1) 図表の中で「N」とは、集計対象総数（集計対象を限定する場合はその該当対象数）を表している。比率は原則、各項目の無回答・不明を含む集計対象総数に対する百分比（%）で表している。（例外は図表外に注意書きで記載）
- (2) 百分比（%）は、原則として小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。また、回答の百分比（%）は、その質問の回答者数（N）を基数として算出しているため、複数回答の設問は百分率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 百分比（%）どうしの比較における差は、原則として「…ポイント」という表現とした。
- (4) グラフのスペースの都合上、0%を表示していない場合がある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 調査結果の考察文中にある二重括弧（『・・・』）は2つの選択肢を統合したことを表す。
（例：「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」→『肯定的意見』）
- (7) 性年代別、結婚の有無別、職業別の図表では、それぞれ性別不詳、結婚の有無不詳、職業不詳の方がいるため、「回答者の属性」の数値と異なる場合がある。

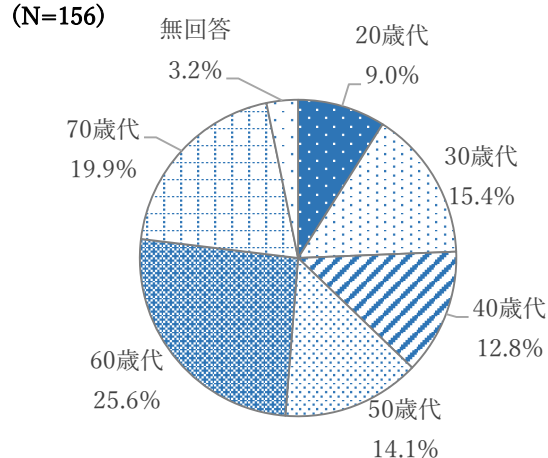
II 調査結果の分析

1. 回答者の属性

1-1 性別
(N=156)



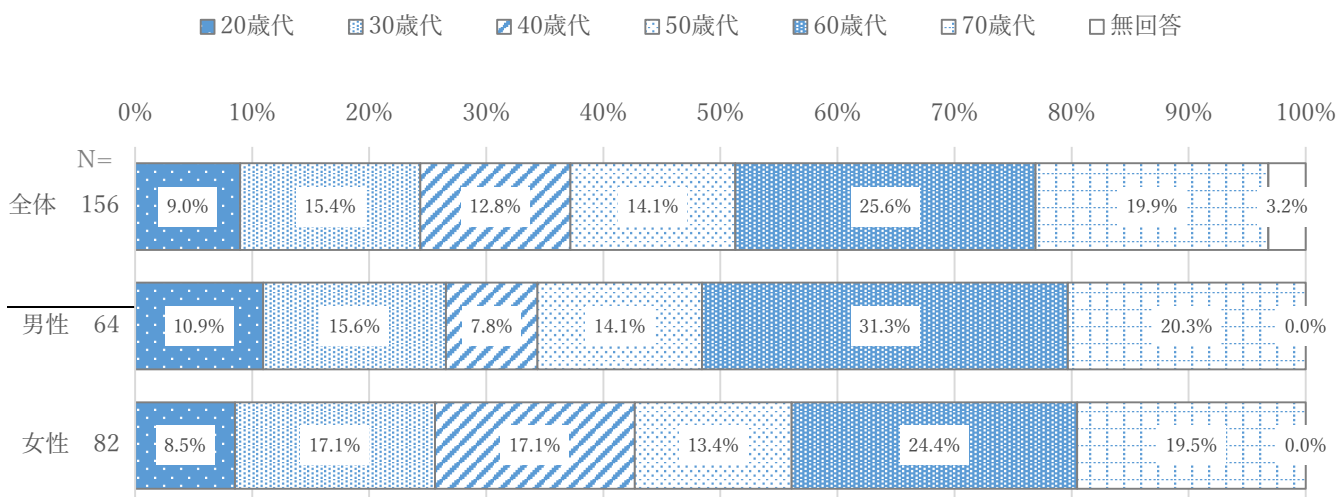
1-2 年齢
(N=156)



性別は、「女性」が52.6%、「男性」が41.0%となり、「回答しない」が1.3%、「その他」が0.0%となっている。男性と女性の差は11.6ポイントあり、「全体」の回答には女性の意見がやや強めに反映されていることを考慮する必要がある。

年齢は、「60歳代」が25.6%と最も高く、次いで「70歳以上」が19.9%、「30歳代」が15.4%、「50歳代」が14.1%となっている。50歳以上の回答は59.6%となり、「全体」の回答には中高年の意見がより反映されていることを考慮する必要がある。

性別 年齢

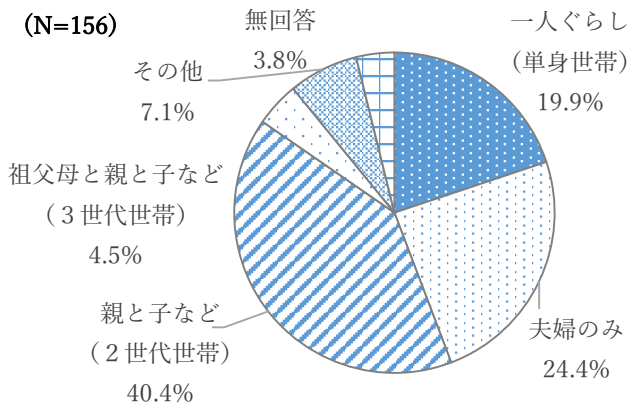


(単位：人)

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	無回答
全体	156	14	24	20	22	40	31	5
男性	64	7	10	5	9	20	13	-
女性	82	7	14	14	11	20	16	-
その他	10	-	-	1	2	-	2	5

1-3 家族構成

家族構成は、「親と子など（2世代世帯）」が40.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が24.4%、「一人暮らし（単身世帯）」が19.9%となっている。



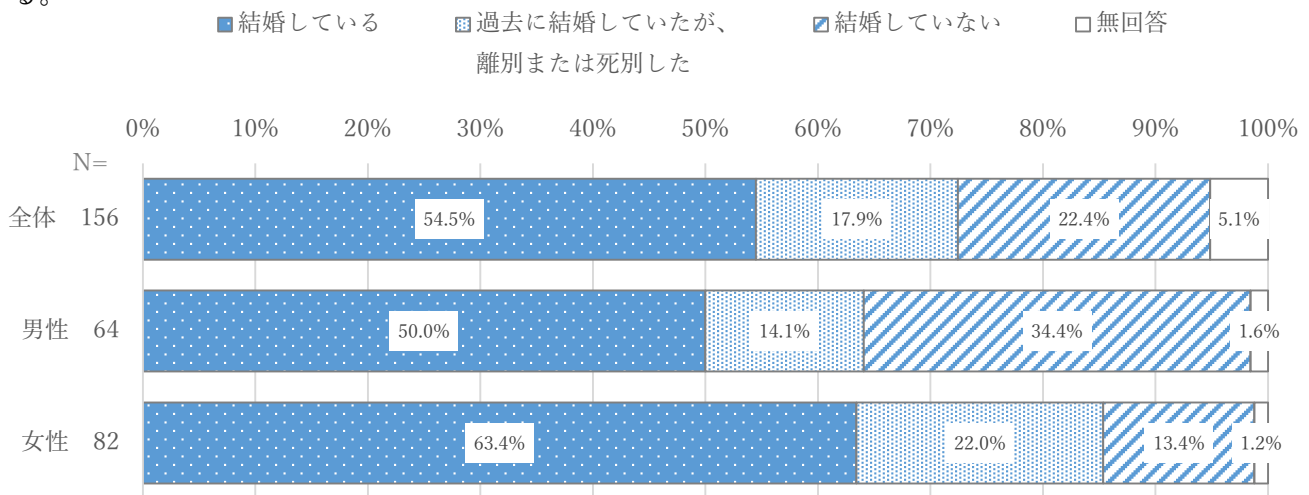
(単位：人)

一人暮らし (単身世帯)	31
夫婦のみ	38
親と子など (2世代世帯)	63
祖父母と親と子など (3世代世帯)	7
その他	11
無回答	6

1-4 結婚の有無

結婚の有無は、「結婚している」が54.5%と最も高く、次いで「結婚していない」が22.4%、「過去に結婚していたが、離別または死別した」が17.9%となっている。

性別でみると、「結婚している」は女性（63.4%）が男性（50.0%）より13.4ポイント高くなっている。



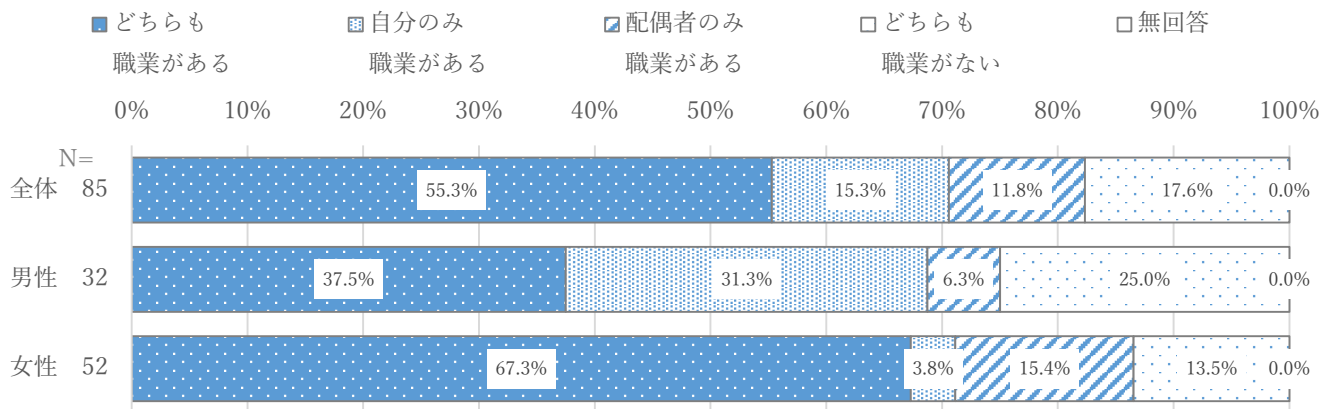
(単位：人)

	全体	結婚している	過去に結婚していたが、離別または死別した	結婚していない	無回答
全体	156	85	28	35	8
男性	64	32	9	22	1
女性	82	52	18	11	1

1-5 夫婦の職業の有無

夫婦の職業の有無は、「どちらも職業がある」が55.3%と最も高く、次いで「どちらも職業がない」が17.6%、「自分のみ職業がある」が15.3%となっている。

性別で見ると、男女ともに「どちらも職業がある」が最も高いが、次いで「自分のみ職業がある」では男性（31.3%）が女性（3.8%）より27.5ポイント高く、男女間で大きな差がみられた。



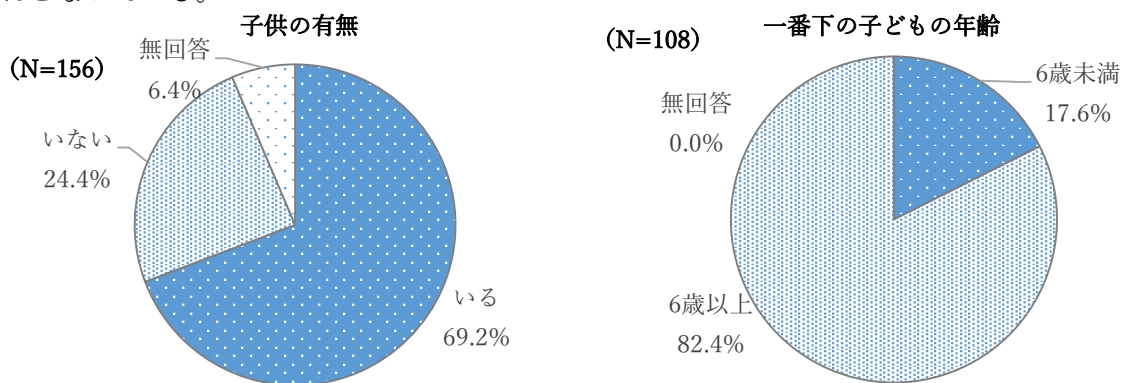
(単位：人)

	全体	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者のみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
全体	85	47	13	10	15	-
男性	32	12	10	2	8	-
女性	52	35	2	8	7	-

1-6 子どもの有無及び一番下の子どもの年齢

子どもの有無は、「いる」が69.2%、「いない」が24.4%となっている。

子どもがいると回答した人のうち、一番下の子どもの年齢は、「6歳以上」が82.4%、「6歳未満」が17.6%となっている。



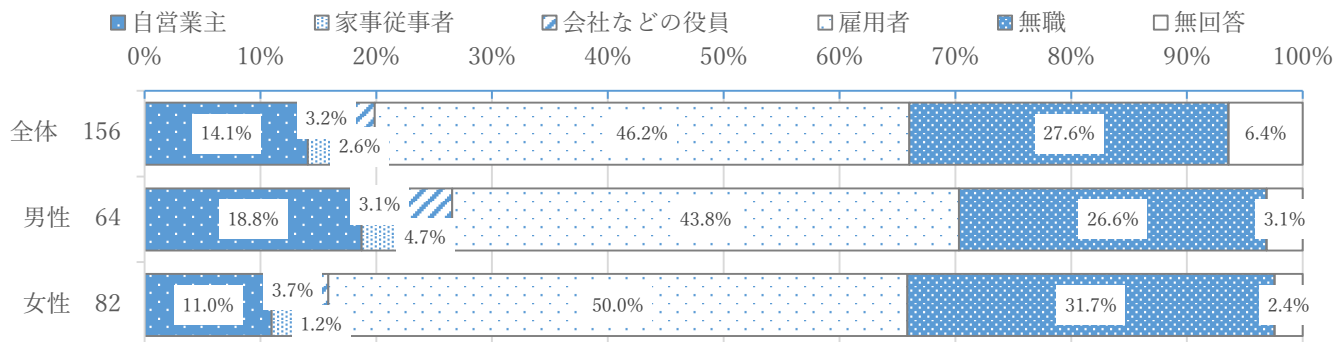
(単位：人)

	全体	いる			いない	無回答	
		6歳未満	6歳以上	無回答			
全体	156	108	19	89	-	38	10
男性	64	38	4	34	-	22	4
女性	82	67	14	53	-	14	1

1-7 職業

職業は、『雇用者』が46.2%と最も高く、次いで『無職』が27.6%となっている。

性別で見ると、男女ともに『雇用者』が4割を超えて最も高いが、『自営業主』では男性（18.8%）が女性（11.0%）より7.8ポイント高く、男女間で最も差がみられた。



(単位: 人)

	全体	自営業主	家事従事者	会社などの役員	雇用者	無職	無回答
全体	156	22	5	4	72	43	10
男性	64	12	2	3	28	17	2
女性	82	9	3	1	41	26	2

性年代別で見ると、女性の20～40歳代では「常勤勤め（社員等）」が最も高く、50歳代では「非常勤の勤め（パート、アルバイト）」、60歳以上では「専業主婦」が最も高くなっている。男性の20～60歳代では「常勤勤め（社員等）」が最も高く、70歳以上では「その他」が最も高くなっている。

性年代別 職業

(上段: 件数、下段: %)

	件数	農林漁業	商工サービス業	その他の自営業 (自由業等)	農林漁業	商工サービス業	その他の自営業	役員 会社などの	常勤の勤め (社員等)	非常勤の勤め (パート、アルバイト)	専業主婦・ 主婦	学生	その他	無回答
全体	156	6	1	15	—	1	4	4	47	25	19	3	21	1—
男性	20歳代	7	—	—	—	—	—	—	5	1	—	1	—	—
			—	—	—	—	—	—	71.4%	14.3%	—	14.3%	—	—
	30歳代	10	1	—	1	—	—	—	7	—	—	—	1	—
			10.0%	—	10.0%	—	—	—	70.0%	—	—	—	10.0%	—
	40歳代	5	—	—	—	—	1	—	2	—	—	—	1	1
			—	—	—	—	20.0%	—	40.0%	—	—	—	20.0%	20.0%
	50歳代	9	2	—	1	—	—	—	4	—	—	—	2	—
		22.2%	—	11.1%	—	—	—	44.4%	—	—	—	—	22.2%	
60歳代	20	1	—	3	—	—	1	—	6	3	2	—	4	
		5.0%	—	15.0%	—	—	5.0%	—	30.0%	15.0%	10.0%	—	20.0%	
70歳以上	13	1	—	2	—	—	—	1	—	2	—	—	6	
		7.7%	—	15.4%	—	—	—	7.7%	—	15.4%	—	—	46.2%	
女性	20歳代	7	1	—	—	—	—	—	5	—	—	1	—	—
			14.3%	—	—	—	—	—	71.4%	—	—	14.3%	—	—
	30歳代	14	—	—	2	—	—	1	—	5	4	1	1	—
			—	—	14.3%	—	—	7.1%	—	35.7%	28.6%	7.1%	7.1%	—
	40歳代	14	—	1	—	—	—	—	—	6	4	2	—	1
			—	7.1%	—	—	—	—	—	42.9%	28.6%	14.3%	—	7.1%
	50歳代	11	—	—	1	—	—	—	—	3	6	—	—	1
		—	—	9.1%	—	—	—	—	27.3%	54.5%	—	—	9.1%	
60歳代	20	—	—	2	—	—	1	1	4	3	7	—	2	
		—	—	10.0%	—	—	5.0%	5.0%	20.0%	15.0%	35.0%	—	10.0%	
70歳以上	16	—	—	2	—	—	1	—	—	1	7	—	3	
		—	—	12.5%	—	—	6.3%	—	—	6.3%	43.8%	—	18.8%	

2. 男女平等意識について

2-1 男女の地位の平等感

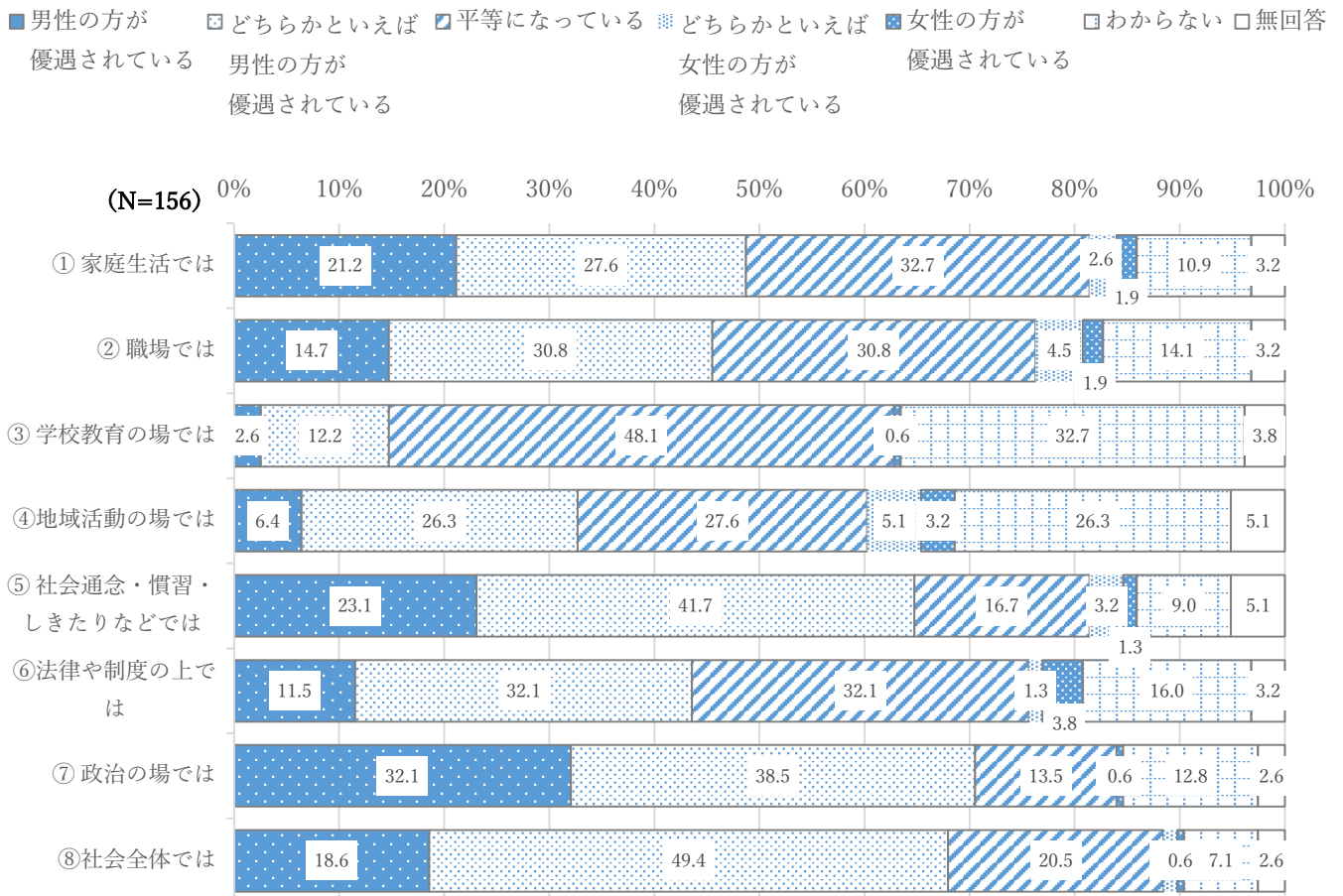
問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 「⑤社会通念・習慣・しきたり」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じている人が6割を超えている。
○すべての分野で『男性優遇』の割合は女性のほうが高く、「平等である」は男性のほうが高くなっている。

男女の地位の平等感について、全体では「平等」は「③学校教育の場」が48.1%と最も高く、次いで「家庭生活の場」が32.7%、「⑥法律や制度の上」が32.1%と続いた。

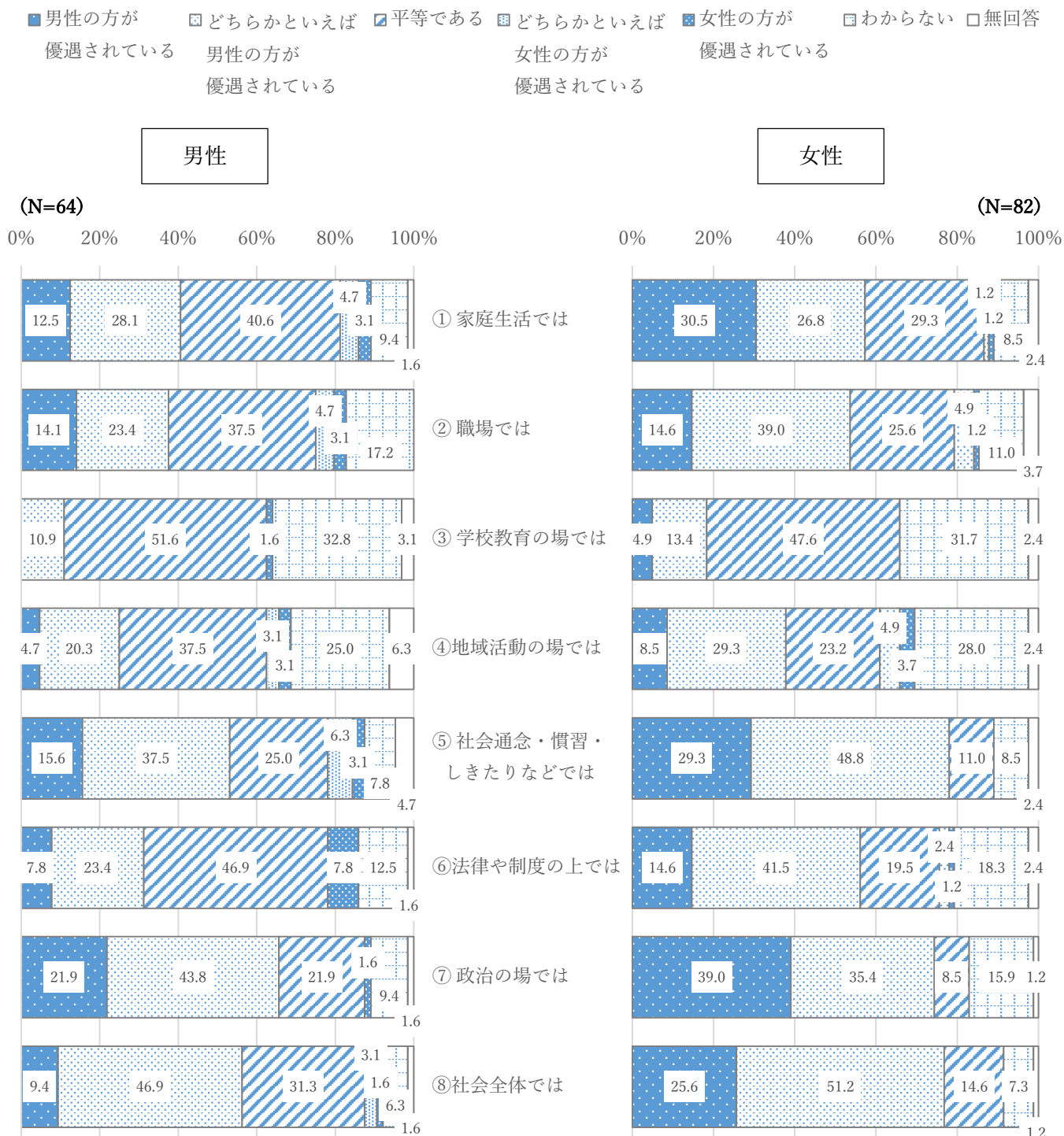
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、「⑦政治の場」が70.5%、「⑧社会全体」が67.9%、「⑤社会通念・習慣・しきたりなど」が64.7%といずれも6割を超えて高くなっている。一方、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』では、すべての分野で1割未満となり、大きな差がみられた。

図2-1-1 男女の地位の平等感



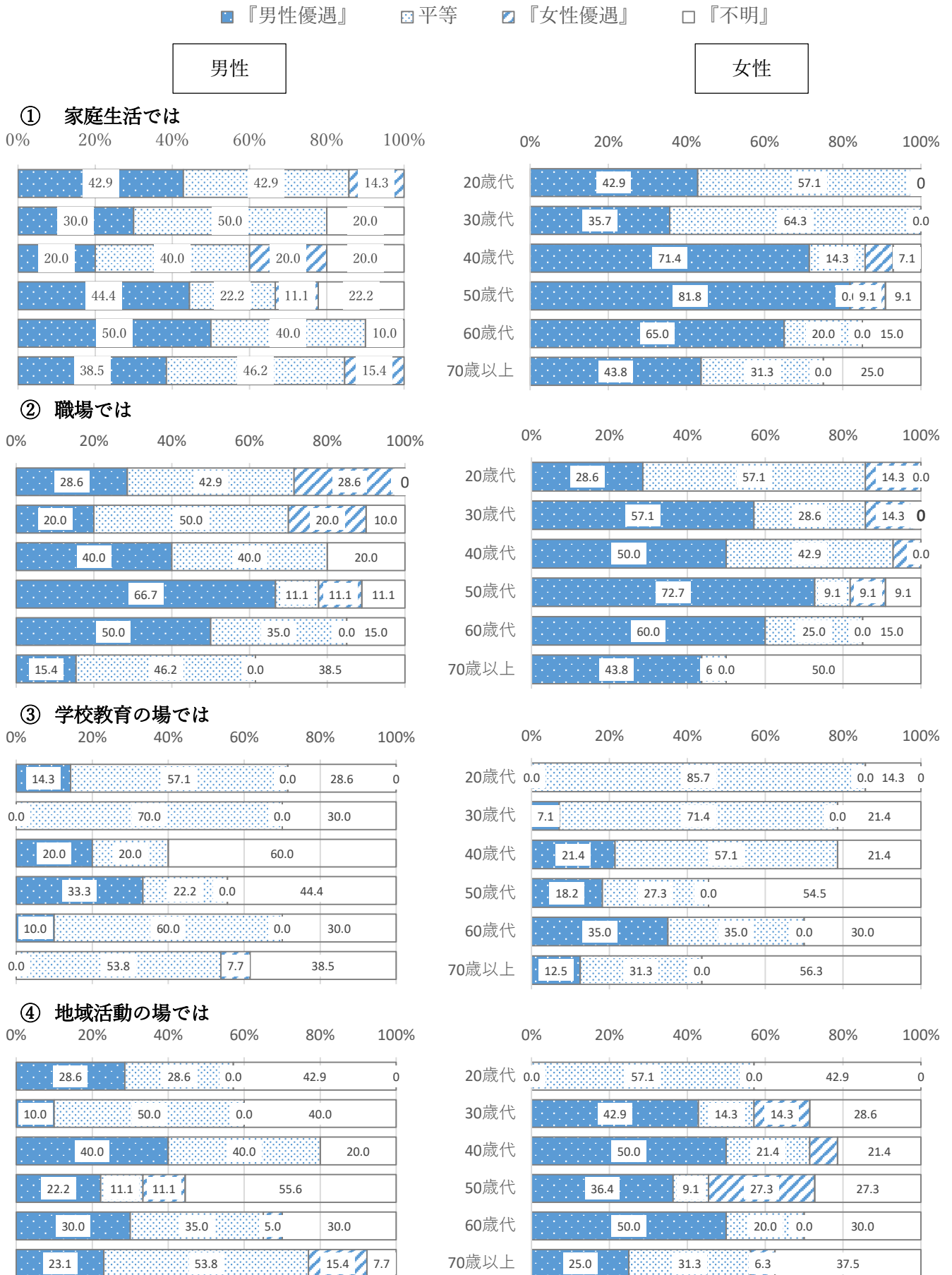
性別でみると、『男性優遇』では、「⑤ 社会通念・慣習・しきたりなど」で最も差がみられ、女性（78.0%）が男性（53.1%）より 24.9 ポイント高くなっている。次いで「⑥法律や制度の上」で 24.8 ポイント、「⑧社会全体」で 20.6 ポイントの差があり、いずれも女性が『男性優遇』と感じている割合が高くなっている。また、「平等である」でも「⑥法律や制度の上」で最も差がみられ、男性（46.9%）が女性（19.5%）より 27.4 ポイント高くなっている。『女性優遇』では、「⑤ 社会通念・慣習・しきたりなど」で最も差がみられ、男性（9.4%）が女性（0.0%）より 9.4 ポイント高くなっている。他の分野では 6 ポイント以下の差となった。

図 2-1-1 男女の地位の平等感



性年代別でみると、『男性優遇』と回答した女性の割合は「⑧社会全体」、「⑤社会通念・慣習・しきたりなどでは」、「⑦政治の場」で高くなっている傾向がみられ、特に40～60歳代の女性で8割前後に上っている。

図2-1-3 性年代別 男女の地位の平等感

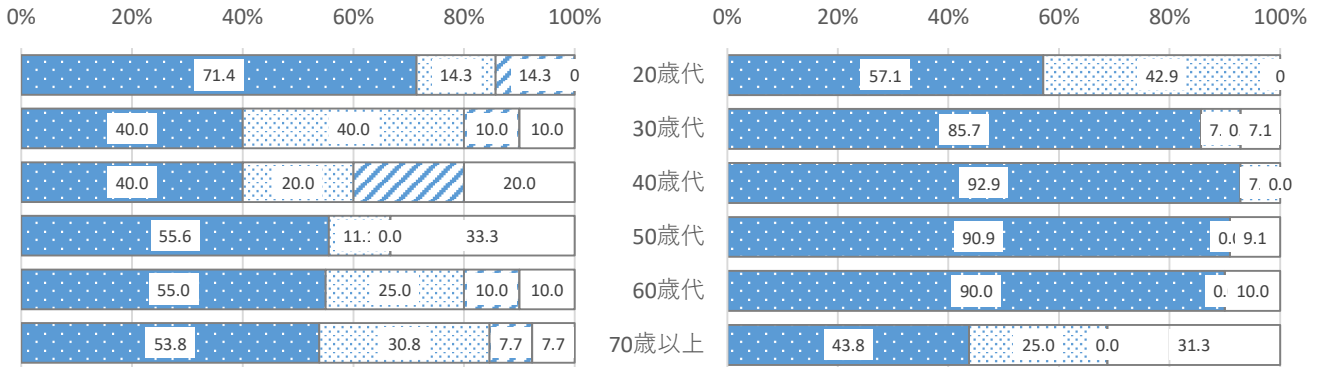


■『男性優遇』 □『平等』 ■『女性優遇』 □『不明』

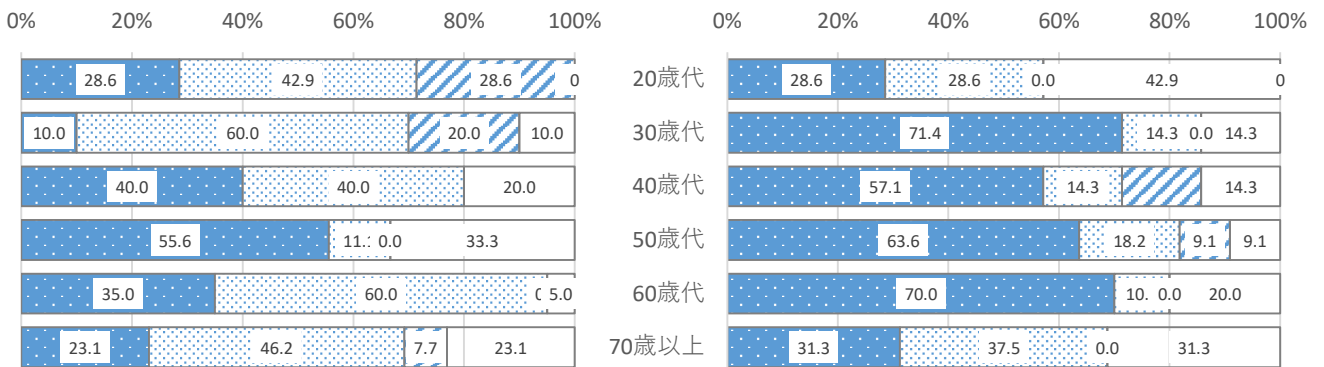
男性

女性

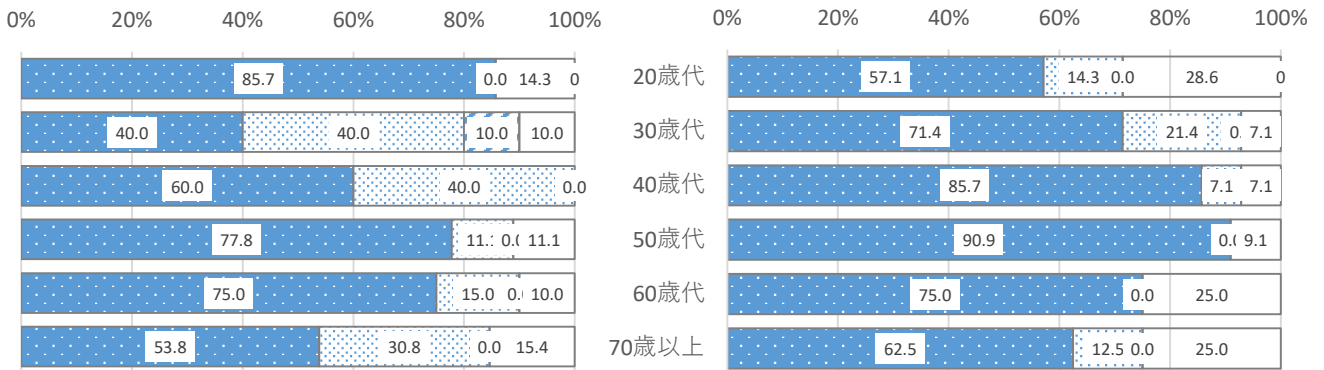
⑤ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



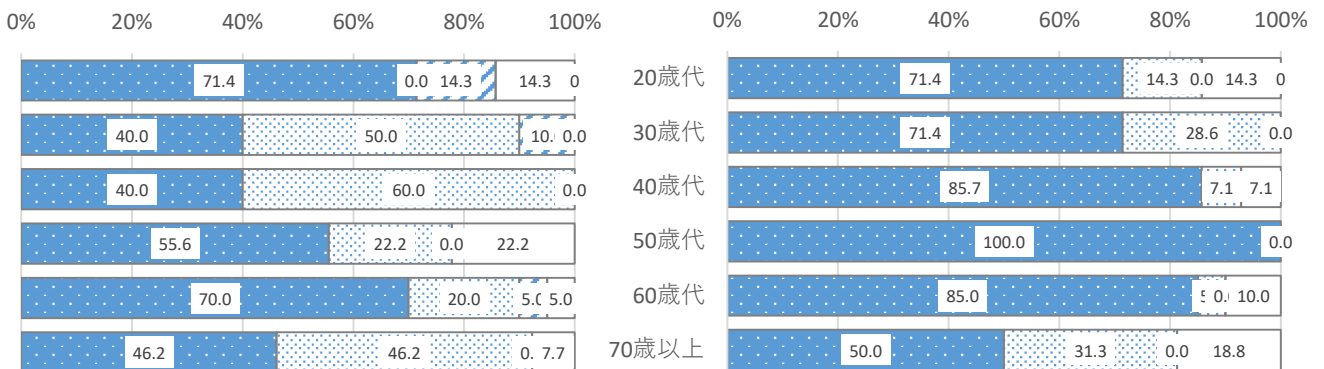
⑥ 法律や制度の上では



⑦ 政治の場では



⑧ 社会全体では



2-2 男女の決められた役割分担についての考え

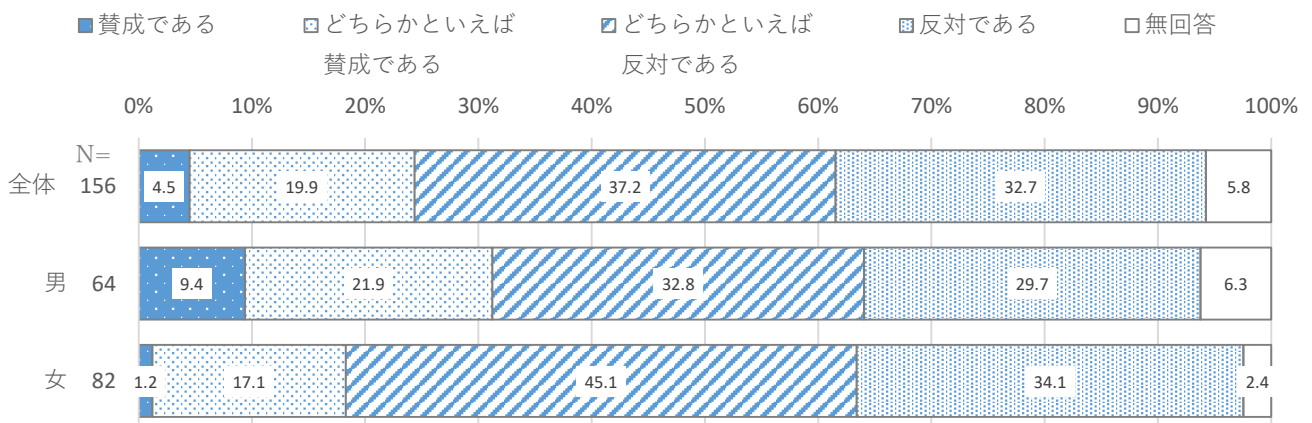
問2 「男は仕事、女は家庭」など性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。（1つに○）

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『否定的な意見』*が女性で79.2%、男性で62.5%となっている。
- 『肯定的な意見』は男性が約3割、女性が約2割と、男性の方がやや高くなっている。
- 『否定的な意見』は男女ともにどの年代でも半数以上となっているが、『肯定的な意見』は男女ともに70歳以上最も高くなっている。

男女の決められた役割分担の考えについて、全体では、「どちらかといえば反対である」が37.2%、「反対である」が32.7%と、『否定的な意見』は69.9%となっている。

性別でみると、『否定的な意見』は、女性（79.3%）が男性（62.5%）より16.8ポイント高くなっている。

図2-2-1 性別 男女の決められた役割分担についての考え



性年代別でみると、『否定的な意見』は、どの年代でも女性が男性よりも高く、最も差がみられた50歳代では女性（90.9%）が男性（55.6%）より35.4ポイント高くなっている。また、『肯定的な意見』では男女ともに70歳以上で最も高くなっている。

表2-1-1 性年代別 男女の決められた役割分担についての考え

(全体：件数、横：%)

		全体	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
全体		156	4.5	19.9	37.2	32.7	5.8
男性	20歳代	7	-	-	-	85.7	14.3
	30歳代	10	20.0	10.0	50.0	20.0	-
	40歳代	5	-	40.0	40.0	20.0	-
	50歳代	9	11.1	22.2	33.3	22.2	11.1
	60歳代	20	10.0	25.0	35.0	25.0	5.0
	70歳以上	13	7.7	30.8	30.8	23.1	7.7
女性	20歳代	7	-	-	57.1	42.9	-
	30歳代	14	-	21.4	35.7	42.9	-
	40歳代	14	-	7.1	35.7	57.1	-
	50歳代	11	9.1	-	72.7	18.2	-
	60歳代	20	-	25.0	35.0	35.0	5.0
	70歳以上	16	-	31.3	50.0	12.5	6.3

2-3 男女の役割等についての考え

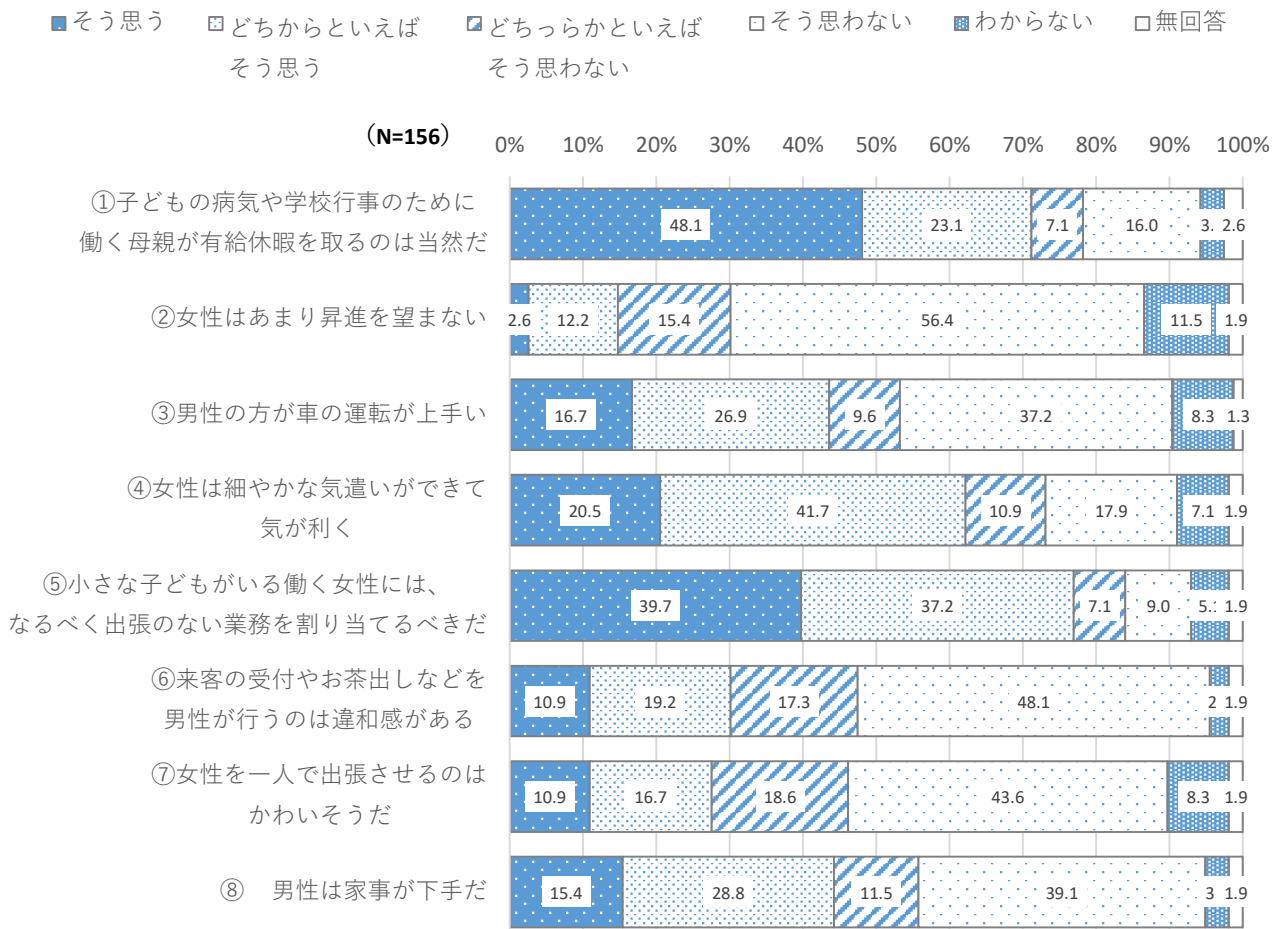
問3 以下の内容について、あなたの意見に近いものはどれですか。（それぞれ1つに○）

- 『肯定的な意見』は、「⑤小さな子どもがいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」、「①子どもの病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」が7割を超えて高くなっている。
- 『否定的な意見』は、「②女性はあまり昇進を望まない」、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」が6割を超え、特に高くなっている。
- 男女間で大きな差がみられたのは「⑧男性は家事が下手だ」、「①子どもの病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」で、『否定的な意見』が女性で男性より10ポイント以上高くなっている。

男女の役割等についての考えでは、『肯定的な意見』は「⑤小さな子どもがいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」が76.9%で最も高く、次いで「①子どもの病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」が71.2%、「④女性は細やかな気遣いができて気が利く」が62.2%となっている。

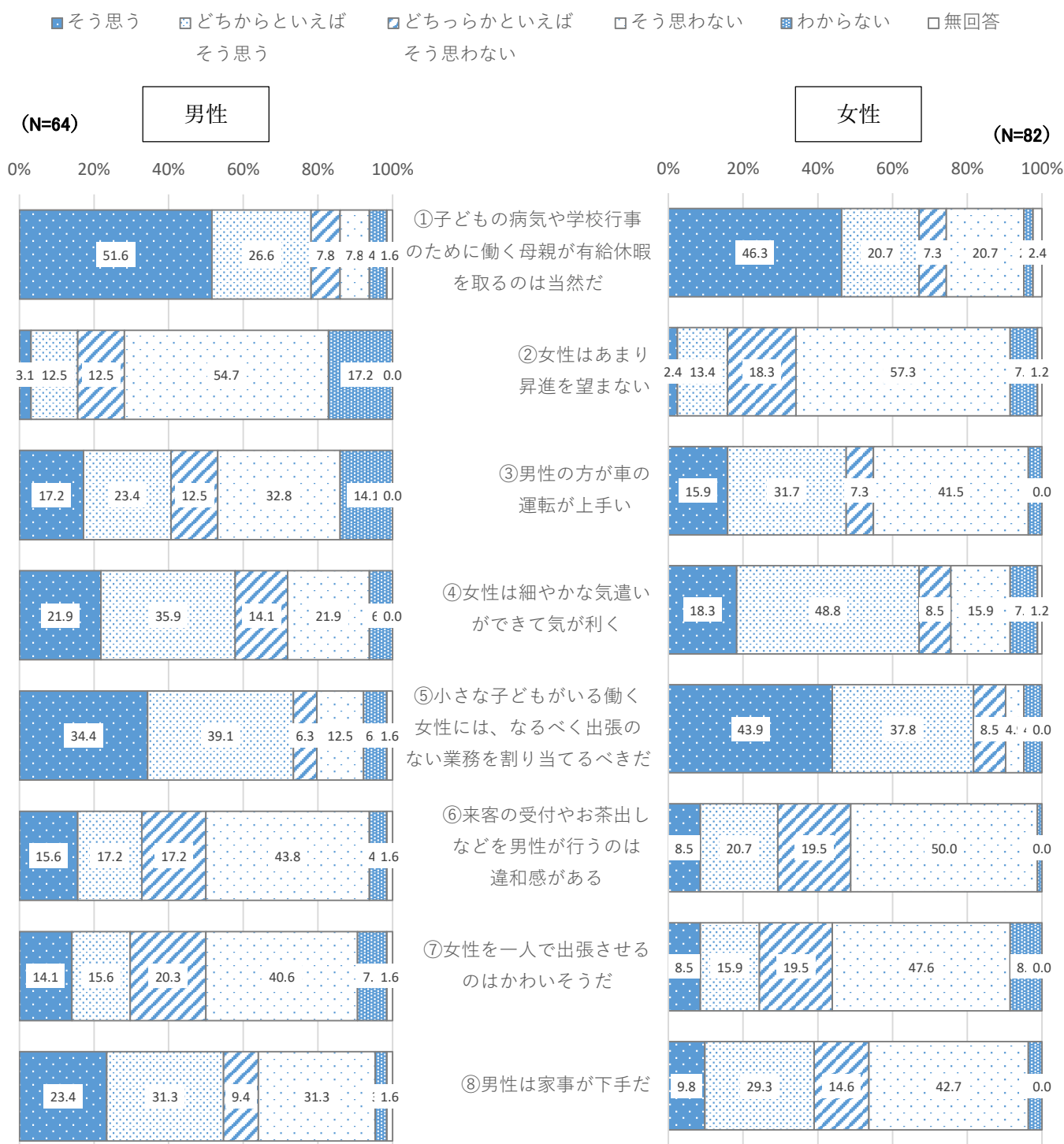
一方、『否定的な意見』は、「②女性はあまり昇進を望まない」が71.8%と最も高く、次いで「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」が65.4%、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」が62.2%と続いた。「③男性の方が車の運転が上手い」では大きな差はみられなかった。

図2-3-1 男女の役割等についての考え



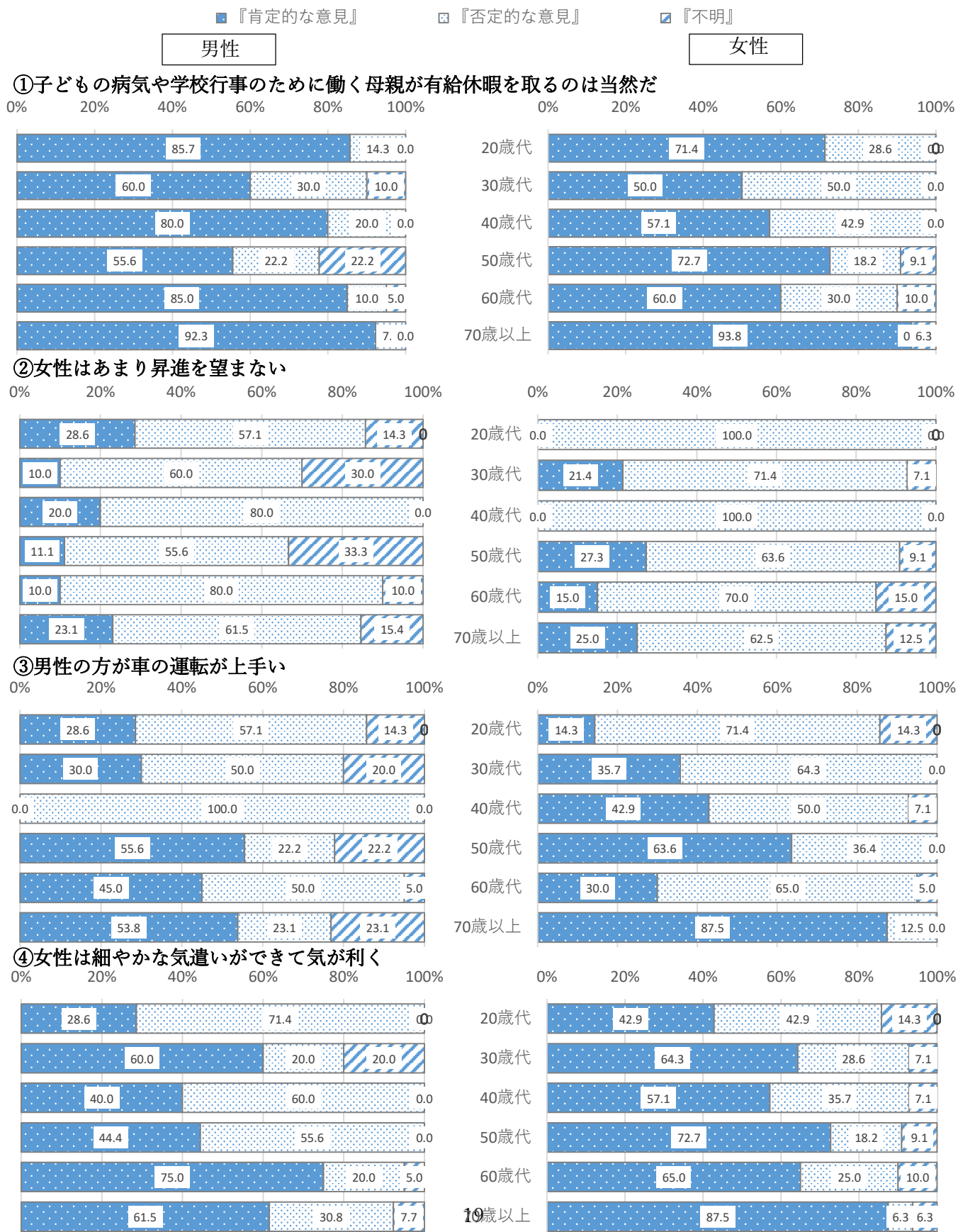
性別でみると、男女ともに『肯定的な意見』が半数を超えたのは、「①子どもの病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」（女性：67.1%、男性：78.1%）、「④女性は細やかな気遣いができて気が利く」（女性67.1%、男性：57.8%）、「⑤小さな子どもがいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」（女性：81.7%、男性：73.4%）であった。男女とも『否定的な意見』が過半数を超えたのは、『②女性はあまり昇進を望まない』（女性：75.6%、男性：67.2%）、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」（女性：69.5%、男性：60.9%）、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」（女性：67.1%、男性：60.9%）となった。男女間で大きな差がみられたのは「⑧男性は家事が下手だ」、「①子どもの病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」で、『否定的な意見』が女性は男性より10ポイント以上高くなっている。

図2-3-2 性別 男女の役割等についての考え

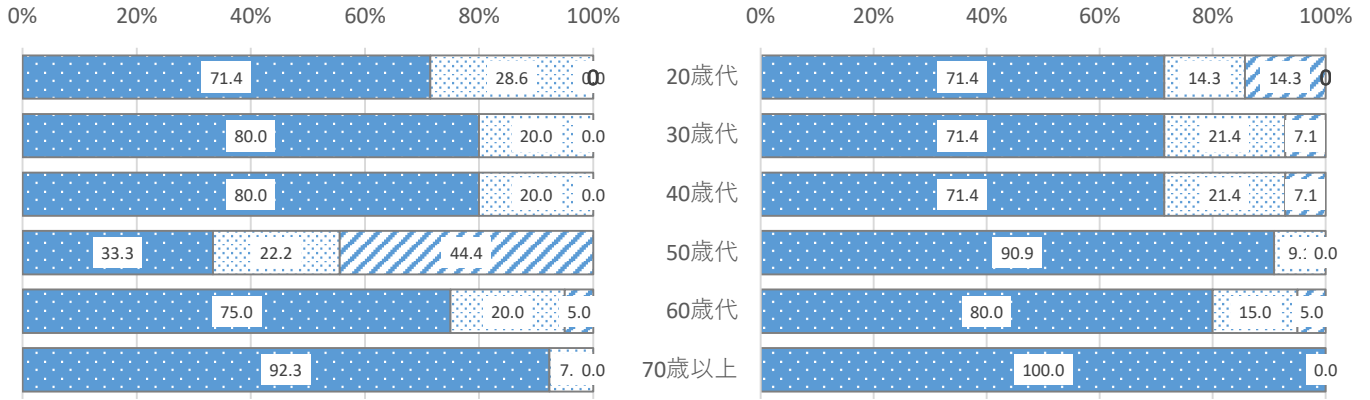


性年代別でみると、『肯定的な意見』の割合が高かった「⑤小さな子どもがいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」では、どの年代も7割超と高かった。女性の50～70歳以上では8割以上と、全体と比較してやや高くなっている。『否定的な意見』の割合が高かった「②女性はあまり昇進を望まない」では、女性の20～40歳代で7割以上と特に高くなっている。一方、男女ともに70歳以上では5割を下回り、低くなっている。

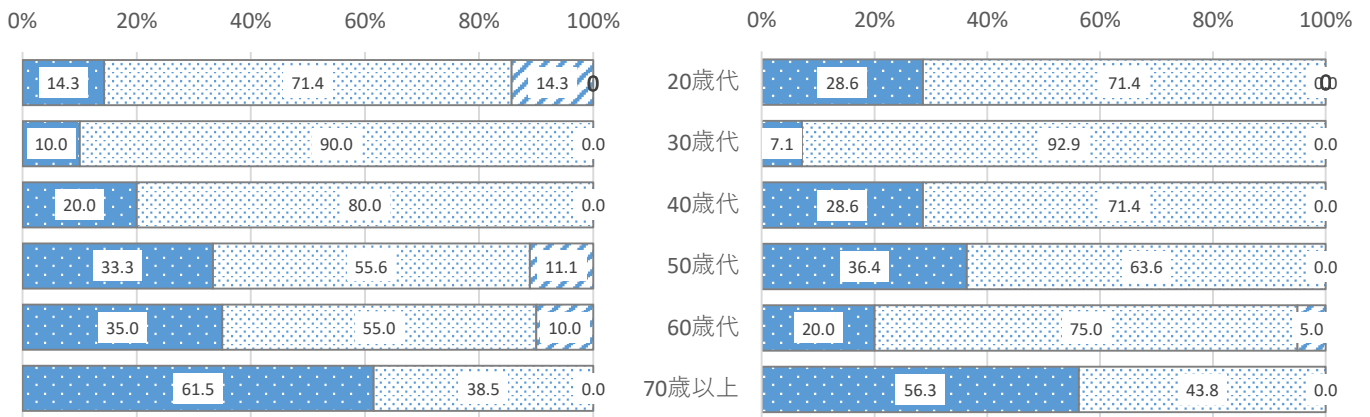
図2-3-3 性年代別 男女の役割等についての考え



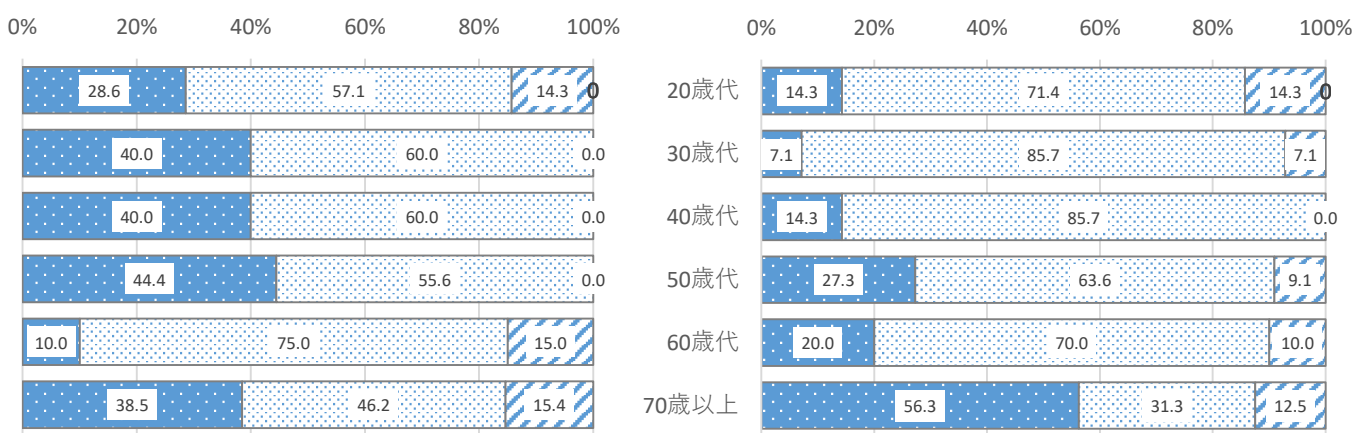
⑤小さな子どもがいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ



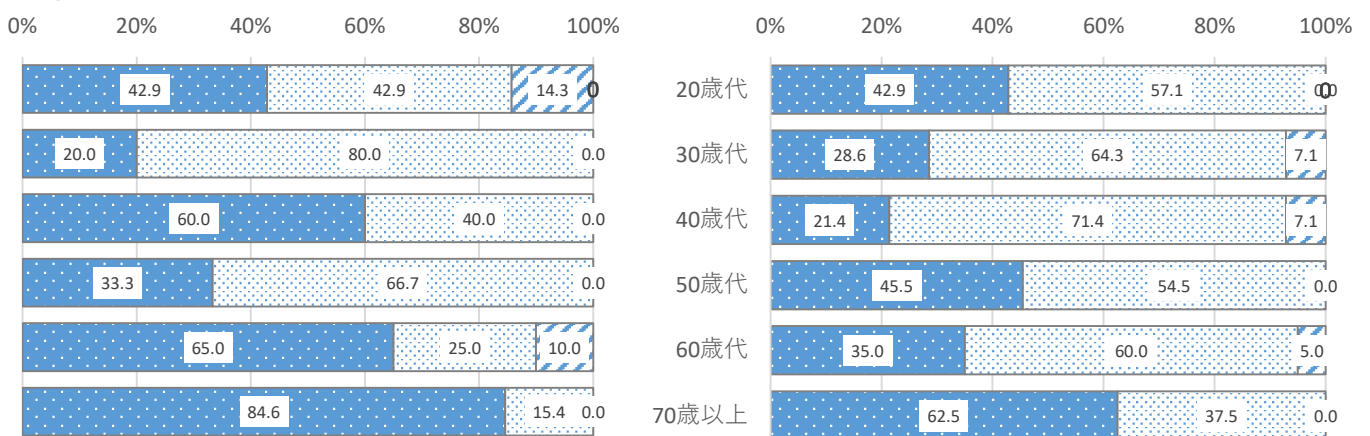
⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある



⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ



⑧男性は家事が下手だ



3. 家庭生活について

3-1 男性の家事・育児等の積極的参加推進

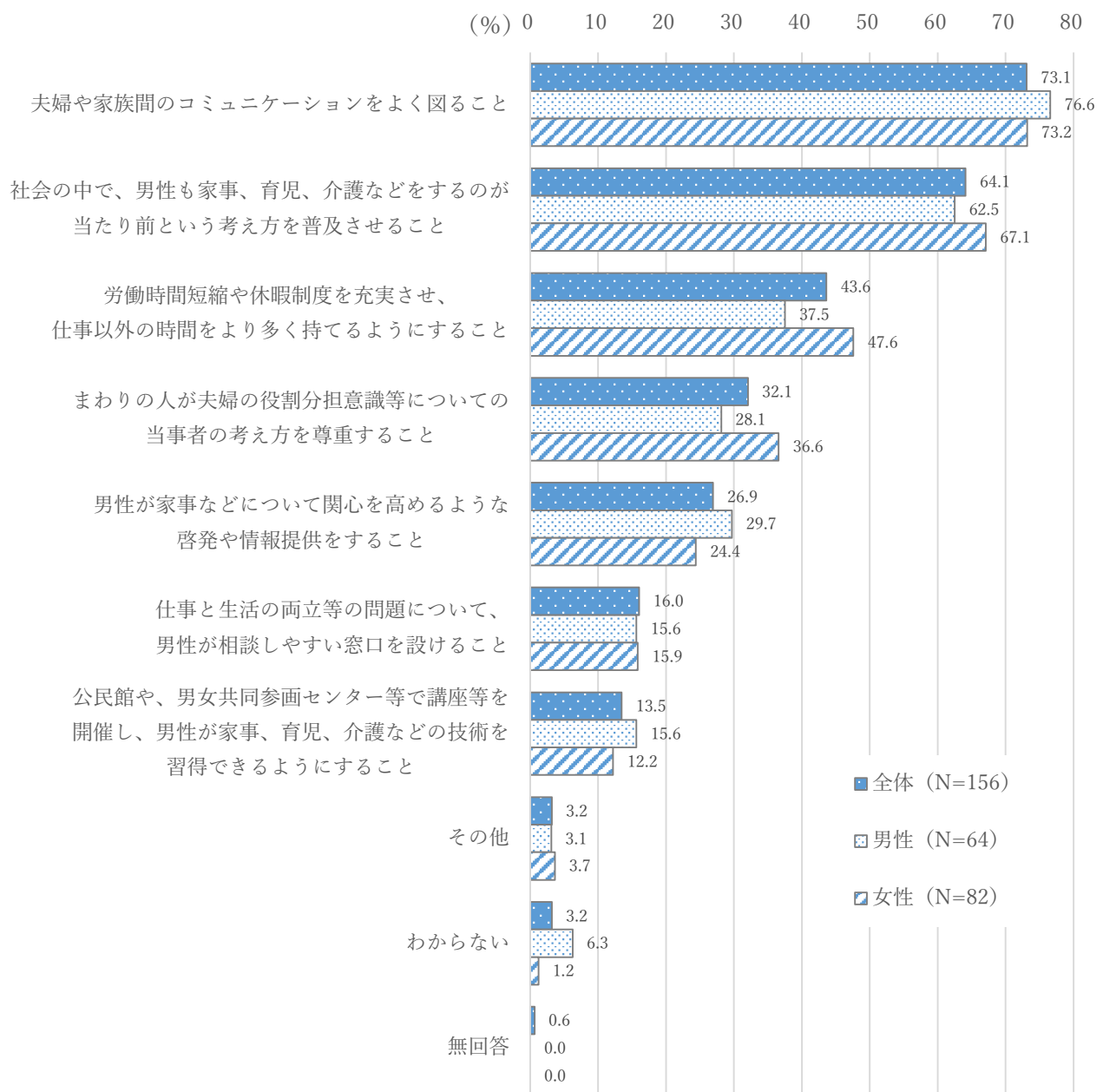
問4 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。
(3つまでに○)

- 男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっている。
- 「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は、女性が4割半ばとなり、男性と比較して差がみられた。

男性の家事・育児等の積極的参加推進について、全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が73.1%と最も高く、次いで「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前という考え方を普及させること」が64.1%、「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が43.6%となっている。

性別でみると、最も差がみられたのは「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」で、女性(47.6%)が男性(37.5%)より10.1ポイント高くなっている。

図3-3-1 性別 男性の家事・育児等の積極的参加推進に必要なこと



性年代別でみると、男女ともにすべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が5割以上となっている。女性の30歳代以上では「社会の中で、男性も家事、育児介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」も6割以上となっている。また、男女ともに20歳代では「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間より多く持てるようにすること」が6割半ばとなり、比較的高い割合となっている。

表3-3-1 性年代別 男性の家事・育児等の積極的参加推進に必要なこと

(全体：件数、横：%)

		全体	夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること	社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前という考え方を普及させること	労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	まわりの人が夫婦の役割分担意識等についての当事者の考え方を尊重すること	男性が家事などについて関心を高めるような啓発や情報提供をすること	仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	公民館や、男女共同参画センター等で講座等を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること	その他	わからない	無回答
全体		156	73.1	64.1	43.6	32.1	26.9	16.0	13.5	3.2	3.2	0.6
男性	20歳代	7	85.7	85.7	57.1	-	28.6	-	14.3	14.3	-	-
	30歳代	10	90.0	40.0	40.0	40.0	40.0	-	-	-	-	-
	40歳代	5	80.0	60.0	60.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-
	50歳代	9	88.9	77.8	33.3	33.3	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1	-
	60歳代	20	70.0	70.0	35.0	35.0	30.0	20.0	25.0	-	5.0	-
	70歳以上	13	61.5	46.2	23.1	23.1	30.8	23.1	15.4	-	15.4	-
女性	20歳代	7	71.4	57.1	57.1	28.6	28.6	28.6	-	14.3	-	-
	30歳代	14	71.4	64.3	50.0	57.1	14.3	-	7.1	7.1	-	-
	40歳代	14	78.6	71.4	35.7	21.4	42.9	7.1	21.4	-	-	-
	50歳代	11	54.5	54.5	54.5	36.4	27.3	45.5	18.2	-	-	-
	60歳代	20	75.0	75.0	60.0	30.0	10.0	20.0	5.0	5.0	5.0	-
	70歳以上	16	81.3	68.8	31.3	43.8	31.3	6.3	18.8	-	-	-

4. 子育てや子どもの教育について

4-1 理想の子どもの人数、実際の子どもの人数

問5 (1) あなたの理想とする子どもの人数は何人ですか。(1つに○)
 (2) 実際の子どもの数は何人ですか。(1つに○)

- 「理想の子どもの人数」は「3人」が5割となっている。
- 「実際の子どもの人数」は「2人」が3割半ばとなっている。
- 「実際の子どもの人数」では男性は「0人」が約3割と最も高くなっている。

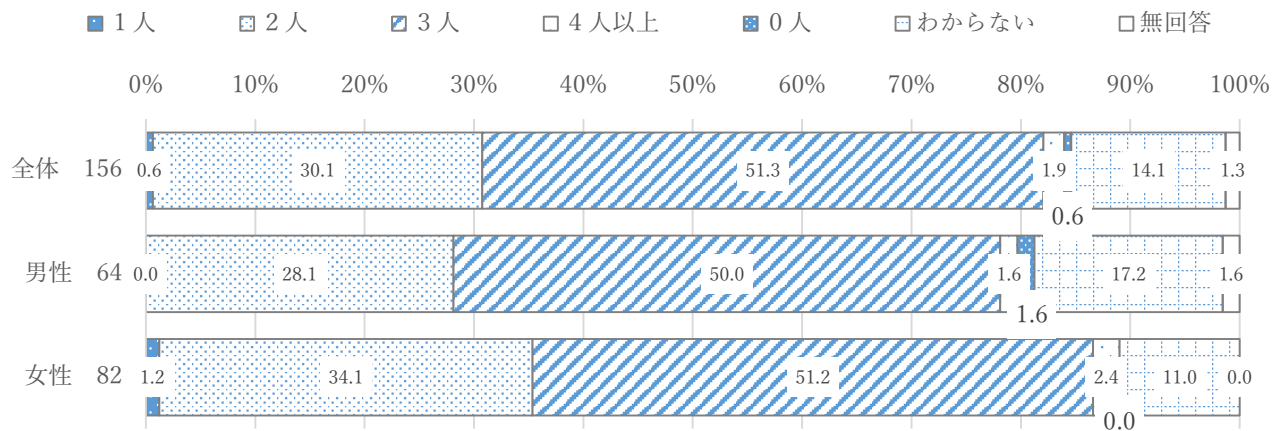
理想の子どもの人数について、全体では、「3人」が51.3%と最も高く、次いで「2人」が30.1%、「わからない」が14.1%となっている。実際の子どもの人数について、全体では、「2人」が37.8%と最も高く、次いで「0人」が21.8%、「3人」が20.5%となっている。

理想と実際の人数を比べると、「3人」では理想(51.3%)が実際(20.5%)より30.8ポイント高く、「0人」では実際(21.8%)が理想(0.6%)より21.2ポイント高くなっている。

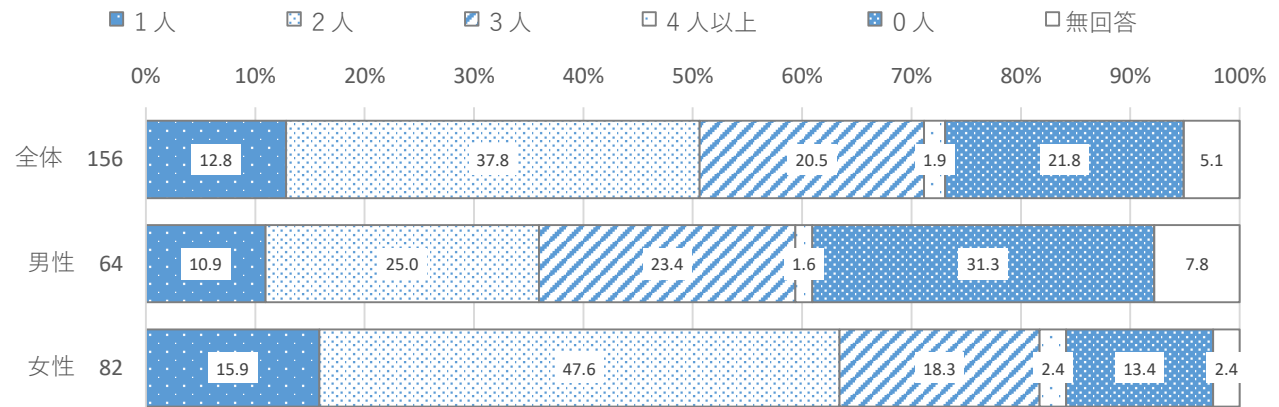
実際の子どもの人数を性別でみると、男性は「0人」(31.3%)が最も高くなっている。

図4-1-1 性別 理想の子どもの人数、実際の子どもの人数

【理想の子どもの人数】



【実際の子どもの人数】



理想の子どもの人数を性年代別で見ると、40歳代女性を除き、各世代の男女で「3人」が最も高くなっている。実際の子どもの人数を性年代別で見ると、男女ともに60歳代以上では「2人」が最も高くなっている。男性の50歳以下では「0人」が比較的高い割合となっている。

表4-1-1 性年代別 理想の子どもの人数、実際の子どもの人数

【理想の子どもの人数】

(全体：件数、横：%)

理想		全体	1人	2人	3人	4人以上	0人	わからない	無回答
全体		156	0.6	30.1	51.3	1.9	0.6	14.1	1.3
男性	20歳代	7	-	28.6	42.9	-	-	28.6	-
	30歳代	10	-	20.0	60.0	-	10.0	10.0	-
	40歳代	5	-	20.0	40.0	-	-	40.0	-
	50歳代	9	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-
	60歳代	20	-	35.0	50.0	5.0	-	10.0	-
	70歳以上	13	-	23.1	61.5	-	-	7.7	7.7
女性	20歳代	7	-	14.3	71.4	-	-	14.3	-
	30歳代	14	7.1	28.6	42.9	-	-	21.4	-
	40歳代	14	-	50.0	28.6	7.1	-	14.3	-
	50歳代	11	-	27.3	63.6	-	-	9.1	-
	60歳代	20	-	35.0	50.0	5.0	-	10.0	-
	70歳以上	16	-	37.5	62.5	-	-	-	-

【実際の子どもの人数】

(全体：件数、横：%)

実際		全体	1人	2人	3人	4人以上	0人	無回答
全体		156	12.8	37.8	20.5	1.9	21.8	5.1
男性	20歳代	7	-	-	-	-	100.0	-
	30歳代	10	10.0	10.0	40.0	10.0	30.0	-
	40歳代	5	40.0	20.0	-	-	40.0	-
	50歳代	9	11.1	-	-	-	66.7	22.2
	60歳代	20	10.0	40.0	35.0	0.0	5.0	10.0
	70歳以上	13	7.7	46.2	30.8	0.0	7.7	7.7
女性	20歳代	7	28.6	-	-	-	71.4	-
	30歳代	14	21.4	14.3	42.9	-	14.3	7.1
	40歳代	14	14.3	64.3	14.3	-	7.1	-
	50歳代	11	-	72.7	18.2	9.1	-	-
	60歳代	20	20.0	50.0	15.0	-	15.0	-
	70歳以上	16	12.5	62.5	12.5	6.3	-	6.3

4-2 子どもの減少の理由についての考え

問6 最近、生まれてくる子どもの数が減っています。それはなぜだと思いますか。(3つまでに○)

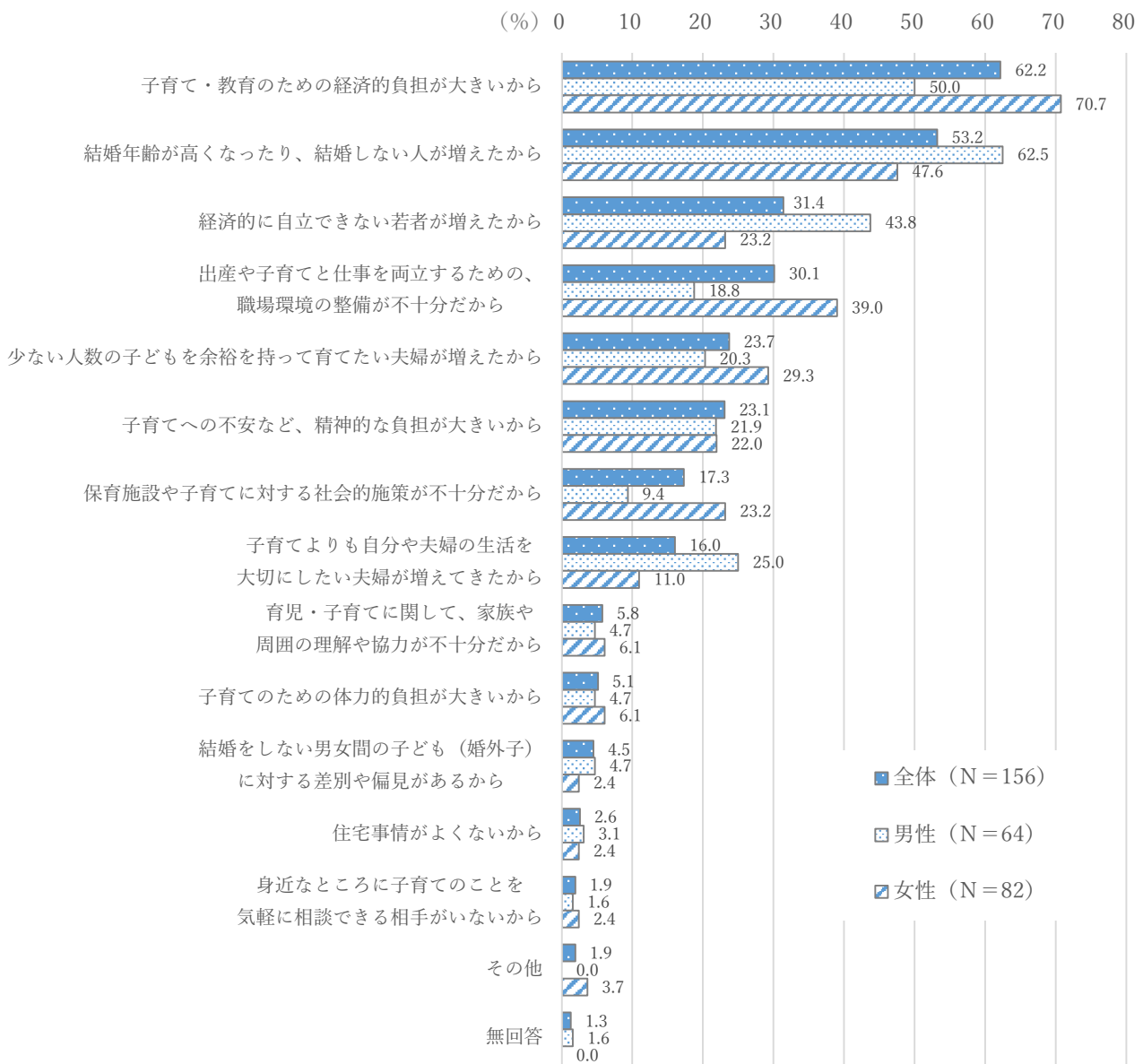
○「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」と「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が5割を超えと高くなっている。

○「経済的に自立できない若者が増えたから」では男性が女性より高く、大きな差がみられた。

子どもの減少の理由についての考えについて、全体では、「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」が62.2%、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が53.2%とともに5割を超えている。次いで、「経済的に自立できない若者が増えたから」が31.4%、「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」が30.1%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」では、女性(70.7%)が男性(50.0%)より20.7ポイント高くなっている。一方、男性が女性を上回った項目としては「経済的に自立できない若者が増えたから」(男性：43.8%、女性：23.2%、20.6ポイント差)が挙げられた。

図4-2-1 性別 子どもの減少の理由についての考え



性年代別でみると、すべての区分で「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が上位2項目となっている。女性の20～60歳代では「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」が3割～5割半ば、男性の40歳以上では「経済的に自立できない若者が増えたから」が比較的高い割合となっている。

表4-2-1 性年代別 子どもの減少の理由についての考え

(全体：件数、横：%)

		全体	子育てよりも自分や夫婦の生活を大切にしたい夫婦が増えてきたから	子育てたい夫婦が増えたから	少ない人数の子どもを余裕を持って育てたい夫婦が増えたから	子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから	子育てのための体力的負担が大きいから	子育て・教育のための経済的負担が大きいから	育児・子育てに関して、家族や周囲の理解や協力が不十分だから	身近なところに子育てのことを気軽に相談できる相手がいないから	結婚をしない男女間の子ども(婚外子)に対する差別や偏見があるから	住宅事情がよくないから	経済的に自立できない若者が増えたから	職場環境の整備が不十分だから	出産や子育てと仕事を両立するための、	保育施設や子育てに対する社会的施策が不十分だから	結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから	その他	無回答
全体		156	16.0	23.7	23.1	5.1	62.2	5.8	1.9	4.5	2.6	31.4	30.1	17.3	53.2	1.9	1.3		
男性	20歳代	7	28.6	42.9	14.3	-	42.9	-	-	14.3	-	-	14.3	-	85.7	-	-		
	30歳代	10	40.0	20.0	20.0	10.0	60.0	-	-	-	-	30.0	40.0	-	50.0	-	-		
	40歳代	5	-	-	20.0	-	40.0	20.0	-	20.0	-	60.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0		
	50歳代	9	22.2	22.2	11.1	11.1	33.3	-	-	-	-	44.4	22.2	22.2	77.8	-	-		
	60歳代	20	30.0	10.0	35.0	5.0	60.0	10.0	5.0	-	5.0	60.0	15.0	10.0	55.0	-	-		
	70歳以上	13	15.4	30.8	15.4	-	46.2	-	-	7.7	7.7	46.2	7.7	7.7	76.9	-	-		
女性	20歳代	7	-	28.6	28.6	14.3	71.4	-	-	14.3	-	-	57.1	-	57.1	14.3	-		
	30歳代	14	21.4	21.4	-	14.3	57.1	14.3	7.1	-	7.1	7.1	35.7	57.1	42.9	7.1	-		
	40歳代	14	14.3	14.3	42.9	7.1	71.4	7.1	-	-	-	28.6	50.0	-	35.7	-	-		
	50歳代	11	9.1	18.2	27.3	-	72.7	-	-	-	-	27.3	45.5	18.2	54.5	9.1	-		
	60歳代	20	5.0	30.0	25.0	-	75.0	10.0	-	-	5.0	30.0	40.0	35.0	45.0	-	-		
	70歳以上	16	12.5	56.3	12.5	6.3	75.0	-	6.3	6.3	-	31.3	18.8	12.5	56.3	-	-		

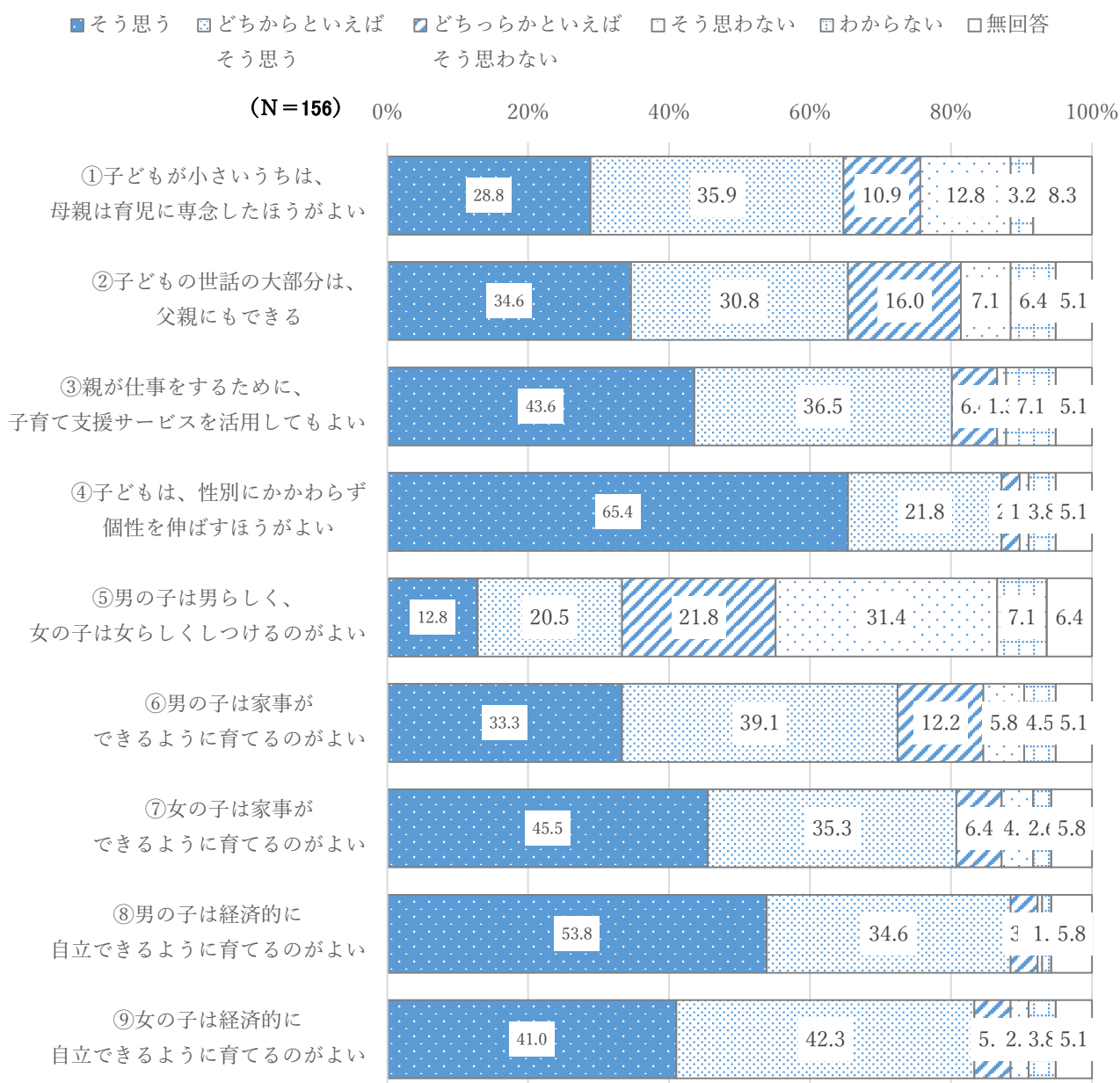
4-3 子育てについての考え

問7 子育てについてあなたの意見に近いものはどれですか。（それぞれ1つに○）

- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」を除いたすべての項目で『肯定的な意見』が6割を超えて高くなっている。
- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では、『肯定的な意見』が男性は女性より高くなっている。
- このほかに男女間で大きさ差がみられた「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『否定的な意見』が男性は女性より24.3ポイント高く、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」では『肯定的な意見』が女性は男性より18.4ポイント高くなっている。

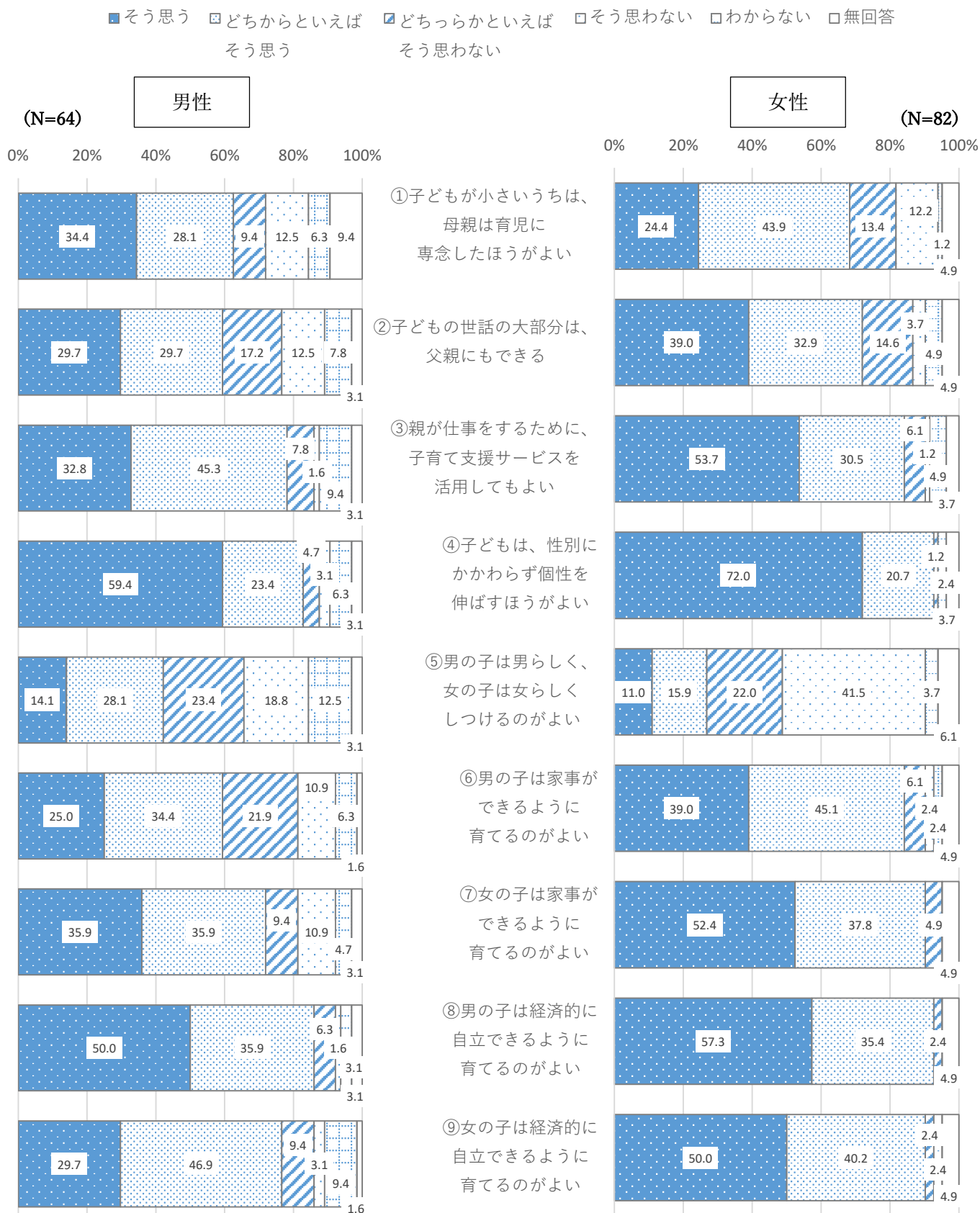
子育てについての考えについて、『肯定的な意見』が高かったのは「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」を除いたすべての項目となった。

図4-3-1 子育てについての考え



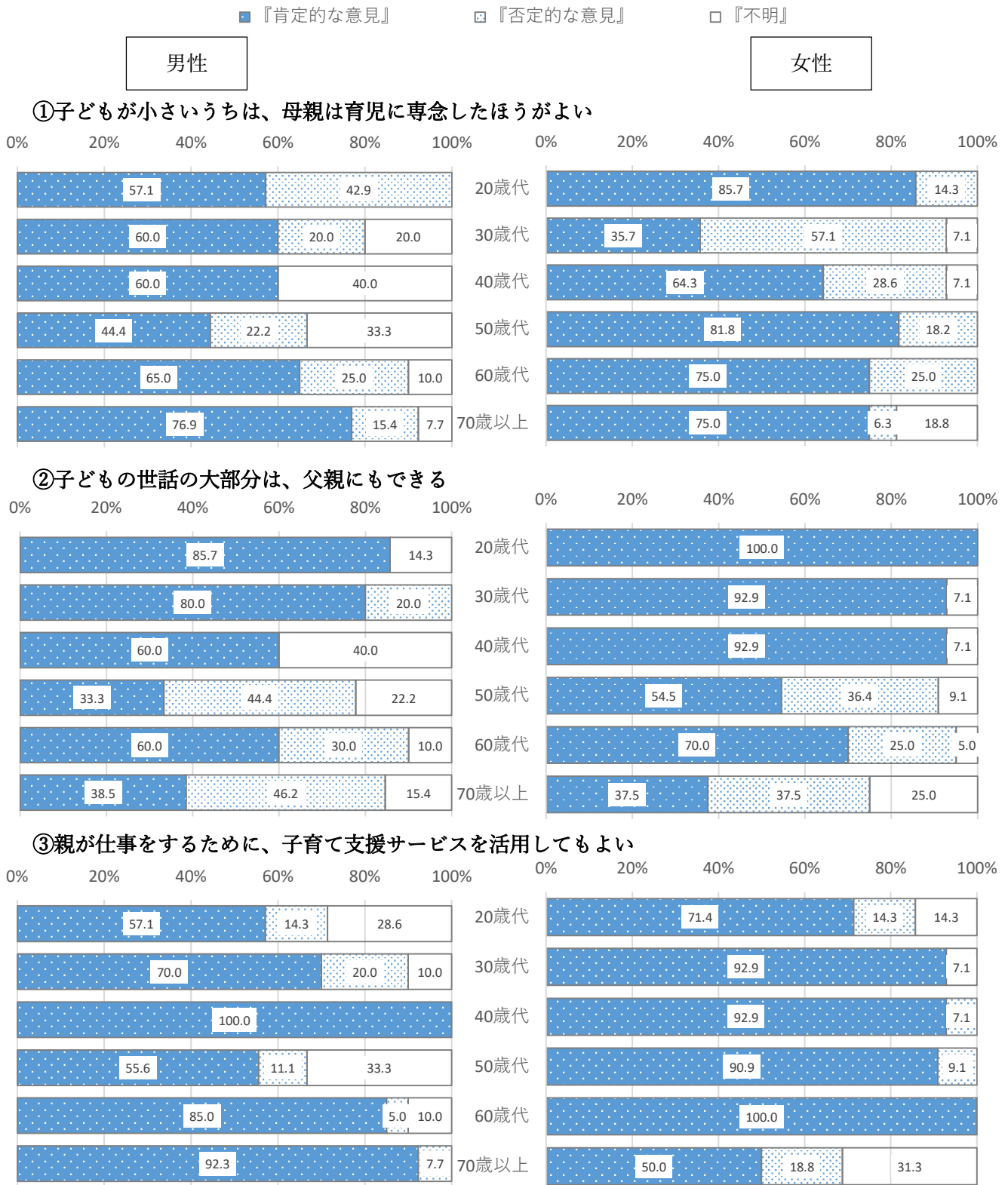
性別で見ると、大きな差がみられたのは「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」で『肯定的な意見』が男性は女性より15.4ポイント高くなっている。また、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『否定的な意見』が男性は女性より24.3ポイント高く、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』が女性は男性より18.4ポイント高くなっている。

図4-3-2 性別 子育てについての考え



性年代別でみると、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』がどの年代でも女性が男性より高くなっている。一方、「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では『否定的な意見』がどの年代でも女性が男性より高くなっている。

図4-3-3 性年代別 子育てについての考え



■ 『肯定的な意見』

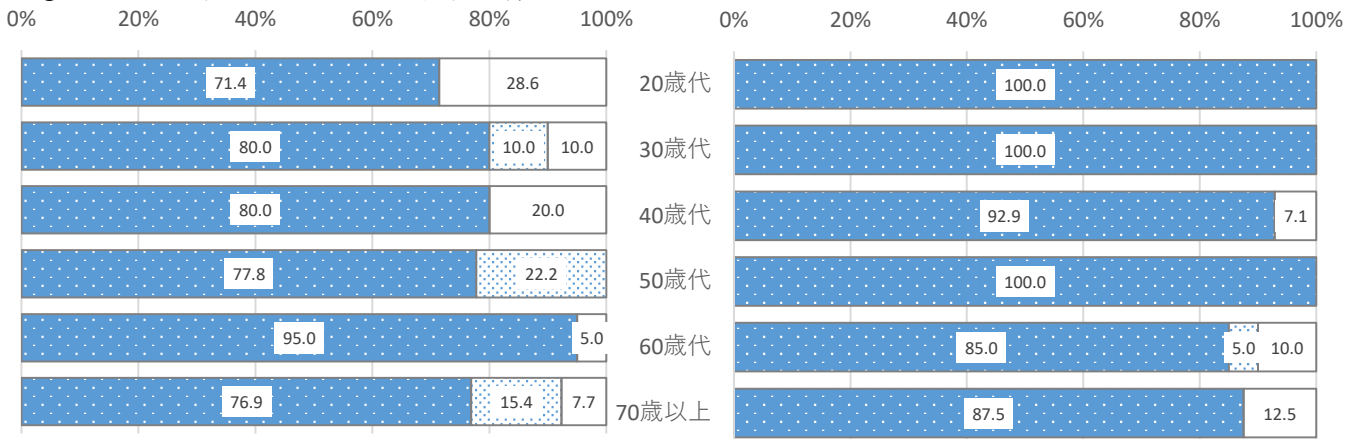
▨ 『否定的な意見』

□ 『不明』

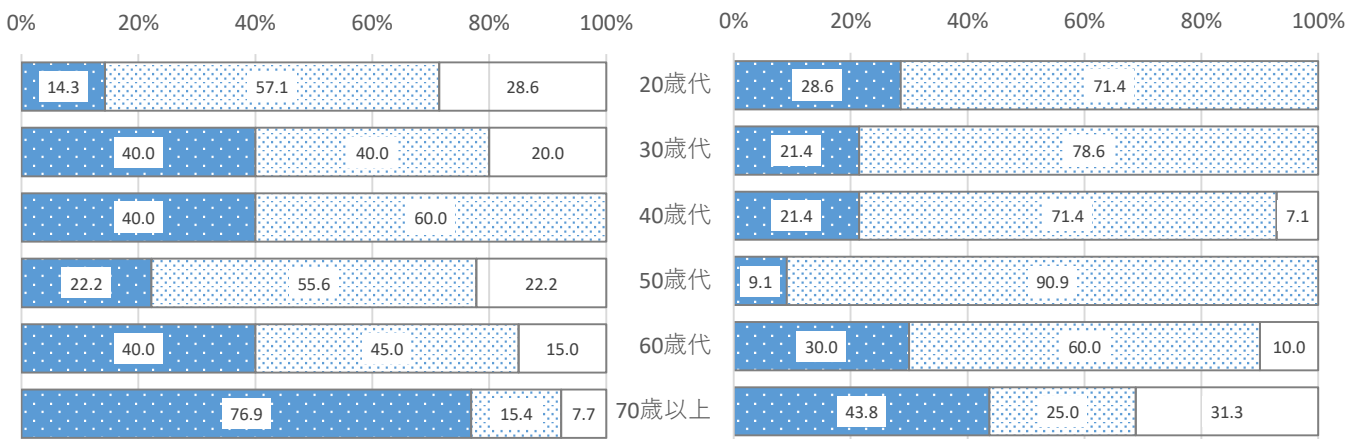
男性

女性

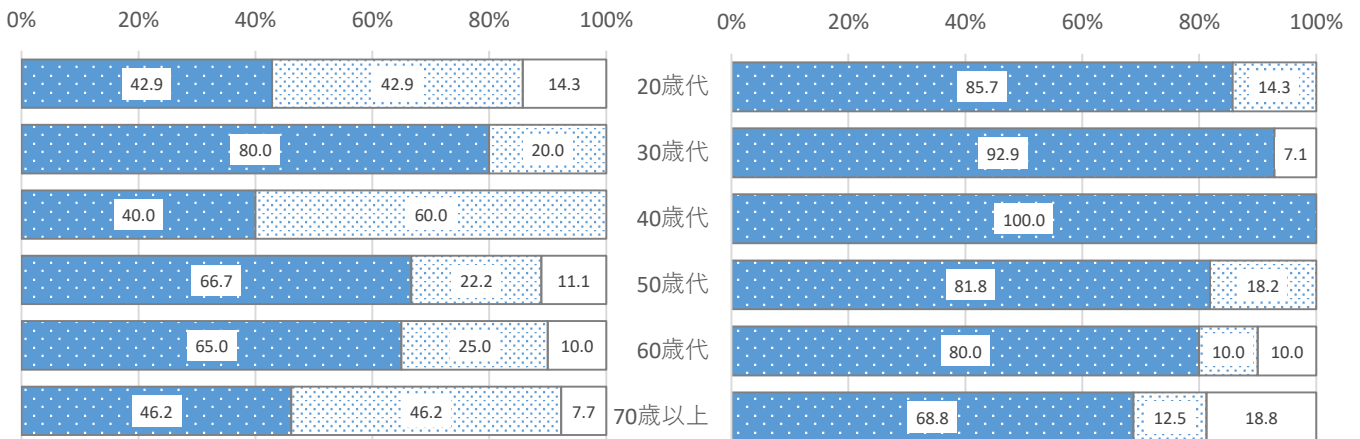
④子どもは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい



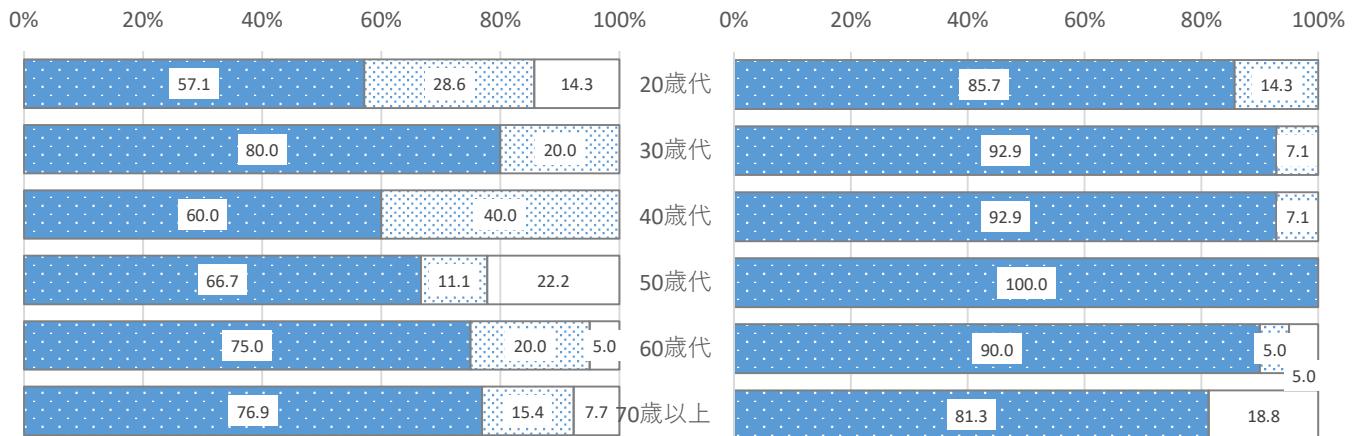
⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい



⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい

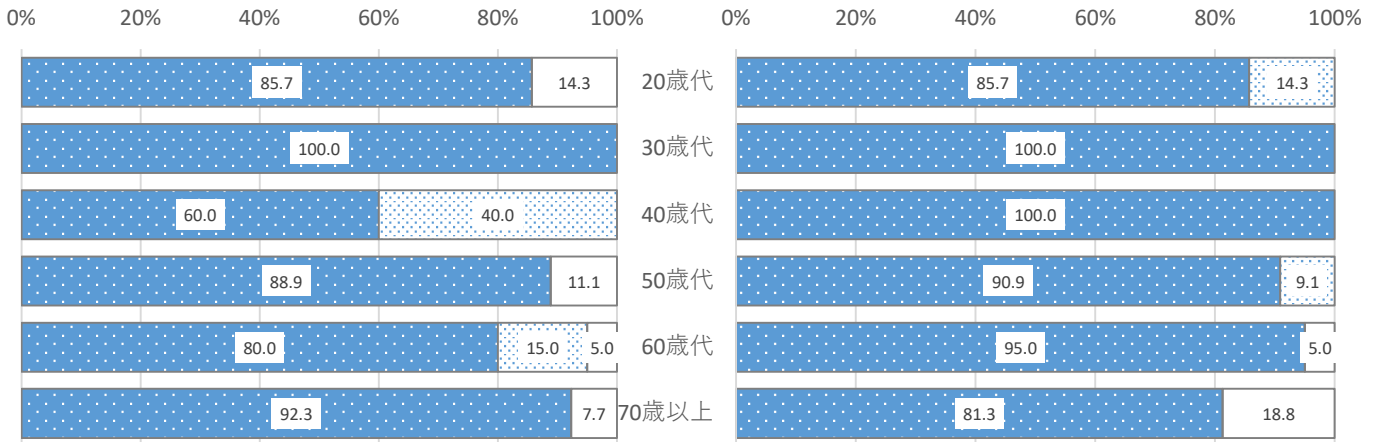


■ 『肯定的な意見』 □ 『否定的な意見』 □ 『不明』

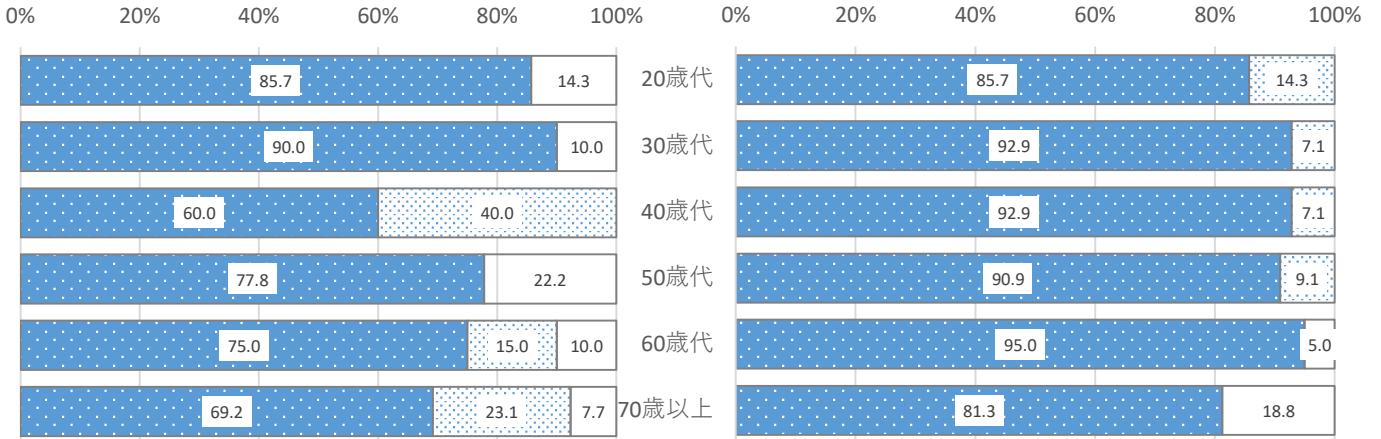
男性

女性

⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること

問8 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。（3つまでに○）

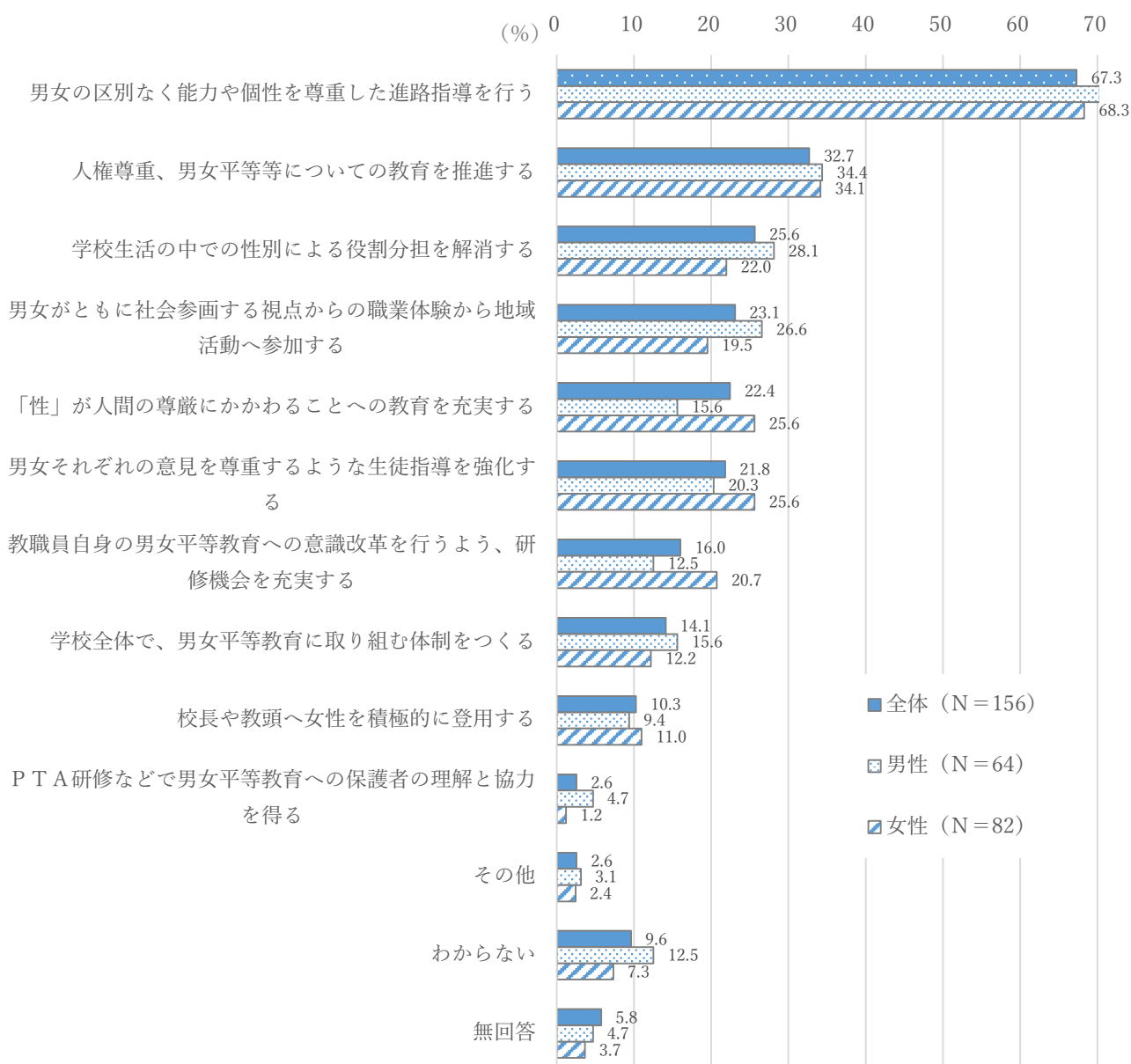
○「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」は6割半ばを超えて、突出して高くなっている。

○「「性」が人間の尊厳にかかわることへの教育を充実する」は女性が男性より高く、差がみられた。

男女平等教育をすすめるために、学校に期待することについて、全体では、「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が67.3%と突出して高く、次いで「人権尊重、男女平等についての教育を推進する」が32.7%、「学校生活の中での性別による役割分担を解消する」が25.6%となっている。

性別でみると、「「性」が人間の尊厳にかかわることへの教育を充実する」で最も差がみられ、女性（25.6%）が男性（15.6%）より10.0ポイント高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図4-4-1 性別 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること



5. 就労について

5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方

問9 次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の生き方について、あなたはどの考えに近いですか。※なお、未婚の方は結婚したと仮定した上で、お答えください。

- 理想では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高く、実際では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が最も高くなっている。
- 女性の20～40歳代では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は55.6%、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は80.0%となっており、理想の生き方が現実となっている女性は多い。

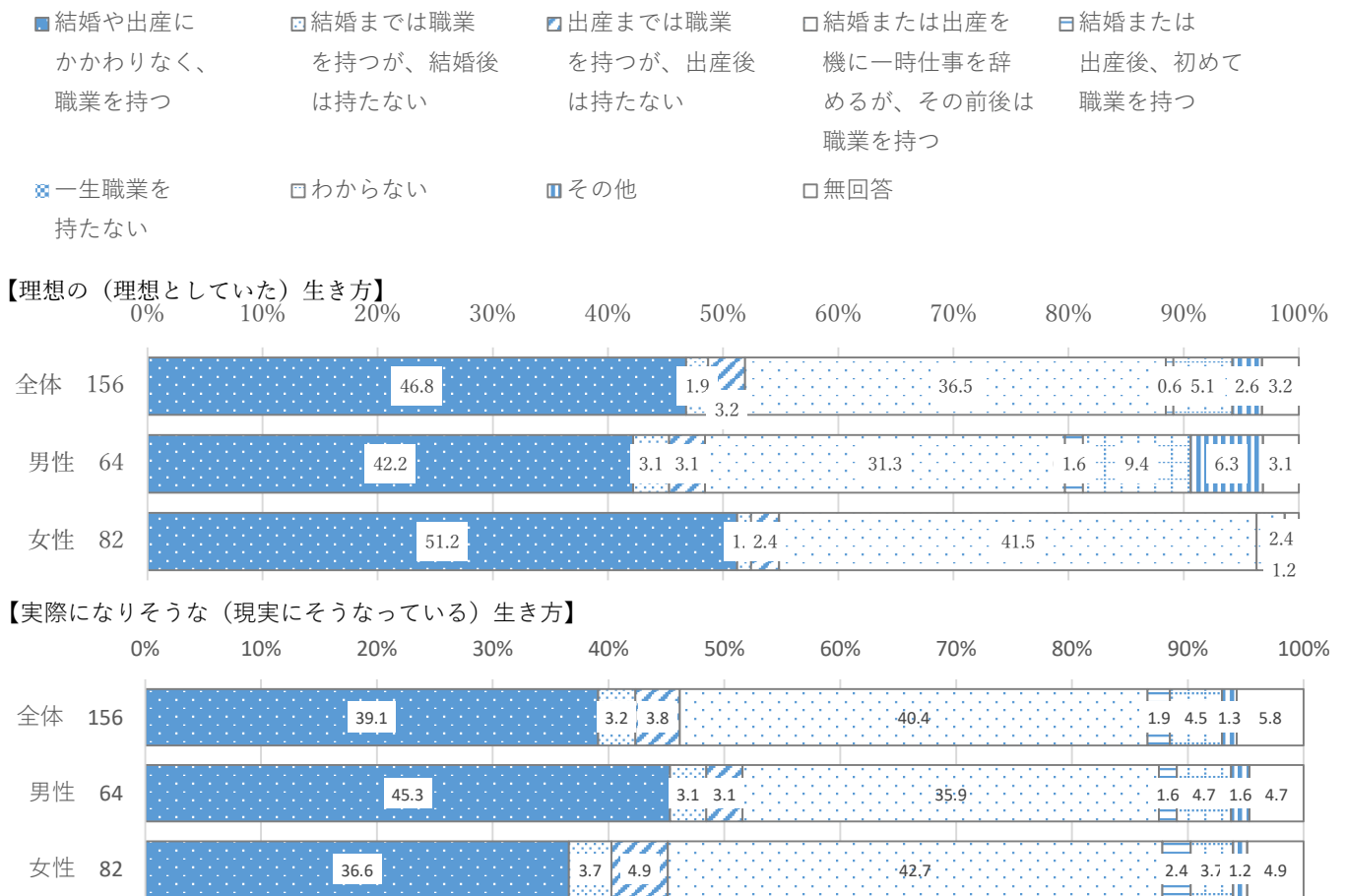
女性の理想の生き方について、全体では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が46.8%、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が36.5%となり、その他は6%未満となった。

性別でみると、最も差がみられたのは「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」で、女性（41.5%）が男性（31.3%）より10.2ポイント高くなっている。

女性の実際の生き方について、全体では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が40.4%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が39.1%、「わからない」が4.5%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」では男性（45.3%）が女性（36.6%）より8.7ポイント高くなっている。

図5-1-1 性別 女性の理想の生き方・実際の生き方



女性の理想の生き方別で女性の実際の生き方をみると、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 65.8%、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」を理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 68.4%となっている。

女性の 20～40 歳代に回答を絞ってみると、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 55.6%、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 80.0%となっており、理想の生き方が現実となっている女性は多い。一方、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」を理想としながら、実際には「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」生き方となっている割合は 22.2%、逆に「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」を理想としながら、実際には「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」生き方となっている割合も 13.3%となっており、理想と現実のギャップもみられる。

表 5-1-1 女性の理想の生き方別 実際の行き方

(全体：件数、横：%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	156	39.1	3.2	3.8	40.4	1.9	—	4.5	1.3	5.8	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ	73	65.8	2.7	4.1	23.3	—	—	1.4	1.4	1.4
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	3	66.7	33.3	—	—	—	—	—	—	
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	5	—	—	20.0	60.0	—	—	—	—	20.0
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	57	12.3	3.5	3.5	68.4	3.5	—	3.5	—	5.3
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一生職業を持たない	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	わからない	8	25.0	—	—	12.5	12.5	—	50.0	—	—
	その他	4	25.0	—	—	50.0	—	—	—	25.0	—
無回答	5	—	—	—	20.0	—	—	—	—	80.0	

【参考】

女性 20～40 歳代	35	37.1	5.7	2.9	45.7	2.9	—	5.7	—	—
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ	18	55.6	11.1	5.6	22.2	—	—	5.6	—
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	15	13.3	—	—	80.0	6.7	—	—	—
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	一生職業を持たない	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	わからない	2	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—
	その他	0	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	

5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと

問10 あなたの職場で、女性と男性は平等でないと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

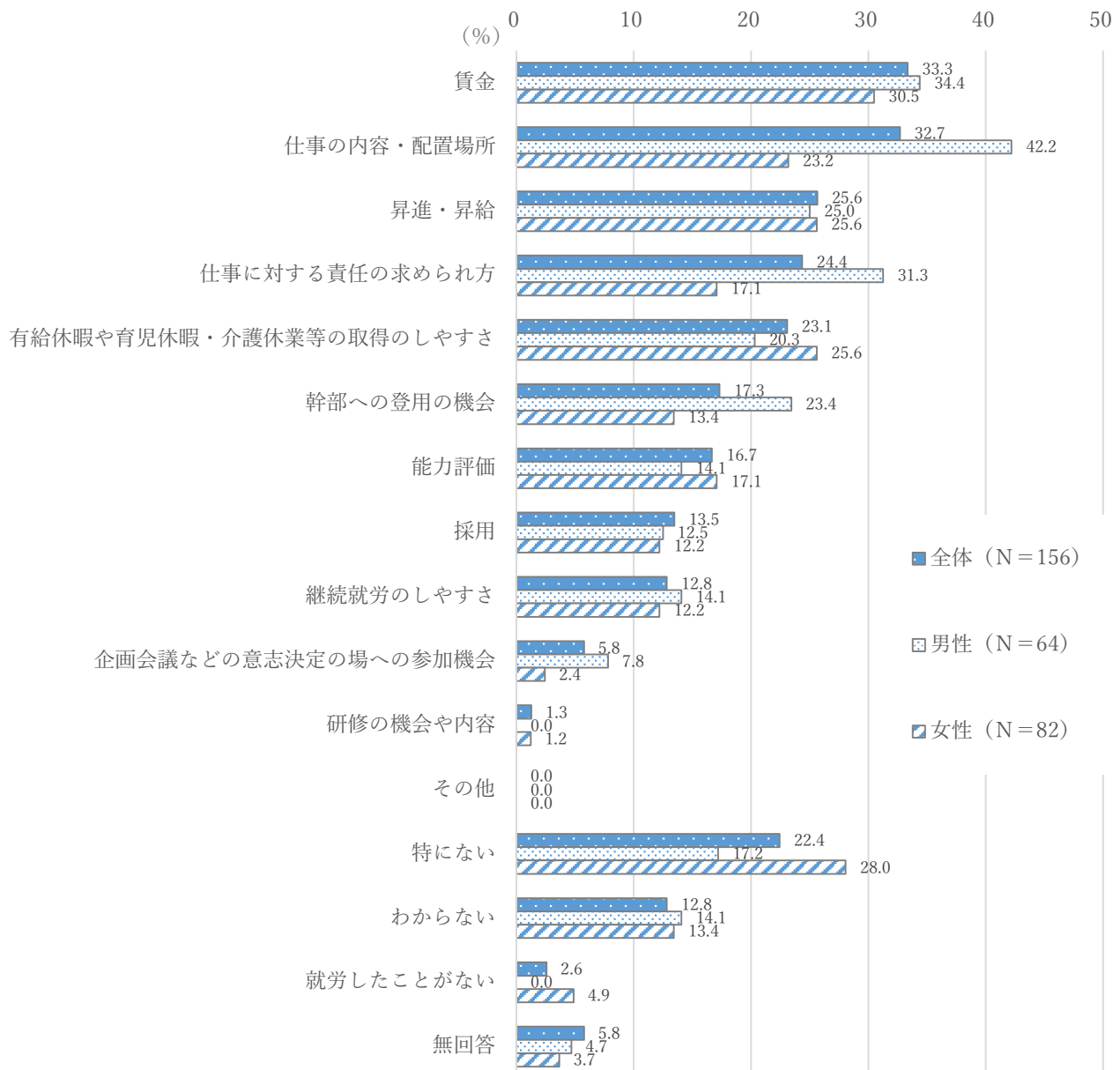
○男女ともに上位項目は、「賃金」となっている。

○「仕事の内容・配置場所」、「仕事に対する責任の求められた方」では、男性が女性より10ポイント以上高くなっている。

働く場で男女が平等でないと思うことについて、全体では「賃金」が33.3%と最も高く、次いで「仕事の内容・配置場所」が32.7%、「昇進・昇給」が25.6%となっている。

性別で見ると、差がみられた上位は「仕事の内容・配置場所」(19.0ポイント差)、「仕事に対する責任の求められ方」(14.2ポイント差)、「幹部への登用の機会」(10.0ポイント差)で、いずれも男性が女性よりも高くなっている。一方、「有給休暇や育児休暇・介護休業等の取得のしやすさ」では女性(25.6%)が男性(20.3%)より5.3ポイント高くなっている。

図5-2-1 性別 働く場で男女が平等でないと思うこと



性年代別でみると、20～30歳代の男女では「仕事の内容・配置場所」がそれぞれ上位2項目となっている。

表5-2-1 性年代別 働く場で男女が平等でないと思うこと

(全体：件数、横：%)

	全体	賃金	採用	昇進・昇給	能力評価	仕事の内容・配置場所	仕事に対する責任の求められ方	企画会議などの意志決定の場への参加機会	幹部への登用の機会	研修の機会や内容	有給休暇や育児休暇・介護休業等の取得のしやすさ	継続就労のしやすさ	その他	特にない	わからない	就労したことがない	無回答	
全体	156	33.3	13.5	25.6	16.7	32.7	24.4	5.8	17.3	1.3	23.1	12.8	—	22.4	12.8	2.6	5.8	
男性	20歳代	7	14.3	42.9	28.6	28.6	57.1	28.6	14.3	42.9	—	42.9	28.6	—	14.3	14.3	—	—
	30歳代	10	20.0	—	30.0	—	50.0	40.0	—	30.0	—	20.0	—	—	20.0	20.0	—	—
	40歳代	5	40.0	20.0	20.0	—	20.0	—	—	—	—	20.0	—	—	20.0	20.0	—	—
	50歳代	9	11.1	11.1	22.2	33.3	55.6	33.3	11.1	—	—	11.1	11.1	—	—	11.1	—	22.2
	60歳代	20	50.0	5.0	30.0	5.0	35.0	40.0	5.0	35.0	—	20.0	20.0	—	20.0	5.0	—	—
	70歳以上	13	46.2	15.4	15.4	23.1	38.5	23.1	15.4	15.4	—	15.4	15.4	—	23.1	23.1	—	7.7
女性	20歳代	7	—	—	—	—	42.9	14.3	14.3	28.6	—	28.6	—	—	28.6	14.3	14.3	—
	30歳代	14	21.4	14.3	28.6	7.1	28.6	7.1	—	14.3	—	14.3	14.3	—	42.9	—	7.1	14.3
	40歳代	14	35.7	21.4	21.4	28.6	14.3	21.4	—	7.1	—	35.7	21.4	—	28.6	14.3	—	—
	50歳代	11	63.6	27.3	45.5	27.3	36.4	36.4	—	9.1	—	36.4	9.1	—	9.1	9.1	—	—
	60歳代	20	30.0	5.0	30.0	25.0	15.0	20.0	—	15.0	—	25.0	15.0	—	25.0	25.0	—	—
	70歳以上	16	25.0	6.3	18.8	6.3	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	18.8	6.3	—	31.3	12.5	12.5	6.3

職業別でみると、男性の「雇用者」は、「仕事の内容・配置場所」が4割半ばと最も高く、次いで「仕事に対する責任の求められ方」が4割強、「有給休暇や育児休暇・介護休業等の取得のしやすさ」が2割半ばと続いている。一方、女性の「雇用者」では、「賃金」、「仕事の内容・配置場所」、「有給休暇や育児休暇・介護休業等の取得のしやすさ」が3割半ばと最も高い。「無職」では、男女ともに「賃金」が最も高くなっている。「家族従事者」では、男女ともに「特にない」、「わからない」を合わせた『不明』が上位となっている。

表5-2-2 職業別 働く場で男女が平等でないと思うこと

(全体：件数、横：%)

	全体	賃金	採用	昇進・昇給	能力評価	仕事の内容・配置場所	仕事に対する責任の求められ方	企画会議などの意志決定の場への参加機会	幹部への登用の機会	研修の機会や内容	有給休暇や育児休暇・介護休業等の取得のしやすさ	継続就労のしやすさ	その他	特にない	わからない	就労したことがない	無回答	
全体	64	34.4	12.5	25.0	14.1	42.2	31.3	7.8	23.4	—	20.3	14.1	—	17.2	14.1	—	4.7	
男性	自営業主	12	50.0	16.7	25.0	8.3	50.0	25.0	—	16.7	—	16.7	25.0	—	16.7	16.7	—	8.3
	家族従事者	2	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—	
	会社などの役員	3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—	33.3	33.3	—	—
	雇用者	28	17.9	10.7	21.4	21.4	46.4	39.3	10.7	25.0	—	25.0	14.3	—	14.3	10.7	—	—
	無職	17	52.9	17.6	41.2	11.8	35.3	35.3	11.8	35.3	—	11.8	11.8	—	17.6	11.8	—	11.8
女性	自営業主	9	33.3	11.1	33.3	—	22.2	—	—	11.1	—	11.1	—	—	55.6	—	—	—
	家族従事者	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3	33.3	33.3
	会社などの役員	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—
	雇用者	41	34.1	14.6	29.3	19.5	34.1	22.0	2.4	14.6	—	34.1	19.5	—	29.3	7.3	—	2.4
	無職	26	30.8	15.4	26.9	23.1	7.7	19.2	3.8	15.4	3.8	19.2	7.7	—	19.2	26.9	11.5	3.8

5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

問11 女性が結婚後、出産後も継続的に就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

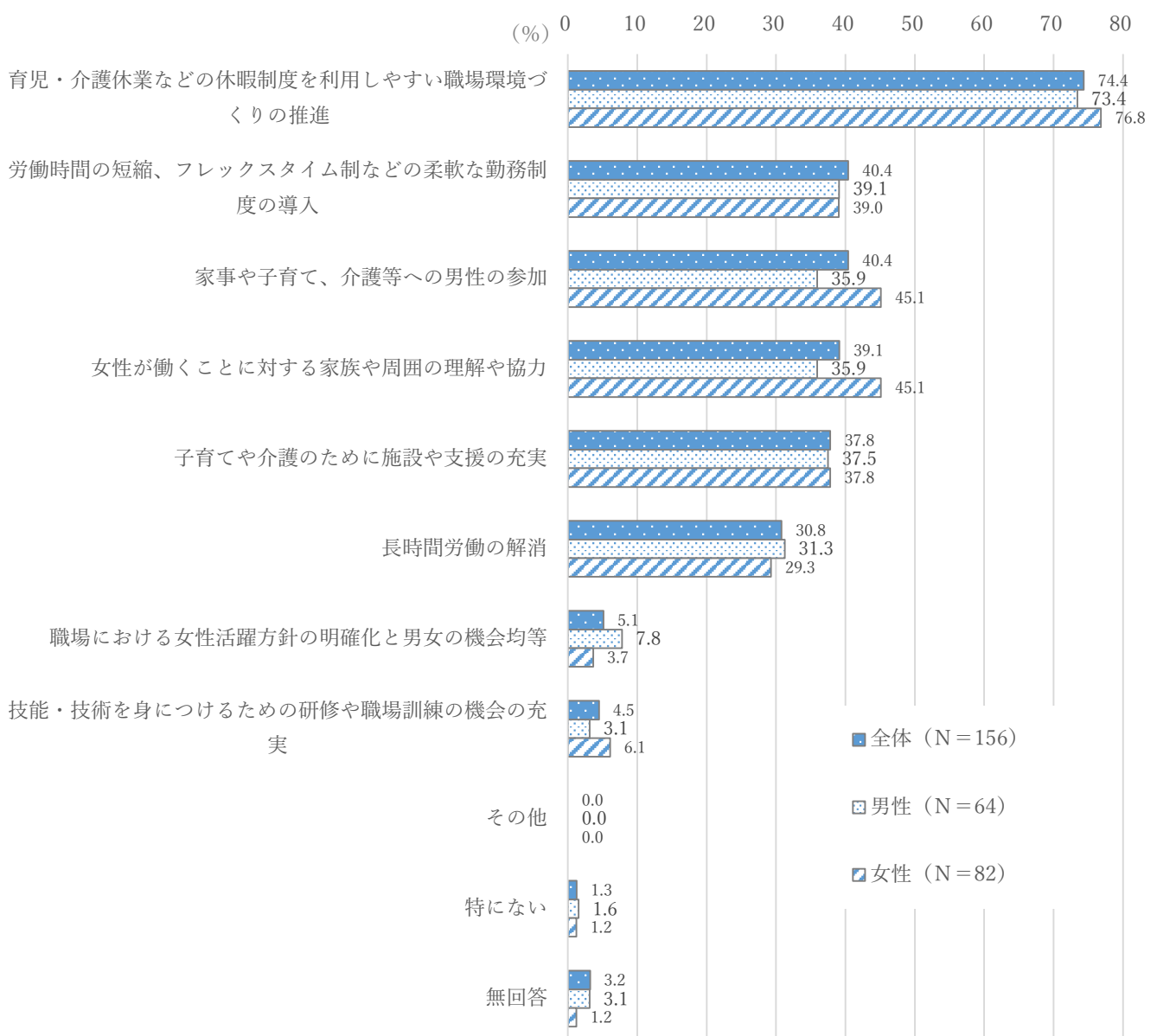
○全体では「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が7割半ばで突出して高くなっている。

○「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」では、女性が男性より高く、差がみられた。

女性が継続的に就労するために必要だと思うことについて、全体では「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が74.4%と最も高く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が40.4%、「家事や子育て、介護等への男性の参加」が40.4%となっている。

性別で見ると、差がみられた「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」(9.2ポイント差)、「家事や子育て、介護等への男性の参加」(9.2ポイント差)では、ともに女性が男性より高くなっている。

図5-3-1 性別 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと



性年代別でみると、全世代の男女で「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が高い割合となっている。20歳代の男女では「家事や子育て、介護等への男性の参加」、30歳代の男女では、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」、70歳代の男女では、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」が上位2項目となっている。

表5-3-1 性年代別 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

(全体：件数、横：%)

	全体	育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進	労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	長時間労働の解消	職場における女性活躍方針の明確化と男女の機会均等	技能・技術を身につけるための研修や職場訓練の機会の充実	子育てや介護のために施設や支援の充実	女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力	家事や子育て、介護等への男性の参加	その他	特になし	無回答
全体	156	74.4	40.4	30.8	5.1	4.5	37.8	39.1	40.4	—	1.3	3.2
男性	20歳代	7	57.1	57.1	14.3	14.3	—	28.6	42.9	71.4	—	—
	30歳代	10	100.0	70.0	30.0	—	—	20.0	40.0	30.0	—	—
	40歳代	5	60.0	20.0	20.0	—	—	60.0	20.0	20.0	—	—
	50歳代	9	66.7	22.2	22.2	22.2	—	33.3	44.4	33.3	—	11.1
	60歳代	20	85.0	30.0	40.0	5.0	5.0	40.0	25.0	35.0	—	5.0
	70歳以上	13	53.8	38.5	38.5	7.7	7.7	46.2	46.2	30.8	—	7.7
女性	20歳代	7	85.7	14.3	28.6	—	—	28.6	71.4	71.4	—	—
	30歳代	14	71.4	71.4	28.6	—	14.3	28.6	7.1	28.6	—	7.1
	40歳代	14	78.6	28.6	50.0	—	7.1	28.6	57.1	50.0	—	—
	50歳代	11	81.8	54.5	9.1	—	—	54.5	45.5	27.3	—	—
	60歳代	20	70.0	30.0	30.0	5.0	5.0	45.0	40.0	65.0	—	5.0
	70歳以上	16	81.3	31.3	25.0	12.5	6.3	37.5	62.5	31.3	—	—

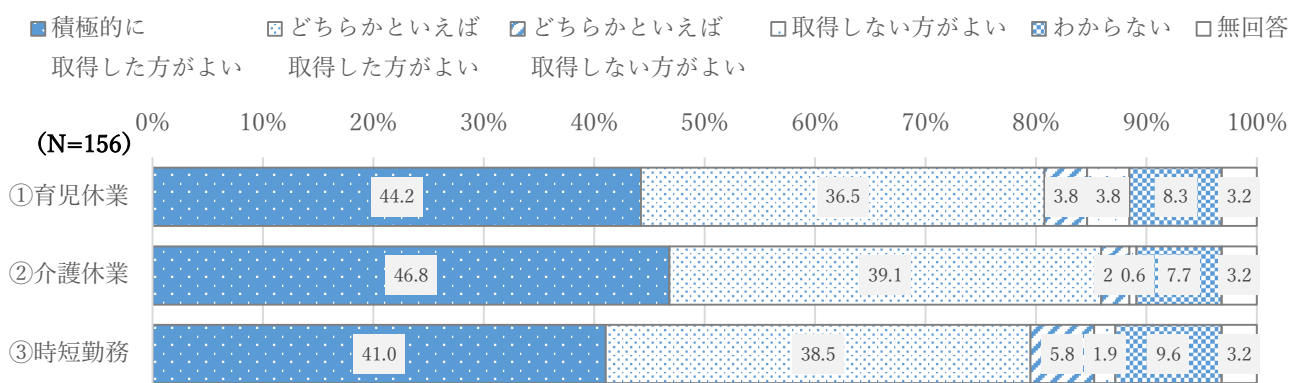
5-4 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて

問12 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は8割前後となっている。
- 育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は女性が男性よりも高くなっている。
- 育児休業の「積極的に取得した方がよい」では、男女20～30歳代で6割半ばと、高くなっている。

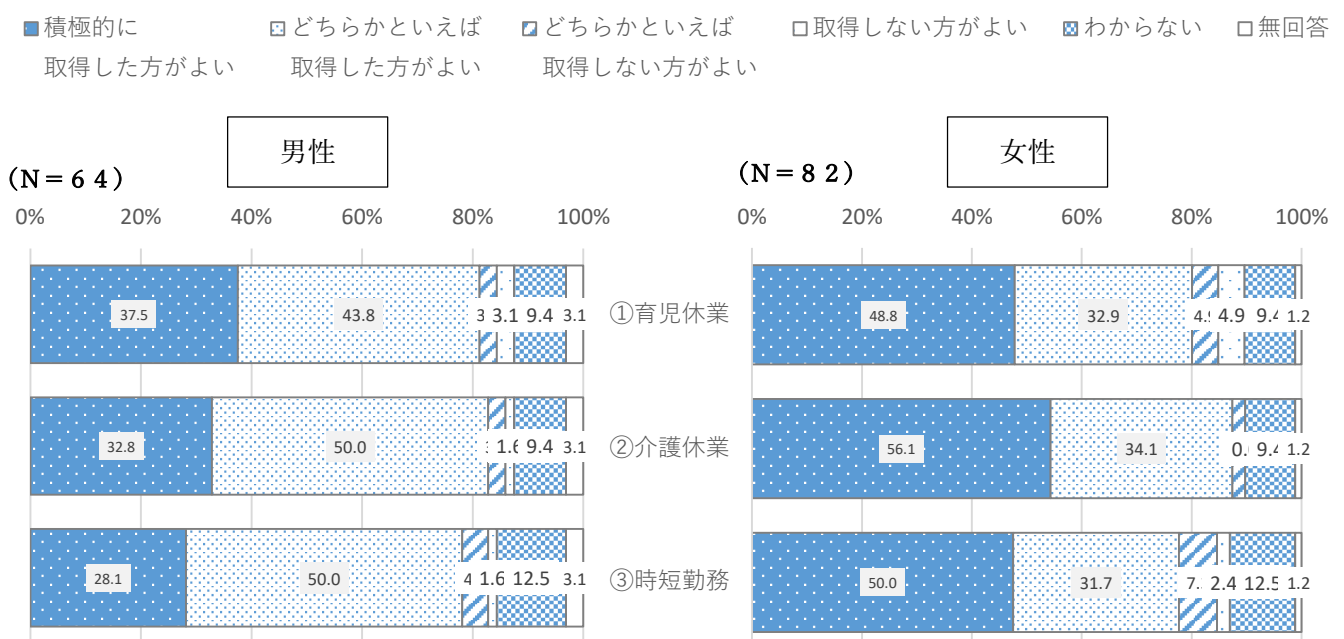
男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて、全体では『肯定的な意見』は「①育児休業」、「②介護休業」がともに8割超、「③時短勤務」は7割強と、いずれも高くなっている。『否定的な意見』はいずれも1割未満となった。

図5-4-1 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて



性別でみると、育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は女性が男性よりも高く、「②介護休業」では7ポイント以上の差がみられた。

図5-4-2 性別 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて



性年代別でみると、「①育児休業」の「積極的に取得した方がよい」は、男女20～30歳代では6割前後と高い一方で、男女70歳以上では3割以下にとどまっている。「②介護休業」では「積極的に取得した方がよい」は、男性の20歳代で5割半ば、女性のすべての世代で一番高い割合となっている。また、「③時短勤務」でも「②介護休業」と同様の傾向がみられる。

表5-4-1 性年代別 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて

① 育児休業		全体	積極的に取得した方がよい	どちらかといえば取得した方がよい	どちらかといえば取得しない方がよい	取得しない方がよい	わからない	無回答
全体		156	44.2	36.5	3.8	3.8	8.3	3.2
男性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
	30歳代	10	60.0	20.0	—	10.0	10.0	—
	40歳代	5	—	100.0	—	—	—	—
	50歳代	9	22.2	44.4	—	—	22.2	11.1
	60歳代	20	55.0	35.0	—	—	10.0	—
	70歳以上	13	7.7	53.8	15.4	7.7	7.7	7.7
	女性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—
30歳代		14	57.1	14.3	—	14.3	7.1	7.1
40歳代		14	28.6	42.9	7.1	7.1	14.3	—
50歳代		11	54.5	27.3	—	9.1	9.1	—
60歳代		20	60.0	35.0	5.0	—	—	—
70歳以上		16	37.5	37.5	12.5	—	12.5	—

② 介護休業

全体		156	46.8	39.1	2.6	0.6	7.7	3.2
男性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
	30歳代	10	40.0	50.0	—	—	10.0	—
	40歳代	5	20.0	80.0	—	—	—	—
	50歳代	9	22.2	44.4	—	—	22.2	11.1
	60歳代	20	45.0	45.0	—	—	10.0	—
	70歳以上	13	7.7	53.8	15.4	7.7	7.7	7.7
	女性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—
30歳代		14	64.3	21.4	—	—	7.1	7.1
40歳代		14	42.9	42.9	7.1	—	7.1	—
50歳代		11	63.6	27.3	—	—	9.1	—
60歳代		20	65.0	30.0	5.0	—	—	—
70歳以上		16	43.8	43.8	—	—	12.5	—

③ 時短勤務

全体		156	41.0	38.5	5.8	1.9	9.6	3.2
男性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—	—
	30歳代	10	40.0	30.0	—	10.0	20.0	—
	40歳代	5	—	100.0	—	—	—	—
	50歳代	9	11.1	55.6	—	—	22.2	11.1
	60歳代	20	35.0	45.0	10.0	—	10.0	—
	70歳以上	13	15.4	53.8	7.7	—	15.4	7.7
	女性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—	—
30歳代		14	57.1	21.4	7.1	—	7.1	7.1
40歳代		14	35.7	35.7	7.1	7.1	14.3	—
50歳代		11	45.5	45.5	—	9.1	—	—
60歳代		20	50.0	30.0	15.0	—	5.0	—
70歳以上		16	56.3	25.0	6.3	—	12.5	—

6. 社会活動、地域活動等について

6-1 現在参加している社会活動、地域活動

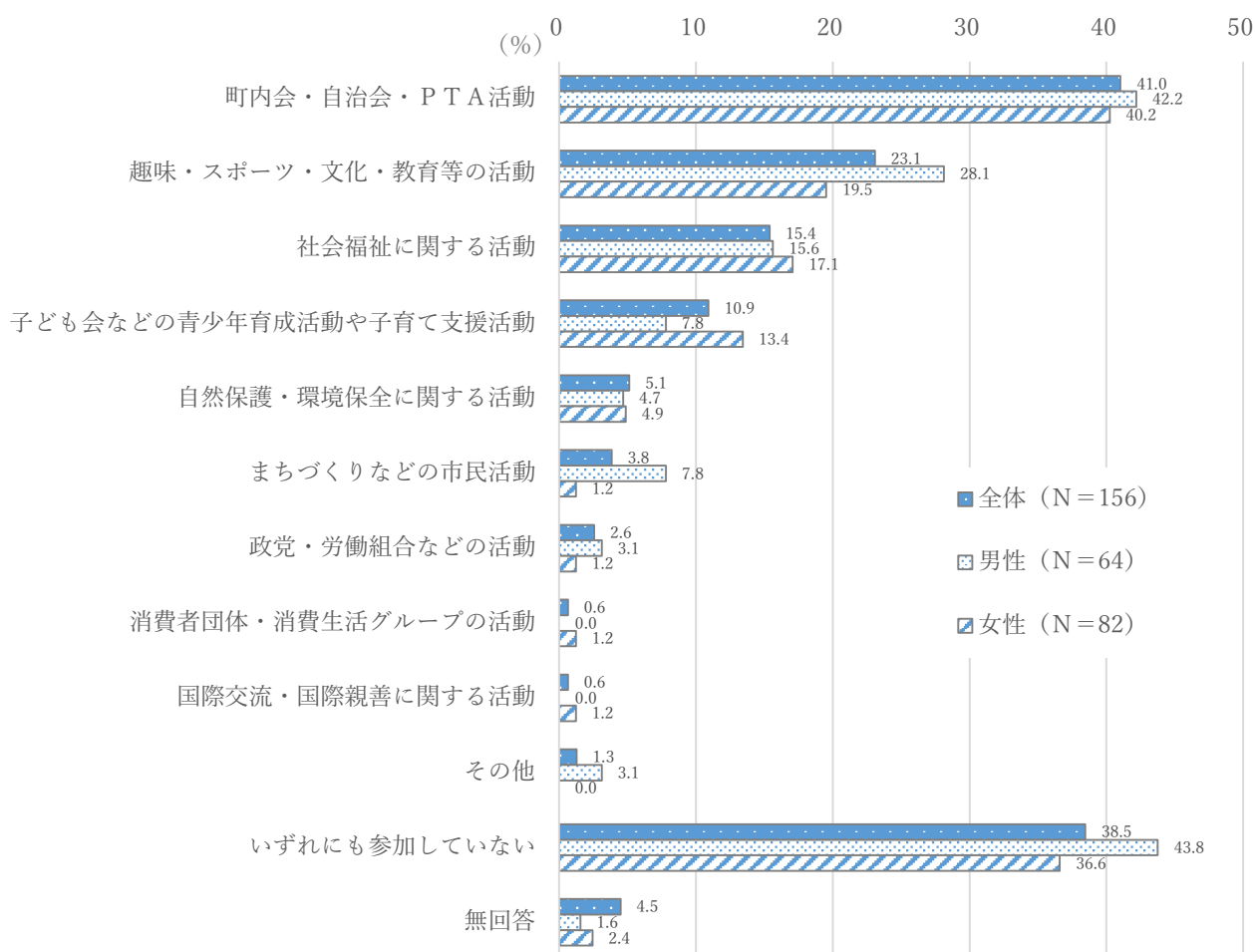
問13 あなたが現在参加している社会活動、地域活動をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

- 「町内会・自治会・PTA活動」が4割越で最も高く、次いで「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が2割となり、他の項目では1割以下となっている。
- 「いずれにも参加していない」は男女とも高く、特に男性が女性より高くなっている。

現在参加している社会活動、地域活動について、全体では「町内会・自治会・PTA活動」が41.0%と最も高い。次いで、「いずれにも参加していない」が38.5%となっている。参加している活動の中では、「町内会・自治会・PTA活動」が41.0%、「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が23.1%、「社会福祉に関する活動」が15.4%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「趣味・スポーツ・文化・教育等の活動」では、男性（28.1%）が女性（19.5%）より8.6ポイント高くなっている。次いで、「いずれにも参加していない」では、男性（43.8%）が女性（36.6%）より7.2ポイント高くなっている。参加している活動としては男女ともに「町内会・自治会・PTA活動」が最も高くなった。

図6-1-1 性別 現在参加している社会活動、地域活動



性年代別でみると、男女ともに20～30歳代では「参加していない」が4割を超えている。女性の40～60歳代と男性の60歳代では「町内会・自治会・PTA活動」が、最も高くなっている。

表6-1-1 性年代別 現在参加している社会活動、地域活動

(全体：件数、横：%)

		全体	町内会・自治会・PTA活動	子ども会などの青少年育成活動や子育て支援活動	社会福祉に関する活動	消費者団体・消費生活グループの活動	趣味・スポーツ・文化・教育等の活動	国際交流・国際親善に関する活動	自然保護・環境保全に関する活動	まちづくりなどの市民活動	政党・労働組合などの活動	その他	いずれにも参加していない	無回答
全体		156	41.0	10.9	15.4	0.6	23.1	0.6	5.1	3.8	2.6	1.3	38.5	4.5
男性	20歳代	7	28.6	—	—	—	28.6	—	—	—	—	14.3	42.9	—
	30歳代	10	40.0	20.0	—	—	40.0	—	10.0	10.0	—	—	40.0	—
	40歳代	5	40.0	40.0	20.0	—	20.0	—	—	—	—	—	60.0	—
	50歳代	9	11.1	—	11.1	—	11.1	—	—	—	—	—	66.7	11.1
	60歳代	20	65.0	5.0	25.0	—	30.0	—	—	10.0	5.0	—	30.0	—
	70歳以上	13	38.5	—	23.1	—	30.8	—	15.4	15.4	7.7	7.7	46.2	—
女性	20歳代	7	—	14.3	—	—	14.3	—	—	—	—	—	57.1	14.3
	30歳代	14	35.7	21.4	—	—	14.3	—	—	—	—	—	57.1	—
	40歳代	14	64.3	28.6	—	—	21.4	—	14.3	—	—	—	0.0	—
	50歳代	11	36.4	—	27.3	—	27.3	—	9.1	—	—	—	27.3	9.1
	60歳代	20	45.0	10.0	30.0	—	10.0	5.0	—	—	—	—	40.0	—
	70歳以上	16	37.5	6.3	31.3	6.3	31.3	—	6.3	6.3	6.3	—	43.8	—

6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと

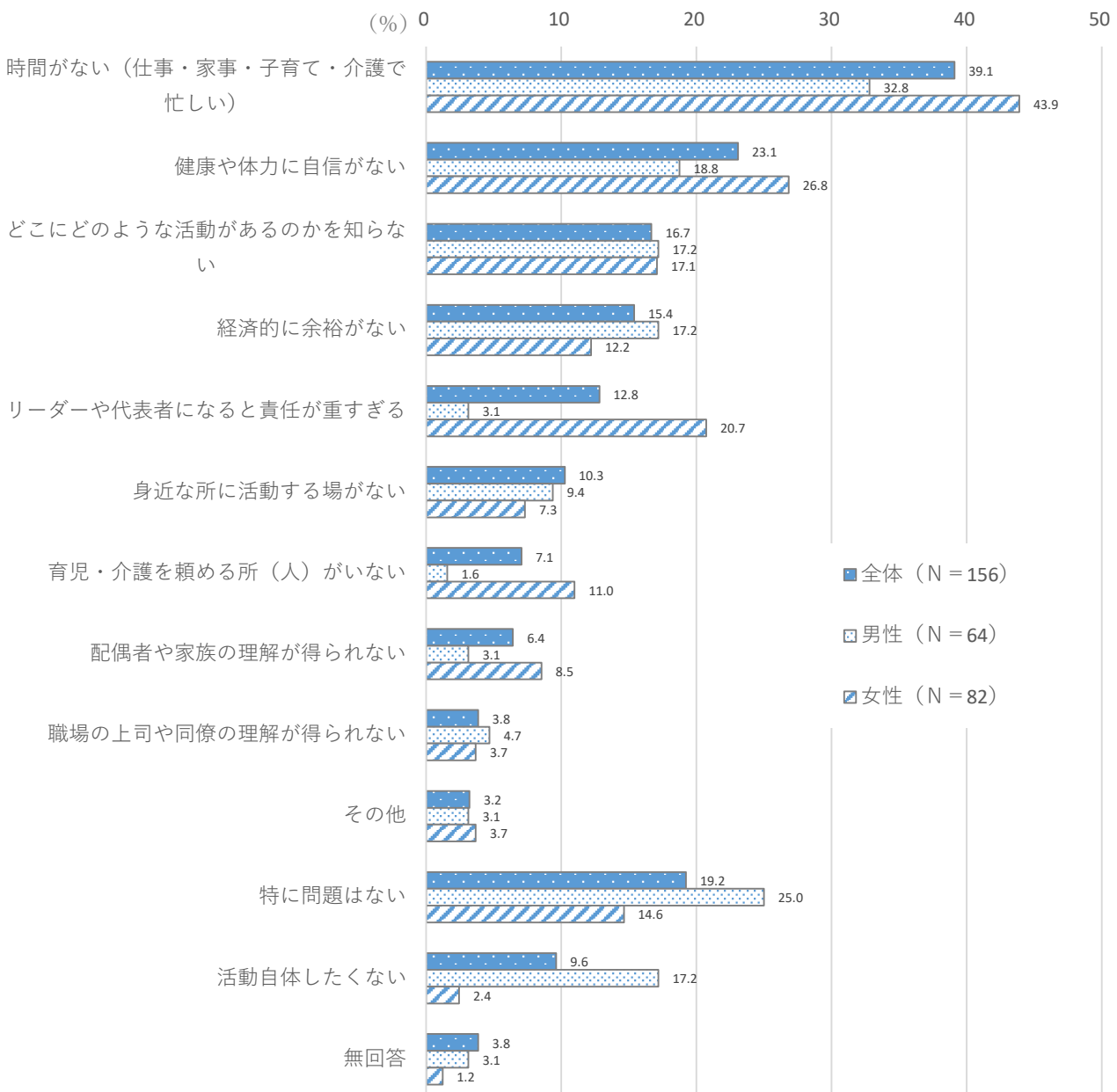
問14 あなたが社会活動、地域活動を行う上で、どのようなことが問題になると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 「時間がない（仕事・家事・子育て・介護で忙しい）」は男女ともに3割を超えて高くなっている。
- 「リーダーや代表者になると責任が重すぎる」では、女性が男性より17.6ポイント高く、大きな差がみられた。

社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うことについて、全体では「時間がない（仕事・家事・子育て・介護で忙しい）」が39.1%と最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」が23.1%、「特に問題はない」が19.2%となっている。

性別で見ると、最も差がみられた「リーダーや代表者になると責任が重すぎる」では、女性（20.7%）が男性（3.1%）より17.6ポイント高くなっている。次いで、「活動自体したくない」では、男性（17.2%）が女性（2.4%）より14.7ポイント高くなっている。

図6-2-1 性別 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと



性年代別でみると、男女ともに40歳代以下では「時間がない（仕事・家事・子育て・介護で忙しい）」が最も高くなっている。また、男女ともに70歳以上では「健康や体力に自信がない」が4割半ばを超え最も高くなっている。

表6-2-1 性年代別 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと

(全体：件数、横：%)

	全体	時間がない（仕事・家事・子育て・介護で忙しい）	育児・介護を頼める所（人）がない	健康や体力に自信がない	身近な所に活動する場がない	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	リーダーや代表者になると責任が重すぎる	どこにどのような活動があるのかを知らない	その他	特に問題はない	活動自体したくない	無回答	
全体	156	39.1	7.1	23.1	10.3	15.4	6.4	3.8	12.8	16.7	3.2	19.2	9.6	3.8	
男性	20歳代	7	71.4	—	—	14.3	14.3	—	14.3	—	28.6	—	28.6	—	
	30歳代	10	40.0	—	—	10.0	10.0	—	—	—	40.0	10.0	20.0	30.0	
	40歳代	5	60.0	—	—	—	60.0	20.0	20.0	20.0	40.0	—	—	20.0	
	50歳代	9	22.2	—	33.3	—	22.2	—	—	—	22.2	—	11.1	22.2	11.1
	60歳代	20	30.0	—	15.0	10.0	15.0	5.0	5.0	5.0	—	—	40.0	10.0	5.0
	70歳以上	13	7.7	7.7	46.2	15.4	7.7	—	—	—	7.7	7.7	23.1	23.1	—
女性	20歳代	7	100.0	—	—	—	—	—	—	14.3	14.3	—	—	—	
	30歳代	14	57.1	21.4	—	7.1	—	7.1	7.1	50.0	28.6	14.3	14.3	7.1	
	40歳代	14	71.4	21.4	14.3	14.3	21.4	14.3	7.1	7.1	14.3	—	14.3	—	
	50歳代	11	36.4	18.2	9.1	—	18.2	—	—	18.2	9.1	9.1	27.3	—	9.1
	60歳代	20	25.0	5.0	40.0	5.0	5.0	15.0	5.0	30.0	15.0	—	5.0	5.0	—
	70歳以上	16	12.5	—	68.8	12.5	25.0	6.3	—	—	18.8	—	25.0	—	—

6-3 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること

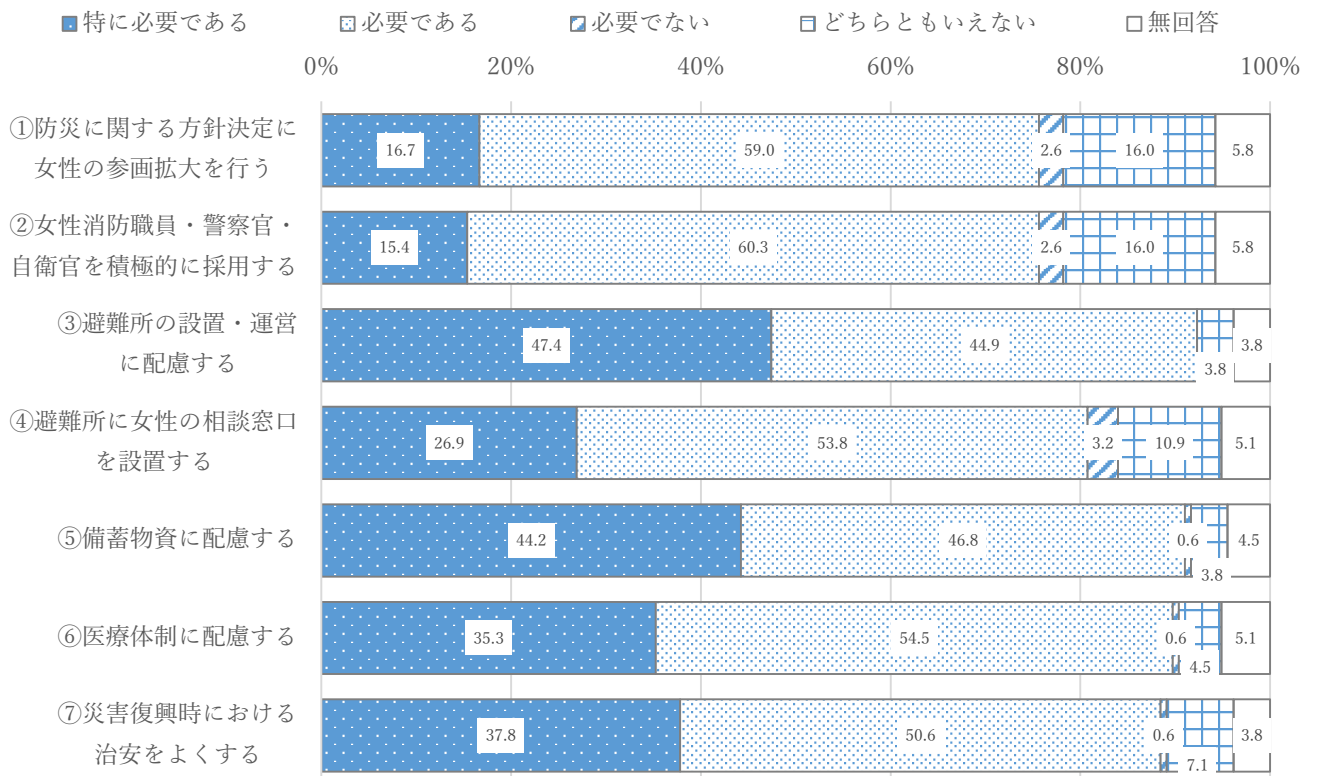
問15 防災・災害対策における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思うものをお答えください。（それぞれ1つに○）

- 『必要である』*は、「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」で9割を超えて、特に高くなっている。
- 「④避難所に女性の相談窓口を設置する」では、女性が男性より約11ポイント高くなっているが、他の項目では差はみられなかった。

※「特に必要である」と「必要である」を合わせたもの。

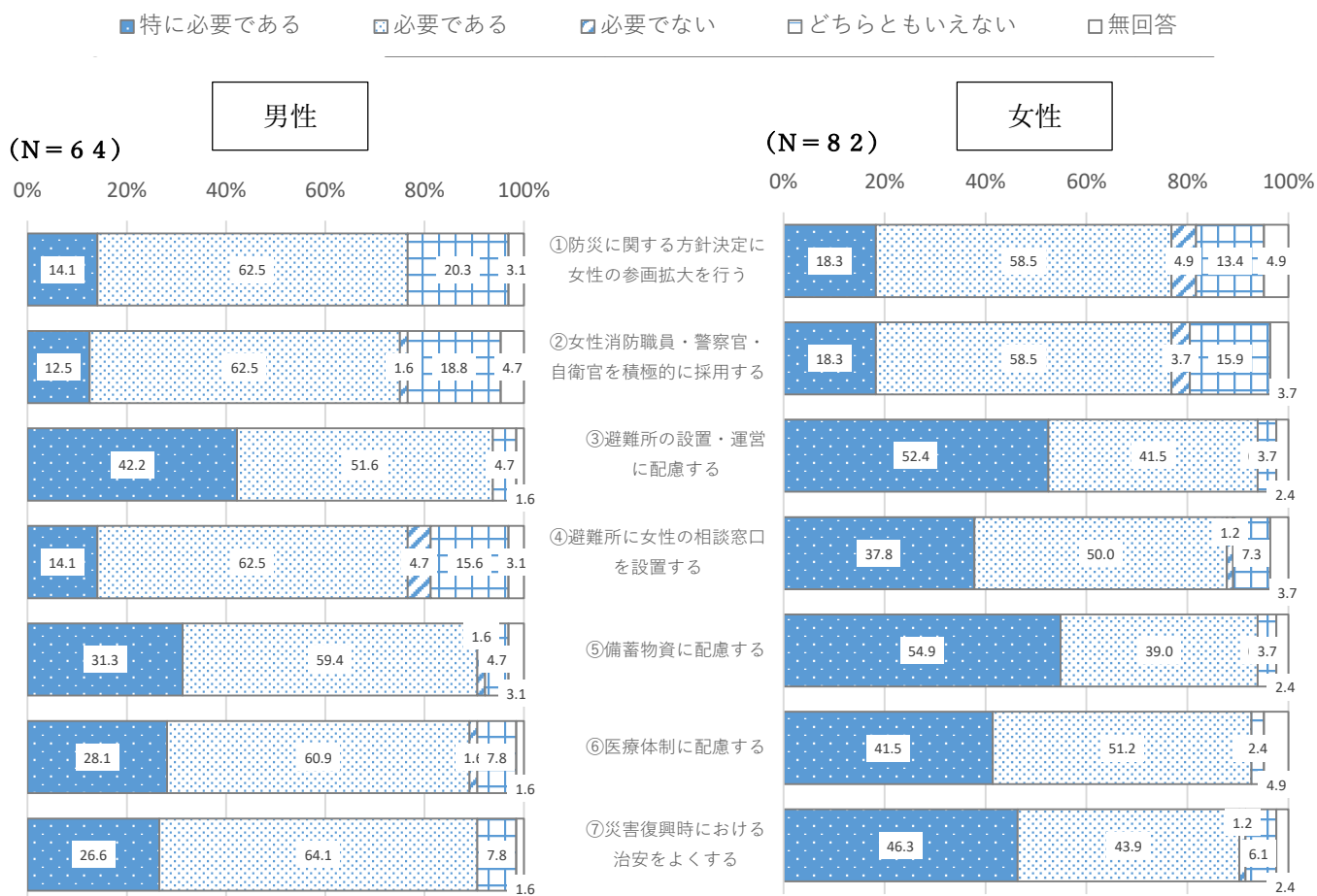
防災・災害対策で女性に配慮する必要があることについて、全体では『必要である』はすべての項目で7割を超えている。「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」では9割を超え、特に高くなっている。

図6-3-1 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること



性別で見ると、『必要である』で最も差がみられた「④避難所に女性の相談窓口を設置する」では、女性（87.8%）が男性（76.6%）より11.2ポイント高くなっている。他の項目では大きさ差はみられない。

図6-3-2 性別 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること



7. 人権、DV（配偶者等からの暴力）について

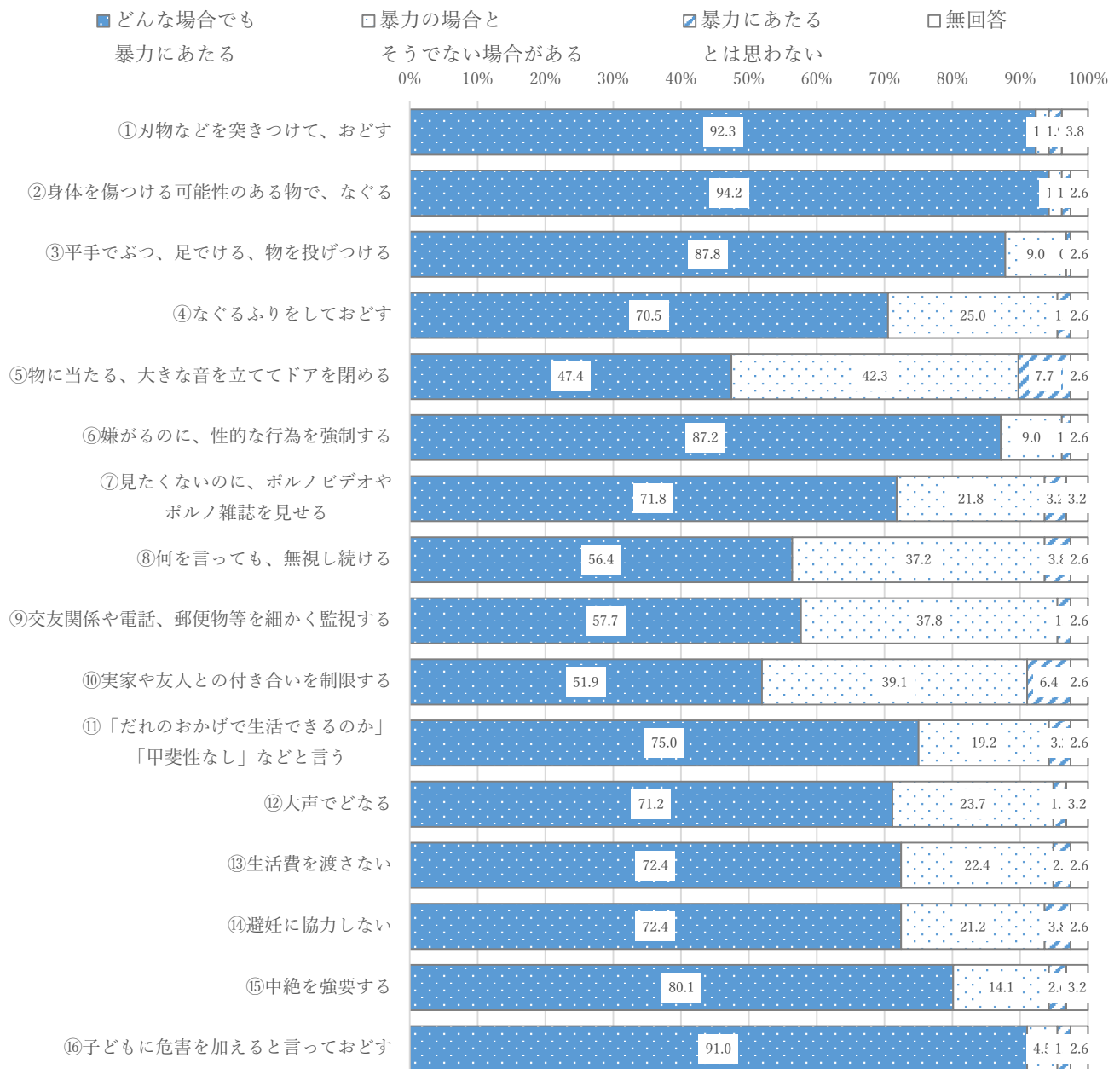
7-1 暴力とと思う行為

問16 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれ1つに○）

- 「どんな場合でも暴力にあたる」は、16項目中9項目で女性が男性より高くなっている。
- 「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」、「⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する」、「⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「⑭避妊に協力しない」の「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女ともに70歳以上が最も低くなっている。

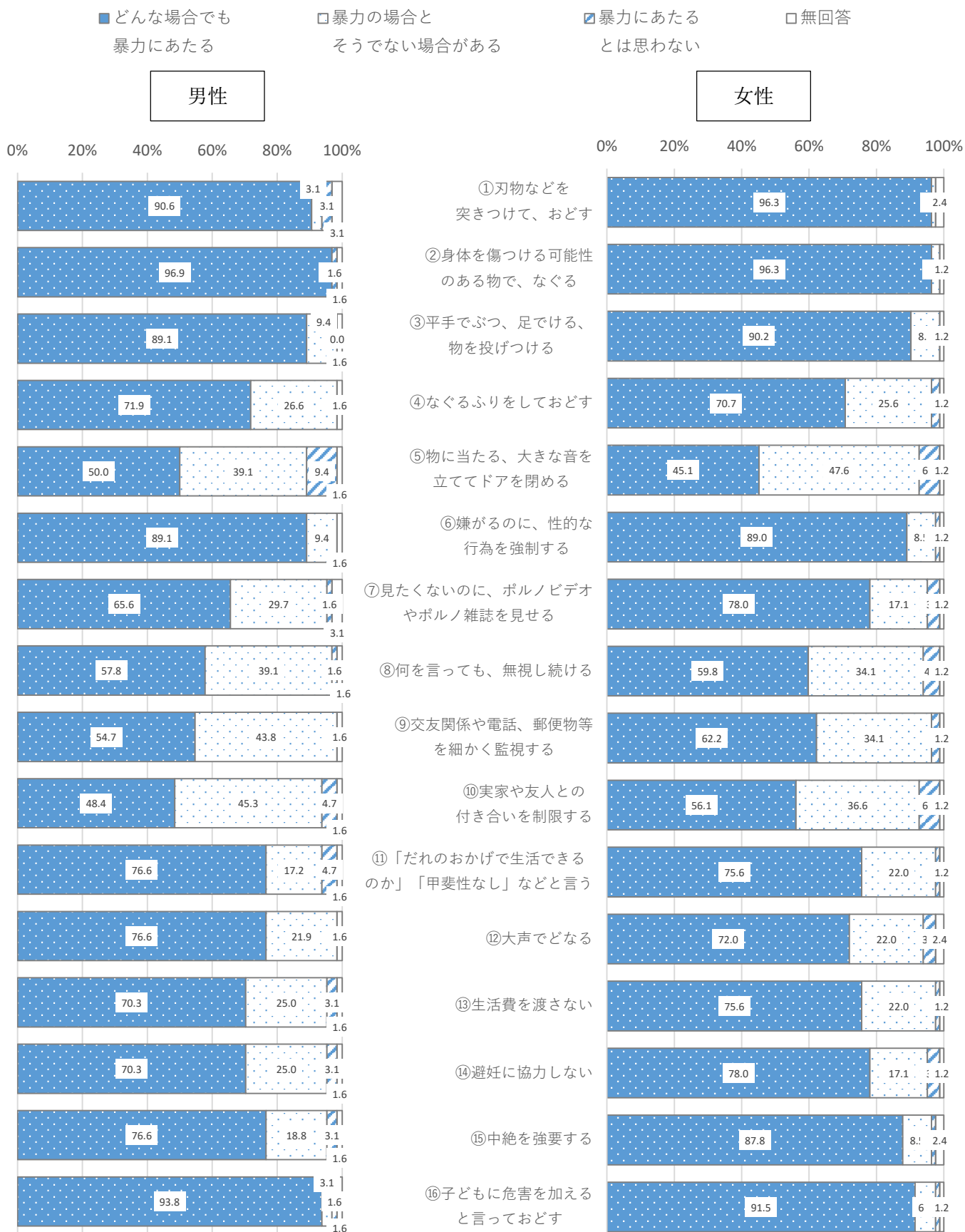
暴力とと思う行為について、全体では、「どんな場合でも暴力にあたる」は「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」が94.2%と最も高く、次いで「①刃物などを突きつけて、おどす」が92.3%、「⑩子どもに危害を加えると言っておどす」が91.0%となっている。

図7-1-1 暴力とと思う行為



「⑦見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」では、女性（78.0%）が男性（65.6%）より12.4ポイント高く、次いで「⑮中絶を強要する」では、11.2ポイントの差がみられた。

図7-1-2 性別 暴力と思う行為



性年代別でみると、「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」、「⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する」、「⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「⑭避妊に協力しない」の「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女ともに70歳以上が最も低くなっている。特に「⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する」「⑭避妊に協力しない」では、「どんな場合でも暴力にあたる」が男女ともに全体と比較して20ポイント以上低くなっている。

表7-1-1 性年代別 暴力と思う行為

① 刃物などを突きつけて、おどす

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	92.3	1.9	1.9	3.8
男性	20歳代	7	85.7	14.3	—
	30歳代	10	90.0	—	10.0
	40歳代	5	80.0	—	20.0
	50歳代	9	88.9	—	11.1
	60歳代	20	90.0	5.0	5.0
	70歳以上	13	100.0	—	—
	女性	20歳代	7	100.0	—
30歳代		14	100.0	—	—
40歳代		14	100.0	—	—
50歳代		11	100.0	—	—
60歳代		20	90.0	—	10.0
70歳以上		16	93.8	6.3	—

② 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	94.2	1.9	1.3	2.6
男性	20歳代	7	100.0	—	—
	30歳代	10	100.0	—	—
	40歳代	5	80.0	—	20.0
	50歳代	9	88.9	—	—
	60歳代	20	100.0	—	—
	70歳以上	13	100.0	—	—
	女性	20歳代	7	100.0	—
30歳代		14	92.9	7.1	—
40歳代		14	100.0	—	—
50歳代		11	100.0	—	—
60歳代		20	95.0	—	5.0
70歳以上		16	93.8	6.3	—

③ 平手でぶつ、足でける、物を投げつける

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	87.8	9.0	0.6	2.6
男性	20歳代	7	85.7	14.3	—
	30歳代	10	80.0	20.0	—
	40歳代	5	100.0	—	—
	50歳代	9	88.9	—	11.1
	60歳代	20	95.0	5.0	—
	70歳以上	13	84.6	15.4	—
	女性	20歳代	7	85.7	14.3
30歳代		14	92.9	7.1	—
40歳代		14	92.9	7.1	—
50歳代		11	100.0	—	—
60歳代		20	85.0	10.0	5.0
70歳以上		16	87.5	12.5	—

④ なぐるふりをしておどす

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	70.5	25.0	1.9	2.6
男性	20歳代	7	71.4	28.6	—
	30歳代	10	70.0	30.0	—
	40歳代	5	80.0	20.0	—
	50歳代	9	55.6	33.3	—
	60歳代	20	80.0	20.0	—
	70歳以上	13	69.2	30.8	—
	女性	20歳代	7	71.4	28.6
30歳代		14	78.6	21.4	—
40歳代		14	78.6	21.4	—
50歳代		11	63.6	36.4	—
60歳代		20	65.0	25.0	5.0
70歳以上		16	68.8	25.0	6.3

⑤ 物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	47.4	42.3	7.7	2.6
男性	20歳代	7	57.1	28.6	14.3
	30歳代	10	70.0	30.0	—
	40歳代	5	60.0	40.0	—
	50歳代	9	55.6	33.3	—
	60歳代	20	45.0	45.0	10.0
	70歳以上	13	30.8	46.2	23.1
	女性	20歳代	7	42.9	57.1
30歳代		14	64.3	28.6	7.1
40歳代		14	42.9	50.0	7.1
50歳代		11	36.4	63.6	—
60歳代		20	50.0	40.0	5.0
70歳以上		16	31.3	56.3	12.5

⑥ 嫌がるのに、性的な行為を強制する

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体	156	87.2	9.0	1.3	2.6
男性	20歳代	7	100.0	—	—
	30歳代	10	100.0	—	—
	40歳代	5	80.0	20.0	—
	50歳代	9	88.9	—	—
	60歳代	20	95.0	5.0	—
	70歳以上	13	69.2	30.8	—
	女性	20歳代	7	100.0	—
30歳代		14	100.0	—	—
40歳代		14	85.7	14.3	—
50歳代		11	90.9	9.1	—
60歳代		20	95.0	—	5.0
70歳以上		16	68.8	25.0	6.3

⑦見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	71.8	21.8	3.2	3.2	
男性	20歳代	7	85.7	—	14.3	—
	30歳代	10	80.0	20.0	—	—
	40歳代	5	80.0	20.0	—	—
	50歳代	9	44.4	33.3	—	22.2
	60歳代	20	75.0	25.0	—	—
	70歳以上	13	38.5	61.5	—	—
女性	20歳代	7	100.0	—	—	—
	30歳代	14	85.7	14.3	—	—
	40歳代	14	71.4	14.3	14.3	—
	50歳代	11	90.9	9.1	—	—
	60歳代	20	80.0	15.0	—	5.0
	70歳以上	16	56.3	37.5	6.3	—

⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	57.7	37.8	1.9	2.6	
男性	20歳代	7	42.9	57.1	—	—
	30歳代	10	90.0	10.0	—	—
	40歳代	5	40.0	60.0	—	—
	50歳代	9	44.4	44.4	—	11.1
	60歳代	20	65.0	35.0	—	—
	70歳以上	13	30.8	69.2	—	—
女性	20歳代	7	71.4	28.6	—	—
	30歳代	14	78.6	21.4	—	—
	40歳代	14	57.1	42.9	—	—
	50歳代	11	63.6	36.4	—	—
	60歳代	20	70.0	25.0	—	5.0
	70歳以上	16	37.5	50.0	12.5	—

⑪「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	75.0	19.2	3.2	2.6	
男性	20歳代	7	57.1	28.6	14.3	—
	30歳代	10	90.0	10.0	—	—
	40歳代	5	60.0	40.0	—	—
	50歳代	9	55.6	22.2	11.1	11.1
	60歳代	20	85.0	10.0	5.0	—
	70歳以上	13	84.6	15.4	—	—
女性	20歳代	7	100.0	—	—	—
	30歳代	14	78.6	21.4	—	—
	40歳代	14	85.7	14.3	—	—
	50歳代	11	63.6	36.4	—	—
	60歳代	20	85.0	10.0	—	5.0
	70歳以上	16	50.0	43.8	6.3	—

⑧何を言っても、無視し続ける

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	56.4	37.2	3.8	2.6	
男性	20歳代	7	42.9	57.1	—	—
	30歳代	10	80.0	20.0	—	—
	40歳代	5	40.0	60.0	—	—
	50歳代	9	66.7	22.2	—	11.1
	60歳代	20	60.0	40.0	—	—
	70歳以上	13	46.2	46.2	7.7	—
女性	20歳代	7	71.4	28.6	—	—
	30歳代	14	71.4	28.6	—	—
	40歳代	14	71.4	21.4	7.1	—
	50歳代	11	45.5	54.5	—	—
	60歳代	20	70.0	25.0	—	5.0
	70歳以上	16	31.3	50.0	18.8	—

⑩実家や友人との付き合いを制限する

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	51.9	39.1	6.4	2.6	
男性	20歳代	7	42.9	42.9	14.3	—
	30歳代	10	80.0	20.0	—	—
	40歳代	5	40.0	60.0	—	—
	50歳代	9	22.2	55.6	11.1	11.1
	60歳代	20	60.0	40.0	—	—
	70歳以上	13	30.8	61.5	7.7	—
女性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—
	30歳代	14	71.4	21.4	7.1	—
	40歳代	14	64.3	35.7	—	—
	50歳代	11	45.5	54.5	—	—
	60歳代	20	65.0	25.0	5.0	5.0
	70歳以上	16	31.3	50.0	18.8	—

⑫大声でどなる

(全体：件数、横：%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	156	71.2	23.7	1.9	3.2	
男性	20歳代	7	42.9	57.1	—	—
	30歳代	10	90.0	10.0	—	—
	40歳代	5	80.0	20.0	—	—
	50歳代	9	66.7	22.2	—	11.1
	60歳代	20	90.0	10.0	—	—
	70歳以上	13	69.2	30.8	—	—
女性	20歳代	7	71.4	28.6	—	—
	30歳代	14	78.6	21.4	—	—
	40歳代	14	64.3	35.7	—	—
	50歳代	11	81.8	18.2	—	—
	60歳代	20	90.0	5.0	—	5.0
	70歳以上	16	43.8	31.3	18.8	6.3

⑬生活費を渡さない

(全体：件数、横：%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		156	72.4	22.4	2.6	2.6
男性	20歳代	7	57.1	42.9	—	—
	30歳代	10	90.0	10.0	—	—
	40歳代	5	40.0	60.0	—	—
	50歳代	9	44.4	44.4	—	11.1
	60歳代	20	80.0	15.0	5.0	—
	70歳以上	13	76.9	15.4	7.7	—
	女性	20歳代	7	100.0	—	—
30歳代		14	85.7	14.3	—	—
40歳代		14	85.7	14.3	—	—
50歳代		11	72.7	27.3	—	—
60歳代		20	75.0	20.0	—	5.0
70歳以上		16	50.0	43.8	6.3	—

⑭避妊に協力しない

(全体：件数、横：%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		156	72.4	21.2	3.8	2.6
男性	20歳代	7	85.7	14.3	—	—
	30歳代	10	70.0	30.0	—	—
	40歳代	5	60.0	40.0	—	—
	50歳代	9	66.7	22.2	—	11.1
	60歳代	20	80.0	15.0	5.0	—
	70歳以上	13	53.8	38.5	7.7	—
	女性	20歳代	7	100.0	—	—
30歳代		14	92.9	7.1	—	—
40歳代		14	71.4	28.6	—	—
50歳代		11	81.8	18.2	—	—
60歳代		20	80.0	15.0	—	5.0
70歳以上		16	56.3	25.0	18.8	—

⑮中絶を強要する

(全体：件数、横：%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		156	80.1	14.1	2.6	3.2
男性	20歳代	7	85.7	14.3	—	—
	30歳代	10	100.0	—	—	—
	40歳代	5	60.0	40.0	—	—
	50歳代	9	77.8	11.1	—	11.1
	60歳代	20	85.0	10.0	5.0	—
	70歳以上	13	46.2	46.2	7.7	—
	女性	20歳代	7	100.0	—	—
30歳代		14	92.9	7.1	—	—
40歳代		14	92.9	7.1	—	—
50歳代		11	81.8	18.2	—	—
60歳代		20	95.0	—	—	5.0
70歳以上		16	68.8	18.8	6.3	6.3

⑯子どもに危害を加えると言っておどす

(全体：件数、横：%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		156	91.0	4.5	1.9	2.6
男性	20歳代	7	100.0	—	—	—
	30歳代	10	90.0	10.0	—	—
	40歳代	5	100.0	—	—	—
	50歳代	9	77.8	11.1	—	11.1
	60歳代	20	95.0	—	5.0	—
	70歳以上	13	100.0	—	—	—
	女性	20歳代	7	100.0	—	—
30歳代		14	100.0	—	—	—
40歳代		14	92.9	7.1	—	—
50歳代		11	90.9	9.1	—	—
60歳代		20	95.0	—	—	5.0
70歳以上		16	75.0	18.8	6.3	—

7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験

問 17 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。
(それぞれ1つに○)

○『DV経験あり』※は「②精神的暴力」で21.8%と最も高くなっている。

○すべての項目で『DV経験あり』は女性が男性より高くなっている。

※「何回もあった」、「1、2、回あった」を合わせたもの。

配偶者や恋人からの暴力の経験について、全体では、DV経験が1度でもあったという回答は「②精神的暴力」で21.8%と最も高く、次いで「①身体的暴力」が17.3%、「④経済的暴力」が7.7%となっている。

性別で見ると、すべての項目でDV経験は女性が男性より高く、最も差がみられた「②精神的暴力」では女性(29.3%)が男性(10.9%)より18.3ポイント高くなっている。

図7-2-1 配偶者や恋人からの暴力の経験

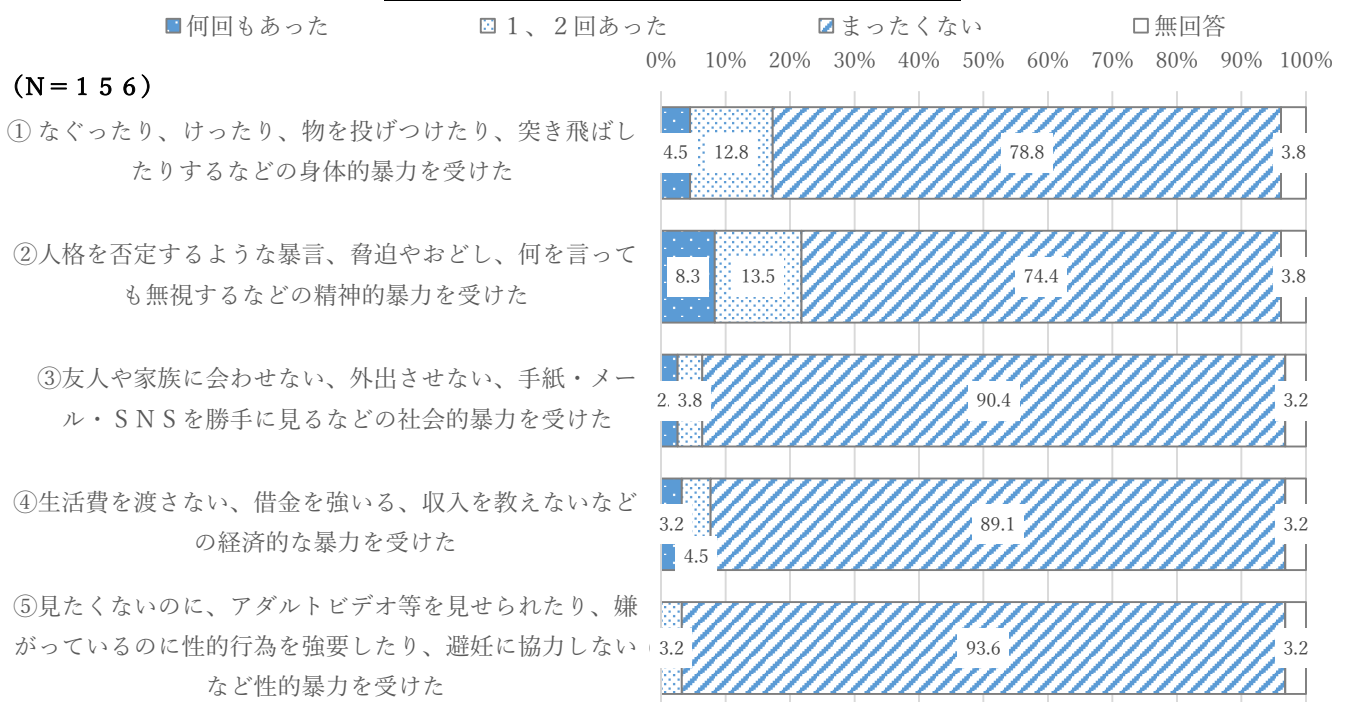
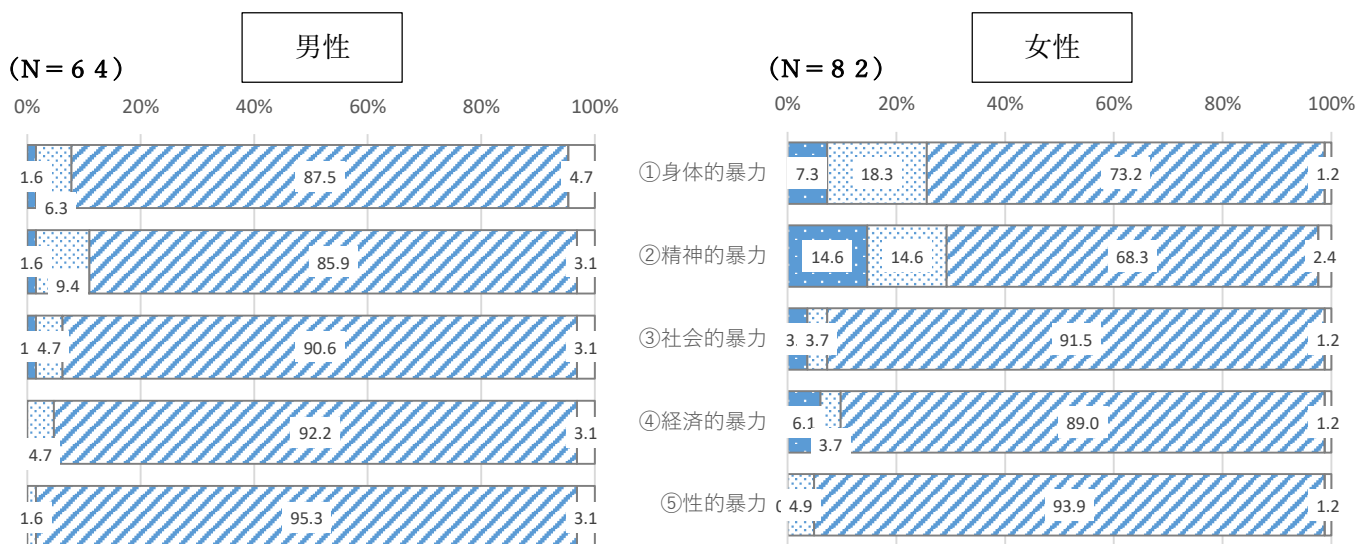


図7-2-2 性別 配偶者や恋人からの暴力の経験



7-3 実際の相談先

【問 17 の①～⑤のうち、1、2 にひとつでも○印をつけた方のお聞きします。】

問 18 あなたはこれまでに、問 17 であげたような配偶者や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

○相談先は「友人、知人」が4割、「家族、親戚」が3割弱となり、他の項目は1割以下と低くなっている。

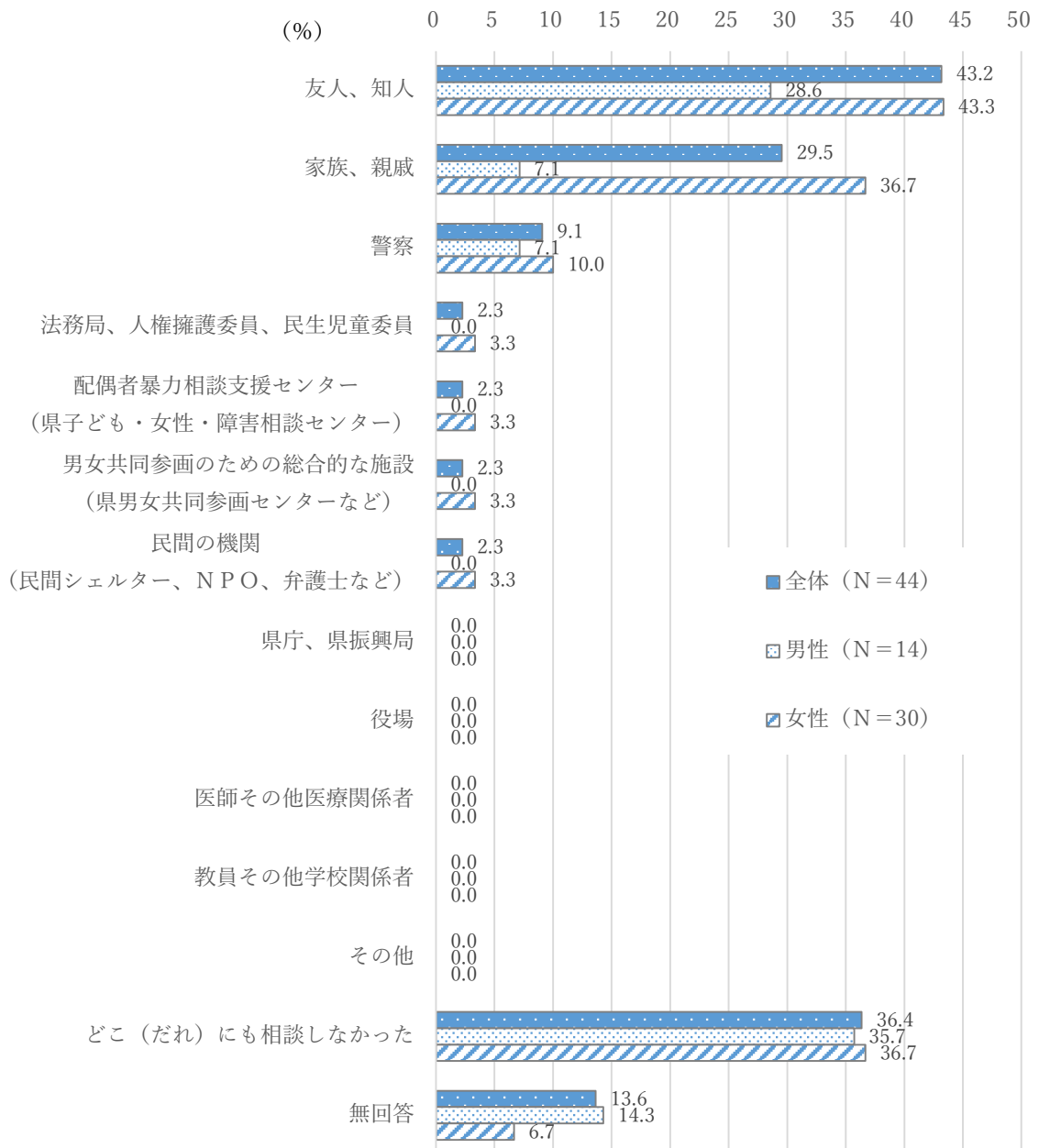
○「どこ(だれ)にも相談しなかった」は3割半ばとなっている。

実際の相談先について、全体では「友人、知人」が43.2%と最も高い。

相談した先の中では「友人、知人」が43.2%、「家族、親戚」が29.5%と、他の項目に比べ高くなっている。

性別では、「家族、親戚」(29.5ポイント差)、「友人、知人」(14.8ポイント差)はともに女性が男性より高くなっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」では、男女で大きな差異は見られなかった。

図7-3 性別 実際の相談先



7-4 相談しなかった理由

【問18で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

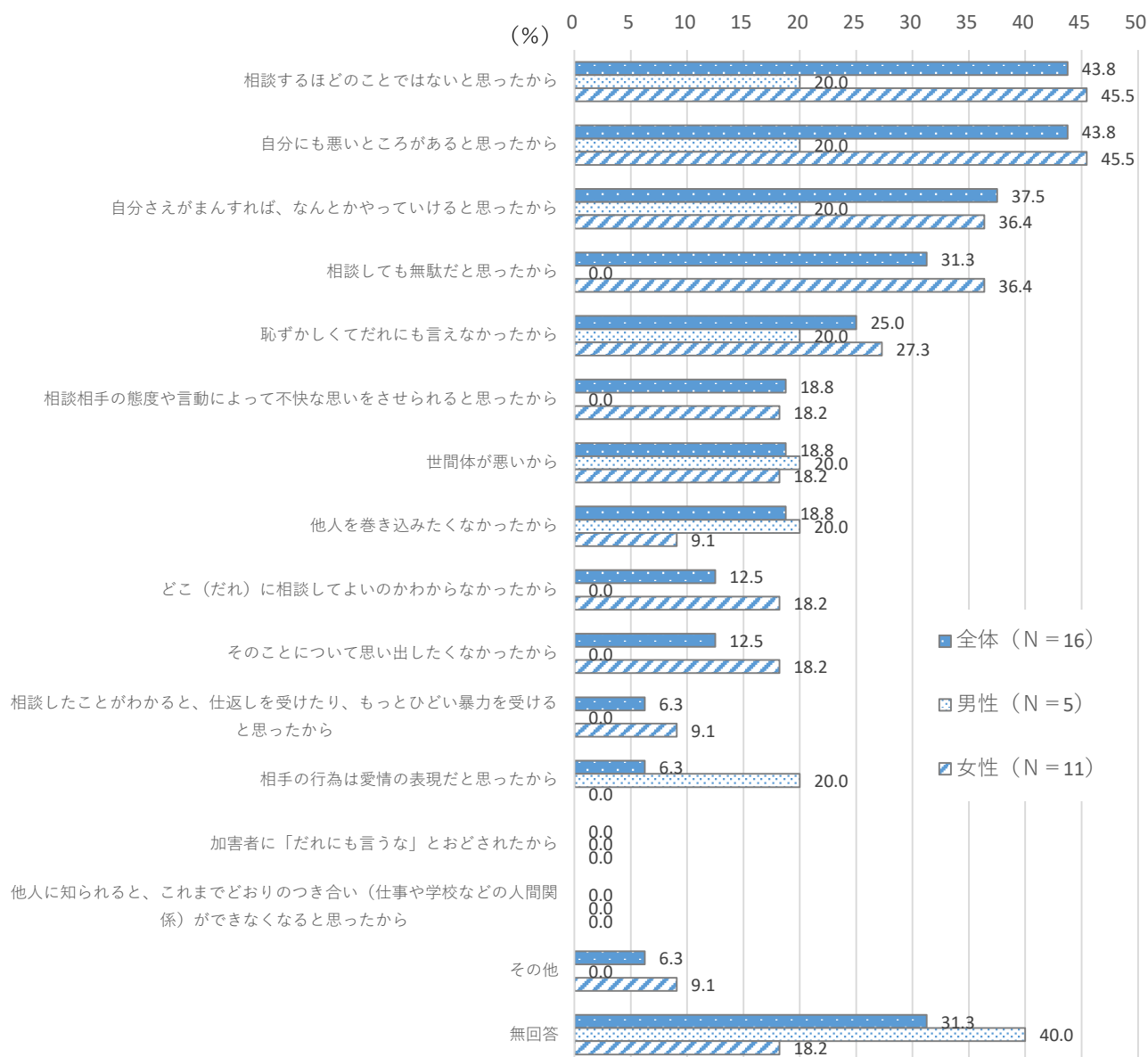
問19 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

- 女性で「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」が4割を超えている。
- 「他人を巻き込みたくなかったから」、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」では、いずれも男性が女性より高く、差がみられた。

相談しなかった理由について、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」が43.8%と最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかやっけていけると思ったから」が37.5%、「相談しても無駄だと思ったから」が31.3%となっている。

性別では、最も差がみられた「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」では男性（20.0%）が女性（0.0%）より20.0ポイント高くなっている。「相談しても無駄だと思ったから」では女性（36.4%）が男性（0.0%）より36.4ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」では、女性（45.5%）が男性（20.0%）より25.5ポイントそれぞれ高くなっている。

図7-4 性別 相談しなかった理由



7-5 実際に求める支援

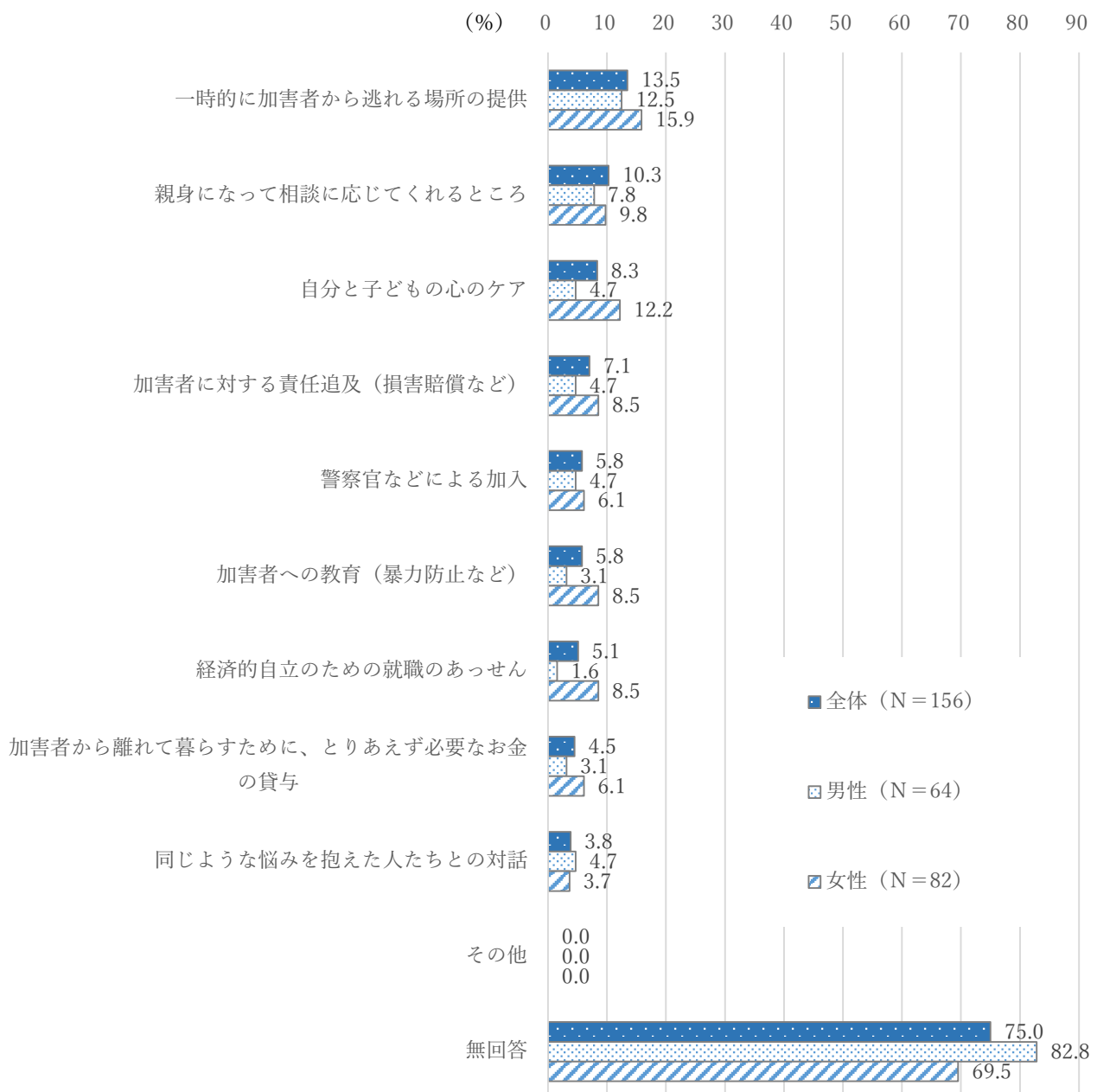
問 20 あなたは、配偶者や恋人から暴力を受けたとき、どのような助けがほしいと思いましたか。
(あてはまるものすべてに○)

○男女ともに「一時的に加害者から逃れる場所の提供」が1割を超え最も高く、次いで「親身になって相談に応じてくれるところ」が1割弱となっている。

実際に求める支援について、全体では「一時的に加害者から逃れる場所の提供」が13.5%と最も高く、次いで「親身になって相談に応じてくれるところ」が10.3%、「自分と子供の心のケア」が8.3%となっている。

性別で見ると最も差がみられた「自分と子どもの心のケア」では、女性（12.2%）が男性（4.7%）より7.5ポイント高くなっている。

図7-5 性別 実際に求める支援



7-6 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

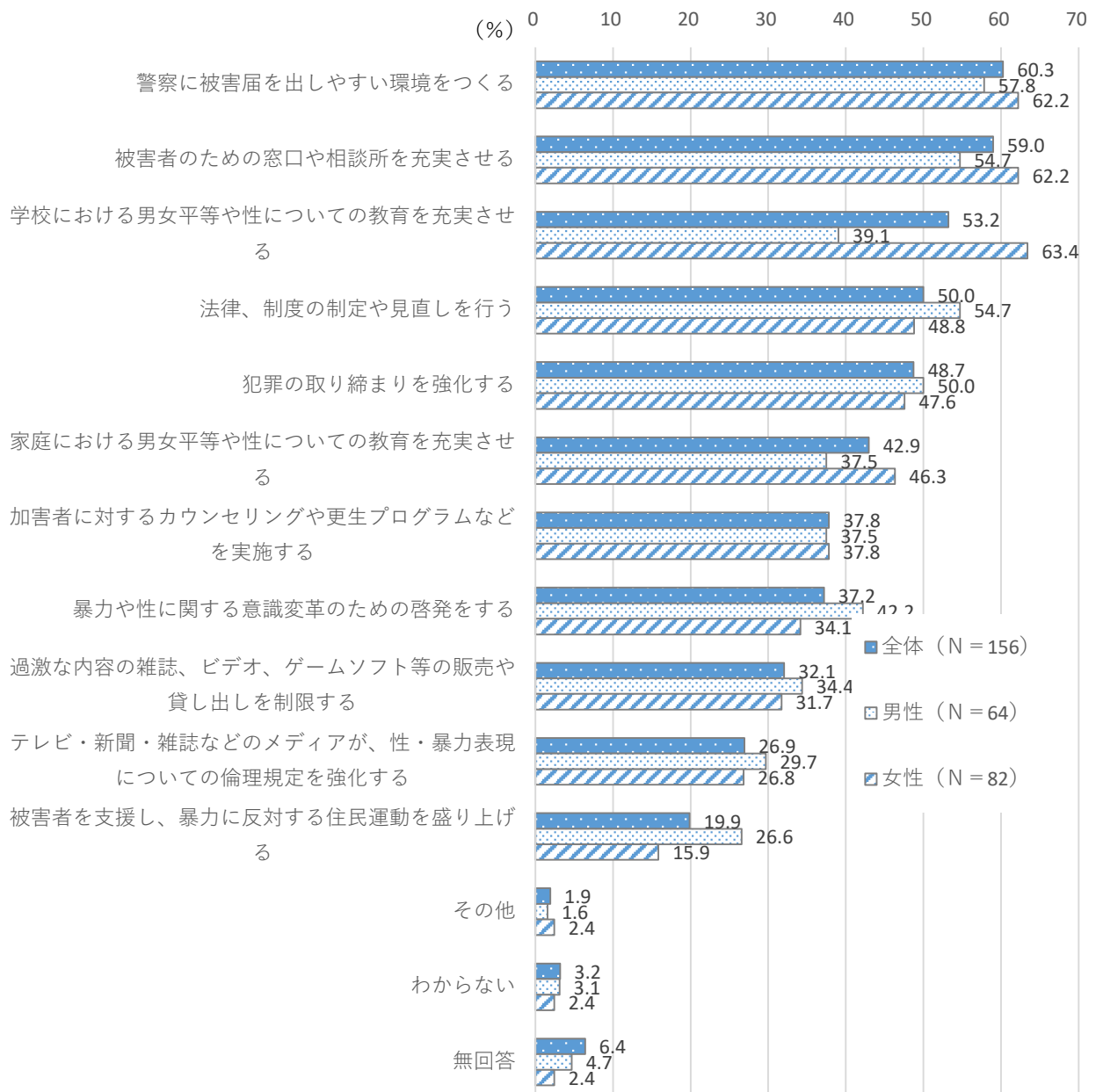
問 21 性犯罪、DV（配偶者等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」は男女ともに6割前後と、最も高くなっている。
- 「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」では、女性が男性より約24ポイント高く、大きな差がみられた。

性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なことについて、全体では「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が60.3%と最も高く、次いで「被害者のための窓口や相談所を充実させる」が59.0%、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」が53.2%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」では、女性（63.4%）が男性（39.1%）より24.4ポイント高くなっている。

図7-6 性別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



8. 男女共同参画施策等について

8-1 男女共同参画の言葉についての認知度

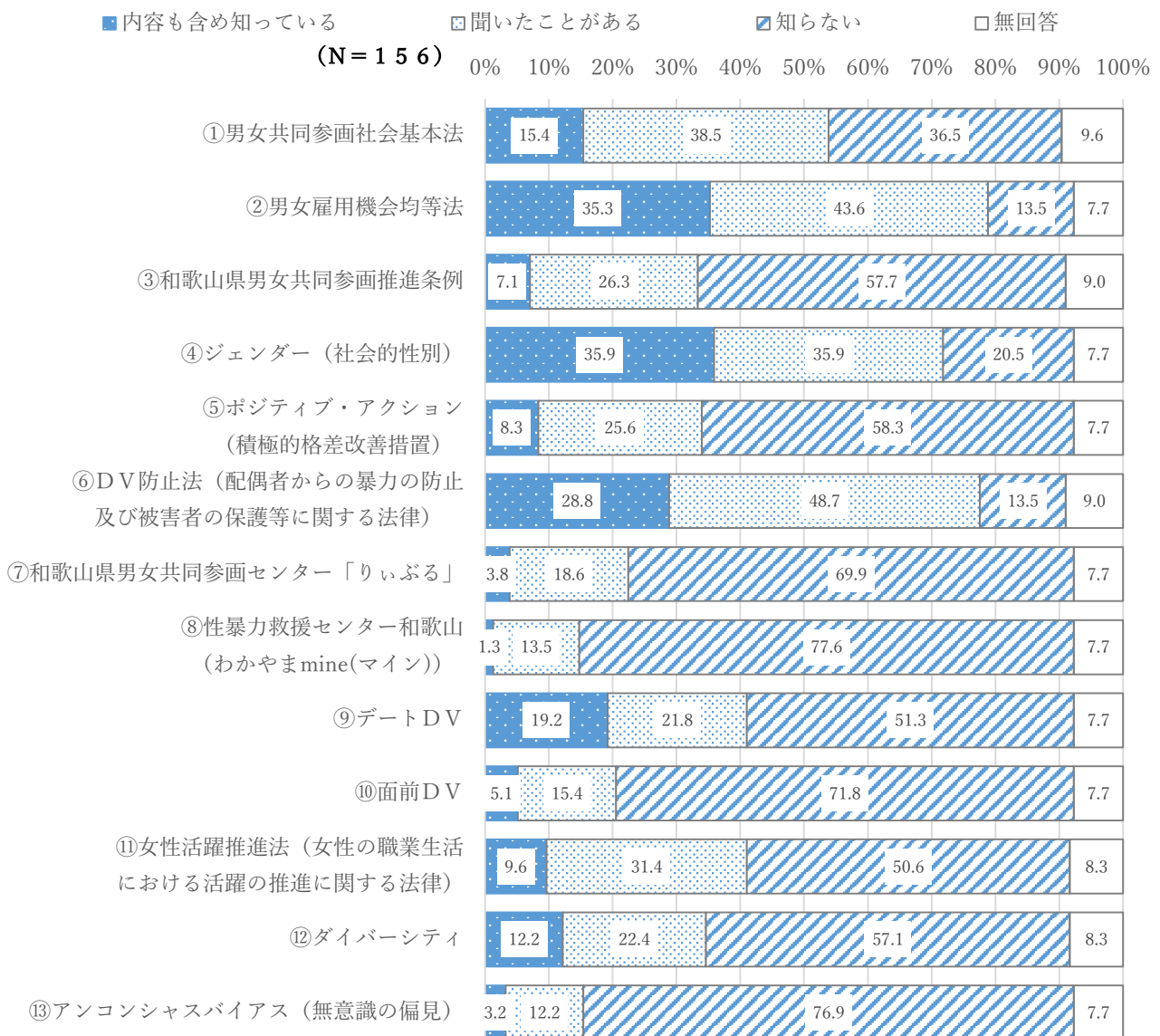
問22 あなたは次の用語を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 『知っている』*は「②男女雇用機会均等法」、「⑥DV防止法」が7割強と高くなっている。
- 「⑧性暴力救援センター和歌山（わかやまmine（マイン）」、「⑩面前DV」、「⑬アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」は「知らない」が7割と高くなっている。
- 男女の認知度に大きな差がみられたのは「④ジェンダー（社会的性別）」で、『知っている』は女性が男性より高くなっている。

※「内容も含めて知っている」と「聞いたことがある」を合わせたもの

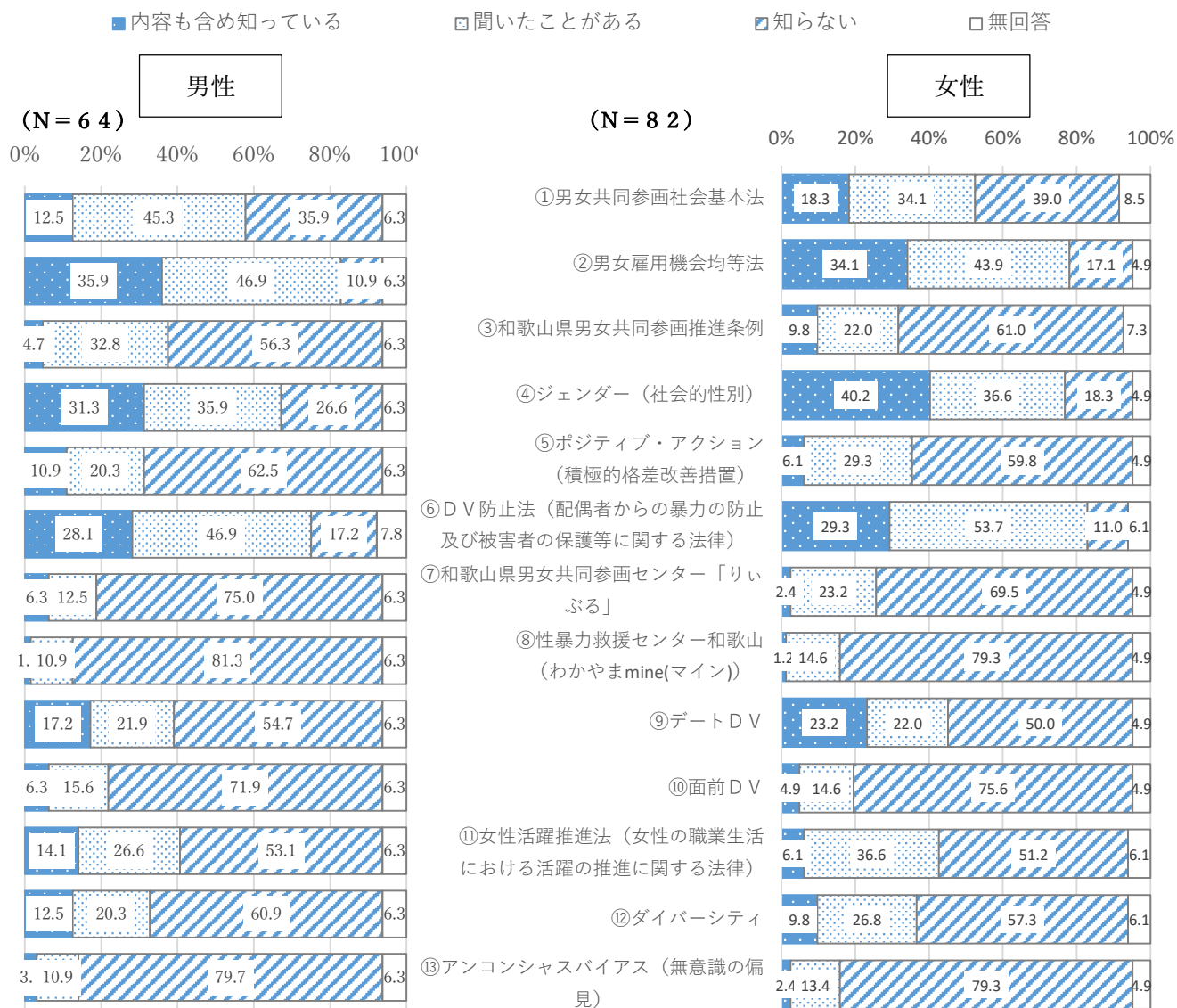
男女共同参画の言葉の認知度について、全体では、『知っている』は「②男女雇用機会均等法」が78.8%と最も高く、次いで「⑥DV防止法」が77.6%、「④ジェンダー」が71.8%となっている。「知らない」は「⑧性暴力救援センター和歌山（わかやまmine（マイン）」、「⑬アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」が7割半ばと、高くなっている。

図8-1-1 男女共同参画の言葉についての認知度



性別で見ると、男女の認知度に最も差がみられたのは「④ジェンダー（社会的性別）」で、女性が男性より9.6ポイント高くなっている。

図8-1-2 性別 男女共同参画の言葉についての認知度



8-2 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

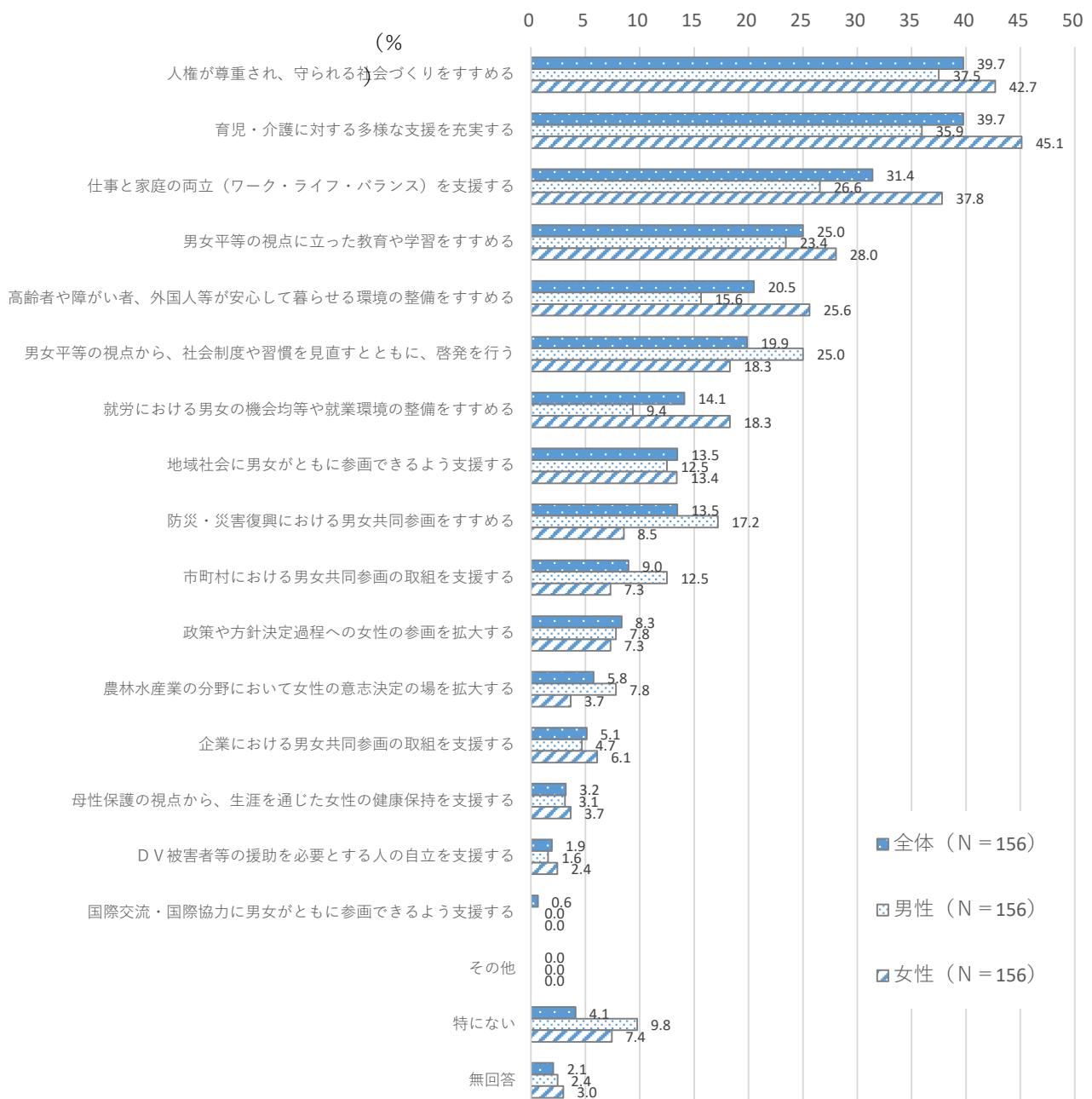
問23 今後、すさみ町で男女共同参画を推進するために、町は特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。（3つまでに○）

- 「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が4割弱と高くなっている。
- 「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」で女性が男性より約11ポイント高く差がみられた。

男女共同参画を推進するために力を入れるべきことについて、全体では「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が39.7%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」が31.4%、「男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる」が25.0%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」では女性（37.8%）が男性（26.6%）より11.2ポイント高くなっている。

図8-2 性別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと



9. 自由意見

子育て・家事・就労についての意見

- ・最近、子ども連れの若いお父さんの姿を見かけるようになりました。何事も夫婦平等に・・・という意識が広まりつつあることがわかります。一方、年齢が高くなるほど昔ながらの考えの方が多いかと。「男のくせに女のくせに」という環境の中で長年過ごした方たちの意識改革は、なかなか難しいことでしょう。やはり、全ての事において幼い頃からの正しい教育（習慣しつけ etc）は最も重要だと思います。

(女性・60歳代)

- ・問12欄に記載 前もっての休業というよりは急な休みに対応してほしい！

(女性・40歳代)

- ・高齢要介護者が入所できる施設がすくないため、日置や田辺の施設入所待ちとなったり、自宅での介護が強いられる女性も多いと感じます。防災避難所等への建設資金も多額だと思いますがイコラなどの有効活用、高齢者施設など優先すべき物があるように思います。また保育所は18時半には閉まりますが田辺へフルタイムで働きに行くと祖父母の迎えに頼らないと難しいです。37.5度以上でも預かってくれる病児保育もすさみにはないので仕事を休まざるを得ません。

(女性・30歳代)

- ・昨今の女性の社会進出が当り前の時代に伴い、女性だからと言う偏見を無くし、男性の育児休暇を取り易く出来る職場環境にして欲しいです。

(男性・60歳代)

- ・女性も働ける場所の提供。子育てしながらでも、気持ちよく働けるような環境。男性でも育児休業、時短勤務を積極的に取れる環境。女性が社会へ出るへのスムーズな環境。子供が保育、見てもらいやすい環境づくり。仕事と家庭の両立を支援できるような施策を考えていただきたいです。また、男性も家事や子育てに協力するのが当り前と思えるよう世間になってほしいです。

(性別年齢共に無回答)

教育・啓発についての意見

- ・教育機関で性教育やジェンダー教育など人間の尊厳にかかわる授業を充実させてほしい

(女性・20歳代)

- ・男女共同参画という言葉の意味を周知徹底

(男性・30歳代)

個人の尊重についての意見

- ・中学校の制服を男女関係なく着られるように（選択できるように）してほしい。（デザインも変えられるなら…）既に選択可能になっていたらすみません。

(女性・30歳代)

- ・人権が尊重され守られる社会づくり、DV被害者の援助を必要とする人の自立を支援する。高齢者が安心して生活できる福祉の充実

(女性・40歳代)

男女共同参画に否定的な意見

- ・様々な団体で男性社会になっていて、男女平等とは言いづらいように思う。国全体が変わっていかねばならないことのように思う。
(男性・70歳代)
- ・男女の体力差のみ考慮されるべき
(男性・60歳代)
- ・人数だけでなく、女性の積極性、行動に期待する
(男性・60歳代)
- ・男女共同参画いまいちわからない
(男性・30歳代)

町政についての意見

- ・役場内の仕事で男女均等に配置されていますか？
(男性・60歳代)
- ・男女共に生活保護又は身体障害者に対してもう少し詳しく調べてから支給すべきである、あまりにも他の市町村に比べて低い気がする。体も元気なのに働く意識がない者、障害者でも無いのにそんなふりする者、年金安いのに生活している者は本当に馬鹿馬鹿しい！！ 共産党が悪いからや
(性別無回答・70歳代)
- ・企業を町へ
(男性・70歳代)
- ・もう少し町会議員に女性が増えて欲しい。細かい所にも気が付くから。町長選にも、女性になって欲しい。時代は一年一年変わってるから、古い考えもいいけど、新しい考えも取り入れていくべきだ。
(女性・40歳代)
- ・若年層の人口を増やす工夫をすべき、そしてその人たちの発想や考え方を男女共同参画に取り入れるべき
(男性・50歳代)